



七隈の杜

第9号
2013年



七隈の杜

2013
第9号

■特集

大規模火山噴火と気候変動
心地よい運動のすすめ

守田 治
桧垣 靖樹

■読書の窓

人生の「師」

桐衣 朝子

■論壇

選ぶこととは —その先にあるもの—
アルツハイマー病に漢方薬は効くのか？

東原 正明
岩崎 克典

■随筆

天神様（菅原道真公）の本質

田坂 順子

■産学官連携

「火山噴火史情報学」を確立する

奥野 充

■ふるさとを想う

札幌の四季

文仙 正俊

FUKUOKA UNIVERSITY

福岡大学

福岡大学

福岡大学の三つのポリシー

福岡大学は、「建学の精神」に基づいた全人教育を目標として、「教育研究の理念」に掲げる三つの共存をはかることによって、真理と自由を追求し、自発的で創造性豊かな人間を育成し、社会の発展に寄与することを使命としています。地域に密着し、地域と融合した総合大学として、コミュニケーションを大切にし、社会から信頼される人材を育成します。

アドミッションポリシー

本学の「建学の精神」を理解した、次のような人々を広く国内外から受け入れます。

1. 考え方がしっかりしており独断や偏見にとらわれない生き方を求める人
2. 温和で包容力がありバランス感覚に優れた能力を身につけたい人
3. 誠実で責任感が強く何事にも屈しない人生をめざす人
4. 新しいこと、困難なことに自ら進んで取り組んで行こうとする人

カリキュラムポリシー

本学の「教育研究の理念」に基づき、すべての学生に提供する「共通教育科目」と、各学部学科に設置する「専門教育科目」の二つを大きな柱とし、それぞれの学部学科の教育目標にあわせたカリキュラムを編成します。また、正課外教育においても、充実した各種教育プログラムを展開し、全教職員で本学学生の人的成長を支援し、全人教育を実現します。

1. 全学に提供する共通教育科目をとおして、専門性にとらわれない幅広い視野と豊かな人間性を持つ人材を育成
2. 各学部学科が設置する専門教育科目をとおして、専門的な知識や技能を高め、社会の進歩や変革に応え得る深い学識を有する人材を育成
3. 様々な教育プログラムをとおして、国際性と地域性を兼ね備えた21世紀に通用する人材を育成

ディプロマポリシー

本学の教育課程においては、厳格な成績評価を行い、所定の単位を修め、次の能力を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与します。

1. 修得した知識・技能・態度により、自らが発見した新たな課題を解決する力
2. 職業生活、社会生活に必要な知的活動を支えるコミュニケーション能力や論理的思考力
3. 自律しながらも他者と協調して行動でき、社会の一員として社会の発展に寄与できる力

建学の精神

思想堅実・穏健中正・質実剛健・積極進取



陸上競技場

教育研究の理念

「人材教育」と「人間教育」の共存
「学部教育」と「総合教育」の共存
「地域性」と「国際性」の共存

福岡大学の教育研究は、「建学の精神」に基づいた全人教育を理想とし、この三つの共存をはかることによって、真理と自由を追求し、自発的で創造性豊かな人間を育成し、社会の発展に寄与することを目的とする。

目次

建学の精神

福岡大学の三つのポリシー

目次 2

糸園和二郎「みかん売り」について / 植野 健造 6

政府の規制政策 / 衛藤 卓也 8

大規模火山噴火と気候変動 / 守田 治 15

心地よい運動のすすめ / 松垣 靖樹 29

人生の「師」 / 桐衣 朝子 39

選ぶことは

—その先にあるもの— / 東原 正明 45

アルツハイマー病に漢方薬は効くのか? / 岩崎 克典 56

天神様 (菅原道真公) の本質 / 田坂 順子 64

人口問題は「率」ではなく「数」で見る / 木下 敏之 70

樹の力、木の力 / 渡辺 浩 75

「火山噴火史情報学」を確立する / 奥野 充 81

6年目を迎えたPET-CT検査 / 桑原 康雄 88

キャンパス風景 93

福岡大学新中央図書館紹介 / 則松 彰文 94

好 / 城 康平 99

人との絆があれば、命が輝く / 鮑 慧 103

国際交流

福岡大学
インフォメーション

産学官連携
福岡大学の医療

随筆

論壇

読書の窓

特集

学長室から

今日のギャラリー

ふるさとを想う

札幌の四季／文仙 正俊 106

みんなの広場

福岡大学筑紫病院・

福岡大学病院で出会った三人の上司たち／樋口 靖子 112

人と人とのつながりー絆ー／今泉 康代 116

魅力ある福岡大学での生活／立石 アルファ裕一 120

見えない真実／荒巻 瞳 125

インターネットとどう付き合つか／讚井 香純 129

地域ネット推進

倭寇的視野とコミュニケーション精神

センターだより

ー歴史から学ぶグローバルな実験としての福岡大学

「福岡・東アジア・地域共生研究所」／星乃 治彦 134

福大生サポート募金 138

福岡リーガルクリニック法律事務所 139

格付け&外部評価 140

福岡大学校歌 141

情報発信 142

今日のギャラリー



糸園和三郎「みかん売り」

油彩・キャンバス、額装、45.2×60.3cm 12号P

制作年不詳 福岡大学所蔵

左下に署名：Itozono

この絵の裏面には、「房総のみかん売り」という作者自身による書き込みがあり、これが本来の画題かもしれないが、額装された作品を納める箱には「みかん売り」と記された貼紙があり、福岡大学に納入された時点で「みかん売り」という画題が定着していたものとみられる。

糸園和三郎（いとぞの・わさぶろう、1911-2001）は、大分県中津市の生まれ。少年時代に骨髄炎を患いながら、絵画一筋に専念した生涯を送った。その作風は、特異な視点から、主題以外のモチーフを大胆に排除し、背景を抽象的な空間として処理、精緻なマティエール（絵肌）を形成しながら、全体にシュールな陰翳と人間味漂う輝きや温もりを併せ持つ独自の絵画世界を特色とする。

糸園和三郎「みかん売り」について

人文学部文化学科教授 植野 健造

この絵の裏面には、「房総のみかん売り」「糸園和三郎」という作者自身による書き込みが認められる。制作年を示す書き込みはない。しかし、1978年に福岡大学に収蔵されているので、制作年もそれと先立つ近い時期、すなわち1970年代としておきたい。

1978年には、北九州市立美術館と大分県立芸術会館で糸園和三郎展が開催されているので、これを機縁とした画家注目の機運の中での収集であったことも考えられる。

画面には、黄色の抽象的な空間を背景として、簡易な日除け雨除け用の屋根のある露店が描かれている。二人の人物が描かれており、向かって右の手ぬぐいで頭を覆って座る人物は婦人と見られるが、左の人物は男性とも女性とも断定し難い。黄色の球状のものが数多く描かれているが、「みかん売り」という画題を知らなければ、それらがミカンとはすぐ

には了解できないのではないだろうか。画面には、少し大きめで明るい黄色のものが見られるが、ハツサクや甘夏なども併せて売っていたのかもしれない。糸園和三郎は、大分県中津市の富裕な呉服商の三男として生まれる。病気のため小学校卒業後の進学を断念する。1927年16歳の年に画家を志して上京。1930年第8回春陽会展と1930年第5回協会展で入選。1931年の第1回独立展に入選、その後1937年の第7回まで独立展に出品。1934年頃からシュルレアリスムの影響を受け始め、1939年に福沢一郎、北脇昇、麻生三郎、寺田政明らとともに美術文化協会の結成に参加。1943年には麻生、寺田、井上長三郎、松本竣介、鬚光、鶴岡政男らとともに新人画会を結成。戦後の1947年、美術文化協会を退き、自由美術協会に参加。1964年からは無所属で制作に専念した。

政府の規制政策

学長 衛藤 卓也

1 補助と規制

中央政府は、大学などの教育・研究機関を含む多くの部門に対してさまざまな政策を遂行している。政府の政策には、その分け方によって、補助政策と規制政策が挙げられる。

補助と規制は、アメとムチの關係に類似しており、補助がアメ、規制がムチに相当すると見なしてよい。高等教育機関としての大学の場合、中央政府の中の「文部科学省」が中心となって補助政策と規制政策を主導している。文部科学省は、平成13（2001）年の省庁再編により文部省から現在の名前に変更さ

れた。

2 補助政策

政府の補助は、政府が大学の教育や研究を推進し後押しするために行う政策である。補助金は最も典型的かつ有効な経済支援策であり、その中核となるのは、国立大学の場合は運営費交付金、私立大学の場合は経常費補助金である。後者の経常費補助金は、一般補助と特別補助に分かれており、その割合は約8・2である。平成23（2011）年からは、補助金の配分が特別補助から一般補助の方に傾斜してき

ているのである。その理由は、①従来の特別補助の対象であった取り組みのうち、大学で通常取り組んでいる一般化したものは、「新たな一般補助」として位置付け、その他の一般的な取り組みは廃止し、また、②政府の「新成長戦略等を踏まえた大学マネジメント改革を伴う組織的な取り組み」を「新たな特別補助」として位置付け支援することにした、からである。

大学の高等教育サービスは、それを受けなければならぬという義務教育サービスとは異なる。志望者が、大学を自由に選択できる非拘束的・選択的サービスである。ただ、高等教育サービスは、学生が直接に受益するという直接効果をもたらすだけでなく、国や地域社会を支え発展させるという大きな間接効果をもたらすのである。つまり、大きなプラスの間接効果を有するため、高等教育サービスにはそれを国家レベルで持続的に維持すべき価値財的な側面があると言えるのである。ここで、価値財(merit

goods)とは、その財が大きなプラスの国家的・社会的価値を有し、そのプラスの価値を実現するためにはその財（教育サービス）の消費を促進するのが望ましいと考えられる財である。要するに、高等教育サービスの供給に対して国が補助する本質的な根拠は、高等教育サービスが価値財的側面を有することにあると考えるのである。わが国の大学に対する政府補助は他の先進国と比べて貧弱であり、積極的な教育投資拡充策が望まれるところである。

3 規制政策

(1) 規制の種類

規制は、「量的規制」と「質的規制」に大別される。量的規制は、経済的規制と言ってよいもので、需要と供給の關係で見ると、ある財の供給量と需要量を調節し、需給の均衡状態を保つことを意図したものの（需給調整規制）である。ここで、もし「強い量の規制」にすれば、供給量が需要量と均衡するよう

に参入規制を厳格にしなければならぬし、「弱い量的規制」にすれば、供給量と需要量が市場の中で自然に調節されるように、参入規制を緩和し参入を容易にしなければならぬ。要するに、規制を強くする場合には「事前規制方式」（事前に参入を認めるかどうかを厳正にチェックする）が、規制を弱くする場合には「事後チェック方式」（参入を緩和し、その結果をチェックする）が必要となるのである。

質的規制は、消費者や労働者の安全や健康の確保、公衆衛生、環境保全、災害防止、不正や法令違反の防止などの目的のために、審査・監督・監視などの政策を講じるもので、さまざまな基準を設けてその基準を超える場合には厳格に取り締まるものである。

(2) 量的規制の緩和

(イ) 規制緩和の潮流

量的規制の側面では、あらゆる産業・事業部門で「強い規制」から「弱い規制」に大きなパラダイム・

シフト (paradigm shift・枠組みの転換) が進んできた。そして、こうした規制緩和 (deregulation) の大きな流れないし動きをビッグバン (big ban・大爆発) という表現で表わすようになった。規制緩和政策は、基本的には、供給サイドよりも需要サイドの利益を重視する消費者重視型の政策である。もちろん、これまでの厳格な規制が緩和され新規参入が容易になったといっても、量的規制がなくなるわけではないことに注意しておく必要がある。

わが国でも、多くの産業・事業部門において規制緩和が推進され、市場重視型の経済構造に転換してきた。大学部門においても量的規制の緩和（大学設置基準の緩和）が推進され、新規参入によって4年制の大学数が大幅に増え、現在780校を超える状況となっている。

以下で、規制緩和政策の代表的な歴史的事例を取り上げる。

(ロ) サッチャリズム、レーガノミクス、行政改革

① サッチャリズム

イギリスのサッチャー保守党政権（1979年～1980年）は、当時「英国病」といわれた経済を立て直すため、幾つかの経済政策を打ち出し実行に移した。サッチャー首相の経済政策のことをサッチャリズム (Thatcherism) と言う。当時、インフレと不況の同時進行（スタグフレーション）の下で大量の失業者を抱えていたイギリス経済を立て直す政策手段として、サッチャー政権は引き締め基調の財政・金融政策を採用したが、財政政策においては政府の支出削減を図るチープ・ガバメント（小さな政府）政策を採用した。さらに、規制緩和政策によって競争を促進し、競争市場のもとでイギリス産業の再活性化を図ることにした。つまり、民営化路線と規制緩和路線を一貫して推進したのである。

② レーガノミクス

アメリカのレーガン共和党政権（1981年

～1989年）は、競争的なアメリカを強く志向する規制緩和政策を推進した。英国病と同じような劣悪な状況下で誕生したレーガン政権は、サッチャー政権と同じ政策スタンスを取り、チープ・ガバメント政策によって民間企業の活力を引き出し、経済の再生を図る市場重視型の活性化策を打ち出したのである。レーガン大統領の経済政策は、レーガノミクス (Reganomics) として知られるが、彼においても規制緩和による競争促進政策を次々と実行に移し、大きな潮流となっているのである。

③ 行政改革

わが国の規制緩和は「行政改革」という名のもとで推進されてきた。昭和56（1981）年、鈴木内閣の時に、第2次臨時行政調査会（いわゆる「臨調」、土光敏夫会長）が設置され、臨調は抜本的な行政改革案の策定に着手したのである。全部で5回の答申案をまとめ、さまざまな分野に

ついで大胆な提言を行った。第3次答申では、国鉄の分割・民営化を打ち出し、提言が実行に移されたことは周知のことである。過度の行政依存体質を改め、自己責任原則を徹底するため規制緩和政策が不可欠であるとし、それはわが国の行政改革の一環として大きな政策的位置付けを付与されたのである。規制緩和政策をさらに継続して推進していくため、臨調解散後も新たな検討組織が設置されていき、現在でも審議が継続中である。

(ハ)大学の規制緩和

大学部門に対してもまた規制緩和政策が導入され、近年では大学数が大幅に増加し、780校を越すまでになっている。大学を設置することが比較的容易となり、ここ20年間で新規参入が多く見られるようになったからである。その始まりは、平成3（1991）年、当時の文部省が「大学設置基準の大綱化」により、自由化の方向に舵を切り、設置規制の緩和を行ったことにさかのぼる。

である。大学数は多過ぎるのかについて、進学率の推移、大学の規模の違い（総合大学、単科大学などの相違）、地域の事情・特性、市場原理（競争原理）への見方など、多面的な視点から見極めていく必要がある。

(3)質的規制の強化

量的規制に対して質的規制の方は強化されてきていると言える。成熟社会の中では、不正常的事態が起らないように、また責任ある行動を取るよう、社会の目が厳しくなってきた。あらゆる組織体に対して法令遵守（コンプライアンス）や説明責任（アカウントビリティ）、情報公開（ディスクロージャー）が強く求められているのである。大学部門に対しても、政府は、各大学が正常で適正な運営・活動を行うことよって社会的責任を果たすことを要請している。例えば、法律によって認証評価を受ける義務（自己点検・評価の実施と結果公表の義務化、「学校教育法」を課したり、事業報告の作成を

「強い量的規制」から「弱い量的規制」への転換が図られたのである。

このような「弱い量的規制」下のもと、現在、大学の設置については、文部科学省の諮問機関である「大学設置・学校法人審議会」が学校教育法や大学設置基準などに基づき審査を行い、認可・不認可を文部科学大臣に答申するようになってきている。もちろん、規制下の環境にあることに変わりはない。昨年（平成24年）の11月、審議会答申で認可が進言された3つの大学の新設を、田中文字部科学大臣が認めない決定を下し、その直後に一転して認可を行ったが、この件は、わが国の大学数が多過ぎて質の低下が懸念されるのでこれ以上増やさない方が望ましいとする考え方が発端になったのである。量的規制の緩和に対していったんは歯止めがかかった事例であり、今後、量的規制についてどのように考え、規制緩和政策をどのように進めていくのかに対する問題提起にもなったのである。

義務付けたりしている（「私立学校法」）。要するに、各大学に対して責任ある「体制」（システム）と「行動」を取るように政策措置を講じているのである。従って、各大学とも、前述した量的規制の緩和による競争圧力に加え、質的規制の強化による政策圧力に対峙しながら環境適応行動を進めているのである。

4 最後に

以上、政府の規制政策の枠組みとその中身について述べてきた。最後に、規制政策について考えるべき2つの点を指摘しておきたい。

第1点は、規制政策を講じる場合、規制を加える側と規制を受ける側の両方に対して「規制のコスト」(regulation cost)が発生することである。例えば、規制サイドにおいては、規制政策を遂行するための審査、監督、監視などの業務の費用、さらにその業務を行う職員の人件費などが必要となり、被規制サイドにとっては、規制政策に対応するため多

額の業務費や人件費が掛かってくるのである。量的規制、質的規制のいずれの場合にも、規制が強化されればされるほど、規制のコストが積み上がっていきと予測されるのである。

第2点は、前述したように、規制政策はムチに当たると述べたが、それが逆に「保護」を意味する場合があることである。例えば、ある部門で量的規制を弱くする、つまり規制緩和をすると、次のようなことが起こり得る。規制緩和によって参入が急増すれば供給過剰となるが、これは競争の激化ないし過当競争を引き起こす。競争が熾烈しれつになると事業者(ないし大学)の収益が圧迫され、事業の存続に危険信号がともることになる。そこで、供給過剰と過当競争を抑制するための量的規制を強化すれば、事業者の収益リスクを回避することができ、事業者の集団利益が守られ、経営の安定が保証されることになる。供給サイドの利益が守られることになるため、事業者はむしろ政府に規制の強化を働き掛ける行動に出

ることになる。こうした事業者の行動をレント・シーキング (rent seeking : 利益を追求すること) という。こうして、量的規制は、事業者に有利な「保護」を意味することになるのである。

大学のような教育機関では、教育サービスが大きな社会的価値(国や地域を支える人材を育てるという大きな間接効果)をもたらすので、それを「市場」に完全に委ねることは望ましくない。大きな地域的役割を果たし、地域社会の文化的拠点となる大学の教育サービスを支えるためには、「補助政策」と、ムチだけでなくアメ(保護)の側面を併せ持つ「規制政策」が効果的に組み合わせられ、実施される必要がある。

大規模火山噴火と

気候変動

環境未来オフィス教授

守田 治

1 はじめに

記憶している方々も多いと思いますが、1993年はまさに異常気象の名に相応しい年でした。日本列島では梅雨明けを迎えることがなかったため、本格的な夏の訪れもありませんでした。気象庁は一度発表していた梅雨明け宣言を取り消し、次の年から「梅雨入り」「梅雨明け」宣言を取りやめました。鹿児島市では年降水量が4022.0mmを記録し、8月6日の豪雨では江戸時代に築かれた五石橋のう

ち新上橋と武之橋が流失しました。図1に1993年の月別降水量を示します。例年南九州では6月初めに梅雨入りし7月中頃梅雨が明けるので、月降水量は6月が最大で7月は降水量が減少します。ところがこの年は7月の降水量が最大(1054.5mm)で、梅雨の雨は8月と9月も続きました。6月から9月の4カ月の降水量は2991.0mmに達し、平年(1971年~2000年の平均値)の年降水量2279.0mmをはるかに超えています。これは梅

ミズーリ川とミシシッピ川の合流点にあるジョージズ合流点州立公園には、1993年大氾濫の記念碑が建てられています。国旗掲揚のポールの先端は水面から13・6mの高さにあり、氾濫時その高さまで水が来たことを示しています。この年のミシシッピ川大氾濫は150年に一度、あるいは500年に一度の現象だと言われました。私は、このような

噴煙指数と等しい値であったことです。東北・北海道の米作は壊滅的な打撃を受け、米不足のため東南アジアから米を緊急輸入しました。もしも物流がなければ、天明の大飢饉を上回る餓死者が出たであろうことは想像に難くありません。異常気象はアメリカ合衆国でも起こりました。降り続く長雨のためミシシッピ川が大氾濫を起こし、セントルイスは水浸しになりました。図2aはランドサット衛星から撮影した2002年9月のセントルイス付近のミシシッピ川の流路、図2bは1993年9月の流路です。

雨前線が6月から9月まで日本南岸に停滞し、秋霖前線に移行したためです。図1には1905年の月別降水量も記入していますが、この年の年降水量は3550・6mmで第2位の記録でした。興味深いことは、1902年には中南米で3つの火山(ペレー、スーリエール、サンタ・マリア)が相次いで噴火し、火山噴煙指数(後述)の合計がピナツポの火山

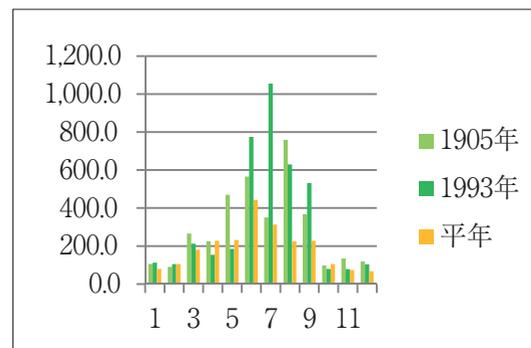


図1 鹿児島における1993年の月別降水量
年降水量は4,022.0mm。比較のため1905年(3,550.6mm)と平年(2,279.0mm)の月別降水量を示す。横軸は月、縦軸は降水量(mm)。

2 放射平衡と放射平衡温度の揺らぎ
1年間平均し地球全体で平均した温度は、太陽から地球に入射するエネルギーと地球が宇宙空間に放

長周期の現象が気系内、あるいは大気-海洋系内の変動とは考えにくく、何らかの外的な要因、すなわち1991年6月15日のピナツポ火山の影響ではないかと考えました。1990年から1993年まで4年間の直達日射量(地球大気による散乱光と反射光を除いた、太陽光球面から地表に達する太陽放射エネルギー)を調べると、1990年と比べ1992年は約10%、1993年は数%減少していました。これはピナツポ起源の硫酸エアロゾル(大気中に浮遊する固体や液体微粒子)のためでした。ただし、直達日射量は減少しますが、逆に散乱光は増加するため、直達日射量10%の減少は太陽入射エネルギー3%の減少にとどまることに注意せねばなりません。



図2b 1993年8月19日、大氾濫時のミシシッピ川の流路



図2a 1991年8月14日、ランドサット衛星から撮影したミシシッピ川の流路
中央部赤く映っているのはセントルイス。市北西部でイリノイ川とミシシッピ川が合流し、市東部でミズーリ川とミシシッピ川が合流している。

射する赤外線エネルギーのバランスで決まります。年平均し全地球表面で平均した太陽入射エネルギーは 343 W/m^2 (ワット/平方メートル) ですが、その総てが地球-大気系に吸収されるわけではなく、約30%が宇宙空間に反射されます。その反射率をアルベド(惑星反射率)と言い、惑星や衛星に固有の値です。地球のアルベドの66%は雲が担っています。金星は厚い雲に覆われていて、そのアルベドは0.7です。金星は別名「宵の明星」とか「明けの明星」と呼ばれますが、明るく輝いて見えるのは地球から近くにあることと、高いアルベドのためです。

一方、物体の表面温度と物体が放射するエネルギーの間にはステファン-ボルツマンの法則が成り立っています。放射平衡とステファン-ボルツマンの法則から地球の平均温度を求めるとマイナス18℃になり、この温度を放射平衡温度と言います。観測によると地表付近の平均温度は約15℃ですが、これは地球大気中に含まれる温室効果ガスが大気下層に

山爆発指数があります。気候に関係するのは前者で、光学現象、太陽放射量の測定、気温、噴火量、絵画、文献などから総合的に評価します。最大値は1、00で、1883年8月26日のインドネシア・クラカタウの大噴火が基準になっています。クラカタウの噴煙は高度40kmに達し、爆発音はインド洋のロドリゲス島まで届き、津波は日本でも観測されました。成層圏に注入された多量の二酸化硫黄は大気中の水酸基と統発的に反応して硫酸の霧となり数年間成層圏に滞留しました。硫酸の霧によって太陽光が散乱され世界各地で異様に赤い夕焼けが観測されました。エドヴァルト・ムンクの叫び(図3)は1893年の作品ですが、それに前後する一連の作品には、血のように真っ赤な夕焼けと、それと対照的なフィヨルドの青黒い海が描かれています。常ならぬ異様な赤さの夕焼けがムンクの心の不安をかき立て、一連の絵画の制作動機になったのだとムンク自身が書き残しています。火山噴煙指数を決定する要素の一つ

熱をため込むためです。放射平衡温度の式から、太陽入射エネルギーやアルベドが1%揺らぐと放射平衡温度は0.6℃変動することが分かります。

ピナツボ噴火後、アルベドは3%減少しましたから、放射平衡温度2℃の低下に相当します。僅か2℃の温度低下などさほど大きな気温低下ではないと思う方も多いでしょう。しかしながら、1993年夏の日本の平均気温は平年より約2℃低いだけでした。僅か2℃の気温低下が東北・北海道の米作に大打撃を与え得るのです。

1節と2節で述べたことから、私は1993年の冷夏はピナツボ火山の噴火が原因だと考え、『8・6豪雨災害報告書』(1994年)の中で述べました。しかしながら、研究を進めていく中で私の予想は半ば正しく半ば誤りであることが分かりました。

3 火山噴火規模の指数

火山噴火の規模を示す指数に、火山噴煙指数と火

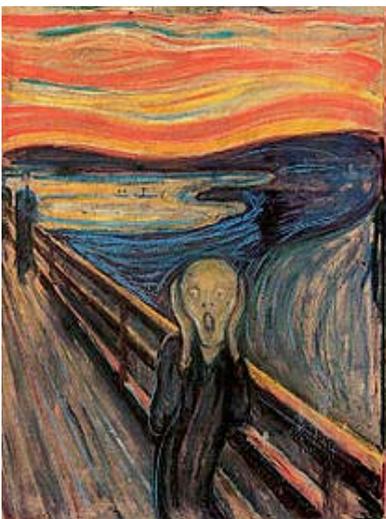


図3 ムンクの「叫び」(1893年)

に気温がありますが、この指数で気候変動を論じるのは自己撞着ではないかという批判があります。この批判は正鵠を射たものではありませんが、人工衛星などによる硫酸エアロゾル量や光学的深さの客観的観測がないときの火山噴火の気候に対する影響を評価するには、火山噴煙指数に依拠するしかないのも事実です。

もう一つの指数、火山爆発指数は火山の噴出物(火山灰、火山弾、火砕流など)の総量(ただし、キラ

その観測期間中にピナツボ火山が噴火しました。このため、1世紀に一度くらいの頻度でしか起こらない大規模火山噴火による硫酸エアロゾルの時間変化や、空間的な広がりを詳細に観測することができ、その後の研究に貴重な基礎データを提供しました。図5にピナツボ噴火前と噴火後の1,020 nmの波

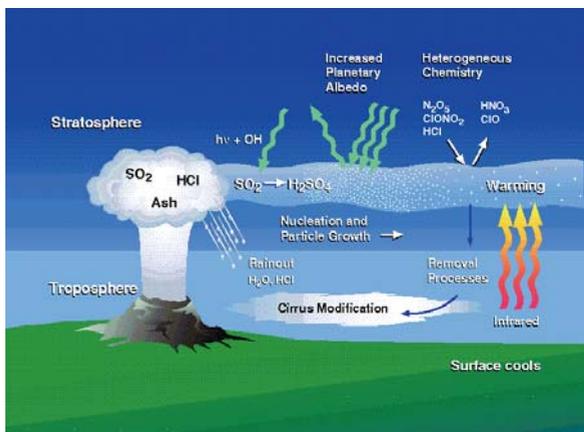


図4 火山噴火の影響
二酸化硫黄(SO₂)と2個の水酸基(OH)が反応して硫酸(H₂SO₄)になる。硫酸エアロゾルは太陽光線を反射・吸収し地表を冷やす。一方、地表からの赤外線を吸収して地表を温める温室効果もある(NASAのウェブサイトより)。

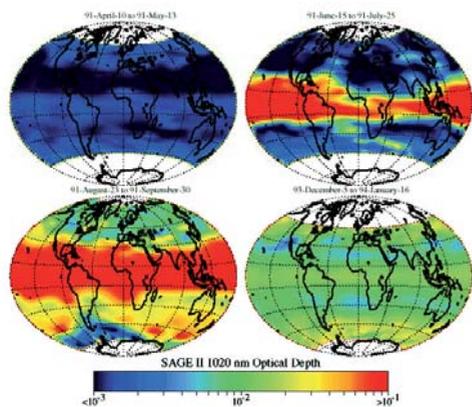


図5 光学的深さの全球分布
左上は1991年4月10日～5月13日、右上は1991年6月15日～7月25日、左下は1991年8月23日～9月30日、右下は1993年12月5日～1994年1月16日(NASAのウェブサイトより)。

例長に対する光学的深さの全球分布を示します。噴火直後、硫酸エアロゾルは東西方向に拡がり、噴火後2カ月には早くも両半球の高緯度帯へと拡がっていった様子が分かります。衛星観測に基づく見積りによると、噴火によって放出された二酸化硫黄の量は20～30メガトンという膨大な量でした。ピナツボ火山のように低緯度にある火山が放出する硫酸エアロゾルは両半球に拡がるのが知られています。

ウエア火山のように静かに流れる溶岩流は含まれない)で評価し0から8までの9段階に分かれています。クラカタウやピナツボの噴火は6、阿蘇山や始良カルデラの噴火は7、イエローストーンやトバ湖の噴火は8となっています。2つの指数は必ずしも比例するものではありません。格好の例が1980年のセント・ヘレンズ山の噴火です。火山爆発指数は5という大規模爆発でしたが、火山噴煙指数は100に満たないものでした。これは火山噴火が山体の側面で起こったために、二酸化硫黄が成層圏にほとんど注入されなかったためです。

4 火山噴火による硫酸エアロゾルの生成とその影響

2010年4月、アイスランドのエイヤフィヤトラヨークトル山が噴火し、噴煙のためヨーロッパの多くの空港が閉鎖されたことは記憶に新しい出来事です。固形噴火物は目視できますし、社会生活に多大な影響を与えますが、大気中の火山灰量は約1カ

月で3分の1に減少しますので、その影響は短期的で気候に対してはほとんど影響を与えません。気候に影響を及ぼすのは火山ガス中の二酸化硫黄で、特に成層圏に注入された二酸化硫黄は大気中の水酸基と反応して硫酸エアロゾルを生成し、噴火後数年にわたって成層圏に滞留します(1年間で3分の1に減少する程度です)。図4に火山性硫酸エアロゾルが生成される化学反応と気候への影響の様子を示します。

硫酸エアロゾルは地球のアルベドを増して地表を冷却する効果がありますが、一方で温室効果も有しています。温室効果は特に冬半球高緯度地帯で顕著で、地表を温めます。この相異なる2つの効果は、対流圏における火山噴火の影響評価を難しくしている要因の一つです。

1984年にNASAが打ち上げた、SAGE II(成層圏エアロゾル・ガス実験計画II)極軌道衛星が成層圏エアロゾルや光学的深さを観測していて、

えば、1815年に大爆発を起こしたインドネシア・タンボラ火山（火山爆発指数7）起源の硫酸は南極とグリーンランドの氷床に痕跡が認められるのに対し、高緯度にある火山噴火の場合は、硫酸エアロゾルの拡がりには半球に限られます。天明の大飢饉の原因になったアイスランド・ラキ火山の噴火の影響は、北半球に限られた現象であったことが知られています。

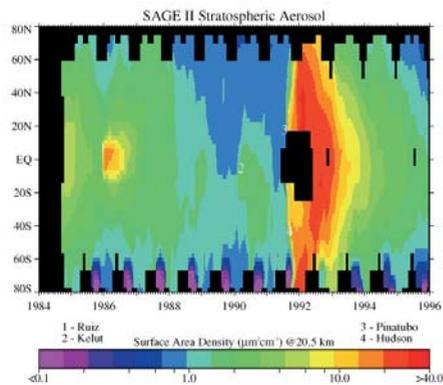


図6 地上20.5kmにおける硫酸エアロゾル量の時間・緯度断面
観測期間は1984年11月～1996年12月(NASAのウェブサイトより)。

図6にSAGE II衛星で観測した、地上20.5kmにおける硫酸エアロゾル量の時間・緯度断面を示します。観測期間内に噴火したネバド・デル・ルイス、ケルト、ハドソンの噴火規模と比べると、ピナツポの噴火規模の大きさがよく分かります。硫酸エアロゾル量は噴火直後から急速に増加して7カ月後にピークに達し、その後は指数関数的に減少していき

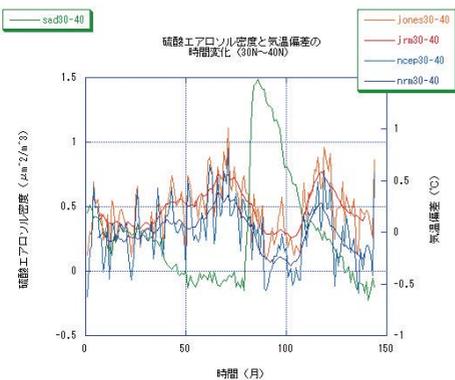


図7 北緯30度～40度緯度帯における硫酸エアロゾル量と気温偏差の時間変化

色実線)の時間変化の詳細を図7に示します。実測データに基づく気温偏差(青色実線)と数値モデルの気温偏差(赤色実線)も記入しています。後に研究を進めていく中で明らかになった重要な結果の一つですが、ある緯度帯の気温低下の極大は、太陽高度が最大になる月の1～2カ月後に起こります。この時間的な遅れは地表の熱慣性によるものです。太陽高度が最高になる夏至から、およそ1カ月後に地表の年最高気温が表れるのもこのためです。ピナツポ火山の噴火は北半球の初夏に起こったので、噴火から7カ月後の真冬に硫酸エアロゾル密度が最大になり、その年の真夏に硫酸エアロゾルの気温低下効果が最大になりました。もしも、噴火が冬に起こったならば、その影響は半年後の夏に最大になるはずですが。このように噴火の時期によって影響の出るまでの期間に相違があることもまた、火山噴火の気候への影響評価を難しくしている要因の一つです。

5 因果律解析と相関解析
1990年代初め、東京大学の岡部靖憲教授と滋賀大学の中野祐治教授は因果律解析という時系列データ解析法を開発しました。この解析法は、2つの時系列データの一方が他方に影響を及ぼしているかを判定するものです。また、第3の時系列データが他の時系列データに影響を及ぼしているとき、その影響を取り去ることができます。
私は中野先生と共同して、因果律解析と相関解析を用いて、ピナツポ火山噴火の解析を行いました。使用した時系列データはいずれも月平均データで、SAGE IIによる硫酸エアロゾル密度(期間:1985年1月～1996年12月、領域:北緯20度～50度の10度毎の東西平均値)、数値モデルによる地表(1,000 hPa面)気温データ(期間:1980年1月～2000年12月、領域:北緯20度～50度、緯度方向2.5度毎、経度方向2.5度毎の格子点)、エルニーニョ・南方振動の指標として南方振動指数

表1 硫酸エアロゾルと地表気温のラグ相関係数とラグ (単位は月)
第4列は硫酸エアロゾルが地表に及ぼす影響の因果値。

緯度	相関係数	遅延(月)	因果値
50.0N	-0.34263	8	88.50%
47.5N	-0.37238	8	89.90%
45.0N	-0.38929	7	91.70%
42.5N	-0.35962	7	86.20%
40.0N	-0.46020	8	82.20%
37.5N	-0.42984	7	91.60%
35.0N	-0.47768	5	96.90%
32.5N	-0.46903	5	95.40%
30.0N	-0.48260	3	97.00%
27.5N	-0.49784	2	98.20%
25.0N	-0.44617	1	93.40%
22.5N	-0.36435	-2	79.20%
20.0N	-0.31284	-2	64.50%

表2 表1と同じ
ただし、気温偏差データはエルニーニョ・南方振動の影響を取り除いたものを用いた。

緯度	相関係数	遅延(月)	因果値
50.0N	-0.23977	8	67.80%
47.5N	-0.26233	8	65.10%
45.0N	-0.26907	8	64.60%
42.5N	-0.23008	8	49.10%
40.0N	-0.22586	8	55.10%
37.5N	-0.27804	7	62.80%
35.0N	-0.32972	5	72.50%
32.5N	-0.32852	5	64.30%
30.0N	-0.36384	3	77.00%
27.5N	-0.40220	2	84.90%
25.0N	-0.40659	1	86.10%
22.5N	-0.39042	1	89.30%
20.0N	-0.39297	1	89.30%

高緯度に行くのに従って増えていきますが、単調に増加しているのではなく所々に遅延時間の乱れが見られます。また北緯20・0度と22・5度では遅延時間がマイナス2カ月になっていて、気温偏差の変化の方が硫酸エアロゾルの変化に先行するという、不合理的な結果になっています。因果律解析については、因果値が90%を超えると因果関係があると定義し、95%を超えると強い因果関係があると定義しています。2・3の例外はあるものの、相関係数と因果値との間には合理的な対応関係があります。

次に、気温偏差データからエルニーニョ・南方振動の影響を取り除いたデータで同様の解析を行いました。結果を表2に示します。相関係数はほぼ低緯度から高緯度に向かって減少しています。また、遅延時間も低緯度から高緯度に向かって単調に減少しています。

硫酸エアロゾル密度が最大になるのは1992年1月ですから、季節進行に伴って太陽高度が増すに

(期間…1985年1月～1996年12月)の3つです。気温データは各格子点で全期間のデータの月別平均値を求めて、元の気温データから平均値を差し引いた偏差データに加工し、各緯度円毎に東西方向に平均を取りました。こうすることによって、季節進行に伴う気温変化を取り除きました。さらに、気温偏差データからエルニーニョ・南方振動の影響を取り除いたデータも作成しました。

表1と表2に結果を示します。表1では硫酸エアロゾル密度の時系列データと気温偏差(エルニーニョ・南方振動の影響を取り除いていないもの)の時系列データについてラグ相関を取った結果と、因果律解析の結果を示します。両者の間には負の相関があり、特に北緯27・5度～35・0度の間で強い負の相関があることが分かりました。遅延時間の単位は月で、硫酸エアロゾルの変化から気温偏差の変化がどのくらい遅れたら両者が最もよく重なるかということを示しています。遅延時間は概ね低緯度から

つれ、気温降下領域が高緯度へ移っていった様子が分かります。因果値については、2・3の例外はありますが、相関係数との間に合理的な対応関係が見られます。

6 まとめ

前節の結果から幾つかの重要な結論が導けます。

- (1)ピナツボ火山噴火後の北緯20度～北緯50度の気温降下には火山起源の硫酸エアロゾル密度とエルニーニョ・南方振動が強い影響を及ぼしている。
- (2)低緯度(北緯20・0度～22・5度)では両者は相殺するように働き、中・高緯度(北緯25・0度～50・0度)では協動的に働いて気温を降下させる。
- (3)火山噴火単独の気温降下は低緯度ほど大きい。
- (4)火山噴火後の緯度において太陽高度が最大になってから2・3カ月後に起こる。

大規模な火山噴火が起こると、火山性硫酸エアロ

ゾルの霧が下部成層圏に滞留して、噴火後2〜3年から数年にわたって地球のアルベドを増加して地表気温を低下させます。これを日傘効果と呼んでいます。そのメカニズムを考慮すれば、入射する太陽エネルギー量が多いほど気温降下が大きくなるのは自明です。その意味では、(3)(4)の結論は分かってみれば自明だと言えます。

しかし、自明のことを自明のこととして証明することは決して容易なことではありません。1世紀に一度くらいの頻度でしか起こらないピナツポ火山の大噴火が1991年6月15日に起こったこと、噴火時にエアロゾル探査衛星SAGE IIが運用中であったこと、因果律解析という画期的な時系列解析法が開発されたことの総てがそろったおかげでこのような重要な結果を得ることができたのです。まさに天の時に恵まれたおかげと言えましょう。

あまり知られていませんが、虹の仕組みを明らかにしたのはデカルトで、1673年に「方法序説および論説集」の中で述べています。ただし、その当時までは光の分光の仕組みについては分かっています。デカルトから30年後に虹の七色を明らかにしたのはニュートンでした。

高・低気圧波動は赤道と極の間の気温差をエネルギー源としています。従って、南北方向の温度勾配（南北方向の気温差を南北方向の距離で割った量）

が大きいほど高・低気圧波動が発生しやすいわけですが、南北方向の温度勾配が大きい領域を前線帯と言います。前線帯は季節とともに南北に移動します。冬は日本列島よりも低緯度に位置し、春・秋には日本列島にかかり、夏は日本列島よりも高緯度に移動します。このため、春・秋は天気は周期的に変化します。高・低気圧波動の周期は3〜4日であり、また低気圧波動の前面では南風が吹き込んで気温が上がり、後面では北風が入って気温が下がります。以

7 おわりに

ムンクはクラカタウの大噴火後に出現した真赤な夕焼けに触発されて「叫び」に代表される一連の作品を残しました。夕焼けといえど、「夕焼けの翌日は晴れ」という諺を思い出します。本稿の最後に、知っていると役に立つ気象に関する諺を紹介しましょう。「夕焼けの翌日は晴れ」と同じ意味の諺に、「朝虹は雨」「夕虹は晴れ」「東の雷雨知らず」があります。いずれも、天気変化をもたらす高・低気圧波動が西から東に移動するという性質を持っていることを反映した諺です。

ここで、虹について少し説明しておきましょう。虹は、観測者が太陽を背にして前方の空中に水滴が存在するときに見られます。水滴の中で太陽光が一度反射して観測者の目に入るのが主虹で、二度反射して観測者の目に入るのが副虹です。朝虹が見えるということは、西の空に雨雲があることを示している、やがて観測者のところも雨になるというわけです。上の事柄を反映する次のような諺があります。「春に3日の日和なし」「三寒四温」「北風が南風に変わると雨」「春の北風は晴れ」などです。

低気圧波動は発生期を除いて、前方に温暖前線、後方に寒冷前線を伴っています。温暖前線に沿ってはややかな上昇流、寒冷前線付近では比較的強い上昇流を生じます。従って前線付近では様々な種類の雲が発生します。このため雲を観察することによって低気圧波動の位置を推測することができます。図7に低気圧波動の構造と前線に伴う雲を模式的に示します。温暖前線の先端には巻雲、巻層雲があり、低気圧の中心に近づくにつれて高積雲、高層雲、乱層雲が見られます。巻層雲と高層雲は薄いベール状の雲なので、雲を通して日暈、月暈が見られます。以上述べた雲の性質を反映した次のような諺があります。「巻雲が出たら雨が近い」「鱗雲が出たら翌日は雨」「山に笠雲がかかると雨になる」などです。天気に関する諺は、その地方に特有のものがあ

ます。福岡の場合、平和台に球場がありました。が、「油山に雲がかかったら雨になる」といわれ、球場に出掛けるかどうかの判断材料にっていました。今から半世紀も昔のこと、福岡に西鉄ライオンズという破天荒な球団があったころの話です。

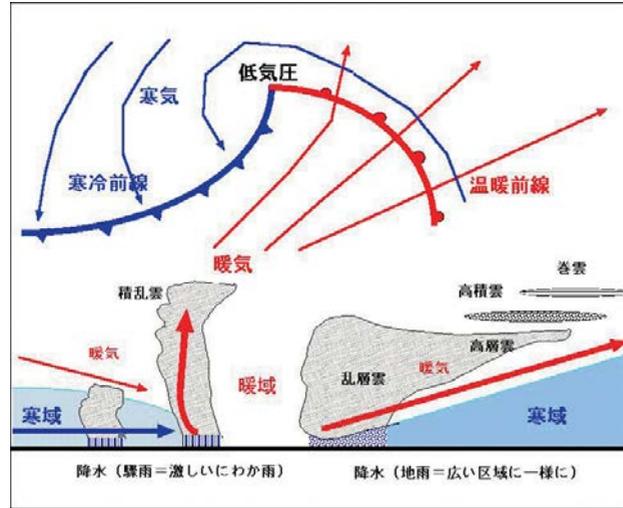


図7 低気圧波動の構造（平面図と東西断面図）および前線に伴う雲

心地よい 運動のすすめ

スポーツ科学部教授

桧垣 靖樹

大学生の体力低下

毎年、体育の日に体力・運動能力調査（文部科学省）の結果が公表されます。2011年度の調査結果によると、子ども（11歳）の体力は回復基調にあるようです。それでも、体力のピークとされる1980年代半ばには届かない状況です。現在の大学生は、体力が低下傾向にあった頃の子どもたちなので、大学生の体力回復には時間を要し、もう少しばらく体力レベルの低い状態が続くものと思われる

す。

スポーツ科学部では、2009年度から9学部の新入生を対象に体力・運動能力調査を実施しています。実態把握と同時に学生自身が自己の健康体力を客観的データに基づいて分析し、問題点を自らが見いだし行動変容を促す取り組みとなっています。これまでの調査結果をまとめると福大生の体力の特徴は、同年代に比べ筋力と柔軟性が低値を示す傾向にあることが分かっています⁽¹⁾⁽²⁾。またアンケート

ト調査では、「体力に不安がある」と回答した学生は、全体の約4割にも達します。逆に、「体力に自信がある」と回答した学生は、1割にも満たない状況でした。大学受験のために運動不足や不規則な生活習慣がその要因の一つとなっていると考えられます。実際、学校保健統計では、中学3年生から高校1年生にかけて、また高校3年生から大学1年生にかけて、肥満者の割合が急増していることが報告されています。

最近の体力低下に伴い、生活習慣病の低年齢化も問題となつていきます。肥満研究や日本小児科学雑誌に高校生の生活習慣病やメタボリックシンドロームに関する研究報告もあるほどです。大学体育の新たな課題として、予防や健康をより重視した身体づくりと意識の啓蒙(けいもう)が必要であることを示唆しています。

体力低下の要因には、現代の子どもの生活環境の変化が大きく関与していますが、最近、低出生体重児(れいしゅつたいじゅう)岡市内にある小学校の協力を得て、早生まれと体力との関係を検証したところ、1月以降に生まれた児童は、4月から9月までに生まれた児童に比べ、体力テストの結果が低値を示すことを再確認しました。特に、優れた体力レベルを持つ児童は早生まれに極めて少ないことも分かりました(図1)^⑧。筋力系(握力や上体起こし)の指標は、身長や体重とよく相関することから、児童の体力評価には成長過程を考慮する必要もありそうです。

では、低出生体重と体力の関係はどうでしょうか。2011年度からは本学大学院スポーツ健康科学研究科の安方惇さんを中心に研究グループを組み、福岡市教育委員会や小学校、地域ネット推進室との共同事業としてこの問題に取り組んでいます。最新のデータ分析では、低出生体重児の体力レベルが低いことが分かってきました。さらに、早生まれでかつ低出生体重児となると、体力レベルの優れる児童の割合は極めて少なくなることも明らかになってい

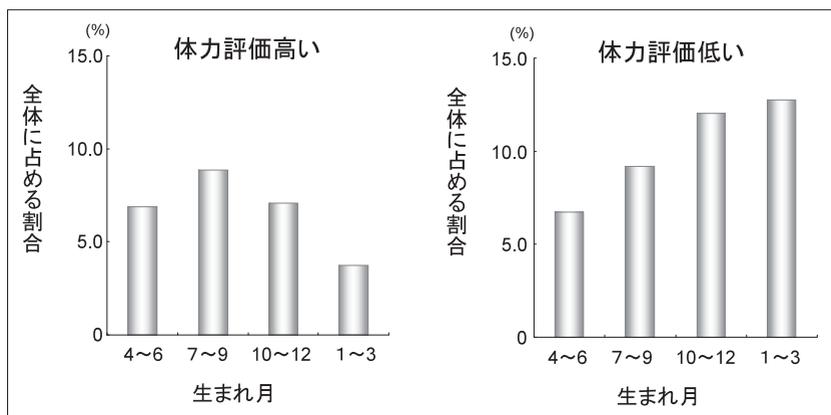


図1 小学児童の早生まれと体力レベルの関係
福岡市立N小学校の3～6年生565人を対象に新体力テストと生まれ月の調査を行った結果、早生まれの児童は体力レベルに優れた児が少なく、逆に低い児童が多い。児童期の体力評価は発育発達を要因を配慮する必要がある。
(安方惇ら『九州体育・スポーツ学研究27(1)』より改変)

児の増加も要因の一つである可能性が出てきました。低出生体重児とは、2,500g未満で生まれた児のことを言いますが、その割合が1976年に男性4.5%、女性5.3%まで低下した後は、男女ともに上昇傾向にあり、2009年は男性8.5%、女性10.8%となっています。従って、現在は10人に1人が低出生体重児になっています。1993年、英国医学雑誌に、低出生体重それ自体が成人後の心疾患リスクになることが報告され、生活習慣病胎児期発症説が唱えられています。わが国では、「小さく生んで大きく育てる」といわれませんが、もしこの学説が日本人にも当てはまるとなる、最近の低出生体重児の増加は、将来のわが国の健康問題となるでしょう。

早生まれ、低出生体重と体力

成長過程の児童期(6歳～12歳)では、早生まれの児童の低体力が報告されています。私たちは、福

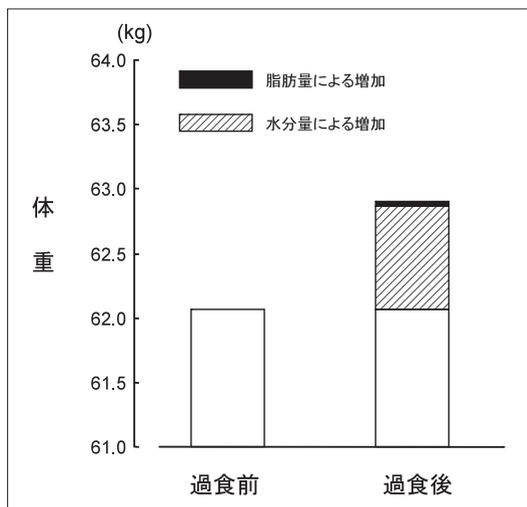


図2 1日に1,500kcalを3日間連続で余分に摂取した場合の体重の変化とその内訳

過食後は平均で約830gの体重の増加が認められたが、脂肪量の増加は約50gで、増加分のほとんどが水分であると考えられる。

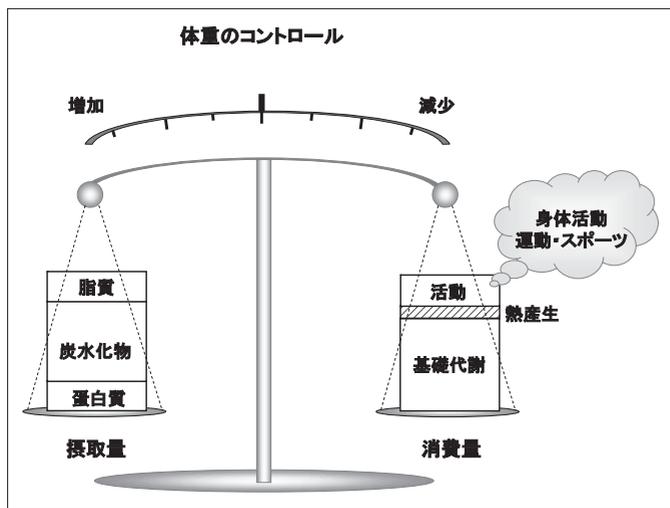


図3 カロリーの出納バランス
体重のコントロールはエネルギー出納バランスで決まる。

で14日間、平均は5日間という結果でした。年末年始や歓送迎会の時期には、食べ過ぎを気にすることもあると思いますが、息が弾む程度の軽運動をして汗を流すと、体重は元に戻ってくるでしょう。さて、数カ月掛けて増えた体重を落とす方法はどうでしょうか。例えば、半年で3kgの体重が増えたとして、180日で21,000kcalを溜め込

だことになるので、1日当たり換算すると約120kcalを余分に摂ったこととなります。これは、おにぎり2/3個、ポテトチップス20gのカロリーに相当します。体重は、摂取カロリーと消費カ

ます。2012年度は、追跡調査を実施して体力評価の在り方に加え、早生まれや低出生体重児に対する体力づくりの実践について検討しています。スポーツや健康を科学することを通じて、社会に貢献する人材育成を目指す本学にとっては、大学と地域を結び、目的に向かって協同して歩む教育と研究の体制づくりが重要です。今回この研究グループのメンバーであった学生が、教員や研究者へと進路を決めました。今後、研究成果を生かし現場で実践していただけるものと期待しています。

体力低下は中高年層にも メタボ撃退!

体力低下とメタボリックシンドロームリスクの間には密接な関係があることが報告されています。わが国では、40歳以上を対象とするメタボ健診が始まりました。お腹回りや体重の増加が気になる人も多いでしょう。また、お正月に食べ過ぎて太ってし

まった、と感じる人も少なくないでしょう。実は、3日間ほどの短期的な体重増加は脂肪ではないことが分かってきました。例えば、3日間で2kgの体重が増えたとします。身体に蓄えられる脂肪組織1gの熱量は約7kcalです。仮に2kgの体重増がすべて脂肪だとすると、14,000kcalを貯め込んだこととなります。これは、ショートケーキ換算で45個分、おにぎり換算で80個分に相当するので、食事の過剰摂取の面からはありそうにないと思われます。私たちは、20歳代の健常な8人に3日間、普段の食事より1,500kcal余分に摂り続けるとどうなるか、実験してみました。すると、過食後に体重は平均830g増加しましたが、脂肪量の増加は平均約50gであり、増加分の90%以上が脂肪以外という結果となりました(図2)。実際に増加した成分は水分であることが詳細な実験から判明しました。実験終了後、通常の生活を送ってもらい増えた体重がいつ戻るか追跡したところ、早い人で1日、長い人

ロリーの出納バランスで決まるので(図3)、消費が摂取を上回ると体重は減り、逆に摂取が消費を上回ると体重は増加します。いかに消費を増やすかが脂肪撃退の鍵となります。消費を増やす方法として、いつでも誰でも気軽にできそうなのがウォーキングやランニングでしょう。最近ではスロージョギングも注目されています。

ジョギングは、同じ距離であればウォーキングに比べ約2倍のエネルギーを消費します。エネルギー消費の計算はとても簡単で、1km走れば、体重1kg当たり1kcal消費します。また、消費カロリーは、走るスピードに関係なく走行距離に比例するので、ゆっくり走っても速く走っても走った距離が同じであれば、消費も同じとなります。先に、1日120kcal余分に摂取すると半年で3kg増えることを述べました。発想を逆転させると、1日120kcalを余分に消費すると半年で3kgの減量に成功することになります。120kcalは、体重75kgの人では約1・

最近では運動と脳機能の関係についての研究が進み、軽度の運動が認知症の予防に有効であることが分かってきました。そもそも骨格筋は、脳からの指令を受け収縮し、そして筋肉から感覚神経を通して情報をフィードバックし、運動をしなやかに実行するシステムを持っているので、骨格筋を動かすこと＝脳細胞の活動を刺激、といえるでしょう。特に脳の中で記憶を司る海馬（ヒッポカンプ）という部位では、運動刺激で神経活動が活発になることや、持久的な能力の高い人、つまりスタミナのある人の海馬容積が大きいことも明らかになっています。運動中に認知機能検査を実施した研究によると、心地良さを感ずる「きつくもなく楽でもない」程度の軽運動が認知機能を向上させ、脳スッキリ状態を引き起こすことが報告されています。スポーツの語源はもともと、「その場から離れる」「嫌なものや仕事からの解放を求め気晴らしをする」です。筋肉を動かし脳を適度に刺激することこそ、人間の自然な姿なのかもしれませ

6kmのジョギングに相当します。時間にして15分程度の運動です。最近では、総運動時間が同じ場合、小分けに運動を実施しても同等の減量効果が得られることが分かっています。できることから始めることが、減量への第一歩といえるでしょう。

身体を動かし、脳スッキリ

ランナーズハイという言葉聞いたことはありませんか？私たちは、「スウスイ、ハアハア」とリズムカルに呼吸をしながら走っているうちに、脳の中で快適を促すホルモンが分泌され、何ともいえない高揚感や達成感を得ることができます。それがランナーズハイと呼ばれるもので、「ゼエゼエ、ハアハア」とスピードを上げ過ぎてはその効果は得られません。ランナーは自分の心地良いスピードで、自然の香りや風を感じ、小鳥のさえずりを耳にし、五感を適度に刺激しながら心地良さを求めることが大切です。

ん。刺激された脳は、身体のエネルギー低下を感知し、食欲を高めることでエネルギーを再補充します。現代社会の「食べ過ぎたために運動しなければならぬ」という状態は、人間の本来とは逆行しているのかもしれない。

新たなチャレンジ

スポーツの心地良さを求めて

2012年度「福岡大学魅力ある学士課程教育支援」として、スポーツ科学部が主体となり「ココロとカラダのウエルネスプログラム」を実施しています。冒頭で触れたように、現在の学生は体力や健康に不安を抱える者が多いことから、正課授業としてはなく、誰もが気軽にいつでも参加できる通称「福大朝スポ倶楽部」を立ち上げました。月に2回程度、土曜日の早朝午前8時に集まり、約1時間程度スポーツ・運動などをして汗を流します。運動ばかりではなく、食事に関する情報提供や一緒に朝食

の移動”が、学生生活を“生き”“活き”そして豊
 気晴らし、心地良さを求めて自由な時間・空間へ
 スピードを競う時代の中で、スポーツの本質である
 参加した学生の声は、氾濫する情報過多の時代・

を楽しむ時間なども設定しています。
 福岡は海あり山あり、スポーツを楽しむには絶好
 の場所です。夏の特別プログラムでは、ヨット部
 に協力してもらい小戸ヨットハーバーから博多湾へ
 のヨット体験やカヌー体験、また湾内ではライフ
 ジャケットを着用し、普段着のまま海の中に入っ
 て、緊急時の対応などを学びました。もう一つの夏
 期プログラムである福大くじゅうの杜キャンパス
 (大分県)の冒険教育施設を利用したアドベン
 チャーキャンプでは、普段体験できないロッククラ
 イミングなど、参加したメンバーと信頼と協力を合
 言葉に親睦を深めました。冬期の特別プログラムで
 は、くじゅうの杜キャンパスを拠点にスキップログ
 ラムを実施します。

参加した学生の声は、氾濫する情報過多の時代・

今回の「チャレンジ」ということで・・・
 この2泊3日は充実していて、楽しさが詰まっ
 いたので、福岡に帰って研究室での生活が物足り
 なく感じます(笑)。あつこいつの間2泊3日
 でしたが、今年の夏一番の思い出になりました!!
 貴重な体験の数々、チャレンジすることの大切さ
 を胸に秘めて、これから頑張りたいと思います!

朝スポ倶楽部参加者からの声
 キャンプに参加して普段できないようなこと
 (登山、ロッククライミング)ができたので、と
 てもためになりました。また、人と協力すること
 の大切さを学びました。本当に朝スポキャンプに
 参加できたことを誇りに思っています。

かにさせてくれるに違いないことを示していると思
 います。



アドベンチャーキャンプ



汗を流した後は朝食タイム



バランスボールで体幹トレーニング



博多湾ヨット体験

写真 福大朝スポ倶楽部の活動



朝スポ、今回初めて参加しました。普段ではできないスポーツの体験の機会をつくってくださったことにとても感謝しています。ヨット、カヌーは競技としてどのようなものか知らなかったため、今回の体験に興味を持ちました。1・2年次からこのような機会に定期的に参加すると、大学生活の中での興味の幅も広がるのではないのでしょうか。ぜひ、今後の活動にも参加したいと思っています。

今回、ヨット・カヌーの体験ができ、非常に良かったです。ありがとございました。どちらも初めての経験で、少し不安もあったのですが、先生方やヨット部の丁寧な説明のおかげで、楽しむことができました。オリンピックもあって、さまざまな刺激を受けています。暑い夏を乗り切るためにも、適度な運動を意識して行うよう、心掛けていきたいと思いました。

人生の「師」



作家 桐衣 朝子

稲盛和夫、瀬戸内寂聴、五木寛之、エミリー・ディキンソン、ヴィクトール・E・フランクル…。

私が「師」と仰ぐ方達である。

本を通して、私を導き、足下を照らし、目から鱗

今の小学生が大学生になる頃には、受験で錆び付いたカラダを鍛え直し、疲れたココロを癒やすリフレッシュ・プログラムもきっと必要になると思います。健康と予防をキーワードとする全学的実践教育プログラムは、健康づくりの知恵と術を兼ね備えた人材育成に結び付き、今後のわが国の健康施策に貢献するものと考えています。

参考文献

- (1) 『2009年度福岡大学初年次学生の体力水準。福岡大学スポーツ科学研究』42(1)、13-26、(田原亮二ら2011年)
- (2) 『2010年度福岡大学初年次学生の体力水準。福岡大学スポーツ科学研究』43(1)、(飛奈卓郎ら2013年)
- (3) 『出生体重が体格と新体力テストに与える影響。九州体育・スポーツ学研究』27(1)、43、(安方悖ら2012年)
- (4) 『短期間の過食による体重増加は水分が脂肪か』(日本肥満学会誌、17(suppl)、145、軸丸優ら2011年)

を剥ぎ取り、癒やしてくれた「師」は、もちろん、ここに挙げた方達だけではない。本は、身近な生身の人間同様、私に多大な影響を与えてくれた。

明日が見えない絶望の日々に、魂に直接語り掛け、背中を押してくれたのは、いつも「本」だった。

本を読むということは、著者との出逢いである。歴史上の人物が、英雄が、大きな仕事を為した人が、特別な体験をした人が、本という媒体を通してではあるが、語り掛けてくれる。なんとこの贅沢だろう！

六歳の早春、家の近くを歩いていたら、父の部下だった女性に呼び止められた。

「もうすぐ小学生ね。これは入学祝いよ」

二冊の本を手渡すと、その女性はゆるやかな坂道を下りていった。

一冊は黒地に綺麗な絵が描かれた詩集、もう一冊は『レ・ミゼラブル』だった。

絵本ではない本を読んだのは、その二冊が初めて



ある。

絵本と違って、「字」だけしか書かれていないことが、六歳の私にはとても不満だった。

しかし、その時はまったく気付いていなかったのだが、その「だけ」が、大きな意味を持っていたのである。

私は、いつの間にか、描かれていない絵を頭の中で描くようになっていたのだ。想像力という道具を使って。その道具は、使い込むほどに手に馴染み、進化した。そして完全に自分の一部になっていった。

想像力は、欠けている部分を補う力がある。欠けた部分がなく、望むものが充分に与えられている状態では、想像力がその力を発揮することは難しいのではないだろうか。

私は小説を書こうとする時、キーボードに触れる前に、カラーの映像が見える。見えない場合は書けない。

本を、情報を得るための道具としてのみ考えるならば、電子ブックで事足りるだろう。

しかし、本はそれ以上のものを与えることができるのだ。

本は、「今」だけでなく、過去も、未来をも包含し、時の地平に、読み手の人生をまざまざと刻印する力を持っている。

罅の入った壁と、独特の匂い……。建て替わる前の福大の図書館で出逢った本達はみな、私の心の中で、懐かしさと少しの寂しさを纏い続ける。

かつて先輩達が読んだその本を、後輩達が読み継いでいく。一冊の本は、それを手にしたすべての人のぬくもりを、記憶する。その記憶を私達は、それと知らずに、時を越えて共有しているのだ。

私の娘の本棚には、私が読みかかせた絵本が並んでいる。汚れたり、破れたりしている絵本を手に取

例えば、江戸時代の二条城で、後水尾天皇と家光が語り合っていたり、鎖国下の出島で阿蘭陀人のカピタンが丸山遊女を膝に抱いていた……。そんな映像を見ながら、私はそれを書き写す。

私は、どちらかと言えば想像力豊かな人間だと思いが、それが百パーセント天性のものだとは思わない。おそらく、字だけの本を読む間に、想像力が培われたのだろう。

日頃本を読まないと言う人に出逢うと、「なんてもったいないこと！」と心底思ってしまう。

本屋さんや図書館は、宝の山である。

最近「電子ブック」の台頭によって、本が売れない時代になったとよく言われる。情報を得る手段として、電子ブックは非常に便利なアイテムだとは思いますが、もしそれが主流になって、本屋さんや図書館に足を運ぶ人が少なくなるとしたら、それは、あまりにも残念なことだ。

り、そっと指で撫でると、母親になりたての迷い多い日々の記憶がよみがえる。

何十年も前に読んだ本をばらりとめくり、鉛筆で線が引いてあるのを見つけて、若き日の私が何を思っただけそこに線を引いたのだろうかと思ひ巡らす楽しみも捨て難い。

つい最近、私は三十年以上前に読んだ本をもう一度じっくりと読み返す機会を得た。

東日本大震災の後、被災地を中心に六十年以上前に書かれた『夜と霧』が売れていると知り、もう一度読んでみたくなったのだ。

ユダヤ系の心理学者であるヴィクトール・E・フランクルが、第二次大戦中の強制収容所での体験を書いた『夜と霧』を初めて読んだ時、私はまだ二十代だった。

私は確かに感動をもってその本を読み、心に刻んだのだ。



しかし、子供を育て、親の死に目にも会い、大病もし、苦悩のために眠れぬ夜を幾度となく経験した六十一歳の私が読んだ『夜と霧』は、二十代の私が読んだ、あの『夜と霧』ではなかった。

二十代の私と六十一歳の私。フランクルはその時その瞬間の私に語り掛けてくれたのだ。

読書とは、書き手と読み手の一対一の関係に他ならない。しかもその関係は、時間性という根源的時間において、唯一無二のものとなる。二十代の私が読んだ『夜と霧』も、六十一歳の私が読んだ『夜と霧』も、ただ一度きりの出逢いなのだ。

フランクルは、以下のように語っている。

「私たちが苦しんだことも、すべてはいつでも現実の中へと救いあげられている。それらもいつかは過去のものとなるのだが、まさに過去の中で、永遠に保存されるのだ。なぜなら、過去であることも、一

それとも、何の意味も秩序もなく、ただ現れて、そして消え去るだけなのだろうか。

もし後者だとしたら、この世界は何と虚しい場所なのだろう……！

答の見つからない問いに搦め捕られた私は、正気を保つために、文章を綴った。私が創った世界に逃げ込んだのだ。

その間、私が創り出したキャラクター達が、言語を通さずにささやき続けていた。

「すべての事象は、消え去るのではない。想いも行^な為も、愛したことも苦しんだことも、この世界に一度現れたものは、何ひとつ無にはならない。永遠の不在に入っていくのではなく、永遠に存在し続ける。だから、この世界は虚しい場所ではない」と。

もがきながら書いたこの作品が「第十三回小学館文庫小説賞」の受賞作となった。

フランクルは、こう言っている。

種のあることであり、おそらくはもっとも確実なあることなのだ」

フランクルが強制収容所で、二千五百人の仲間達に語った、血を吐くような言葉を、心と魂で理解するのに、私は六十一年もかかってしまった。

二年前、私は乳がんを患っている。

手術から数ヶ月後、東日本大震災が起こった。

一人称の死に対する恐怖に羽交い締めにされたまま、私は一日中テレビの前にいた。大変な数の三人称の死がテレビを通して刻々と伝えられる。私が精神のバランスを崩すのに、さほど時間はかからなかった。

心に浮かぶのは、根源的な「問い」だった。

個人的な病や地震等の自然現象も含めて、この世界に現れるすべての事象には、何らかの意味や秩序があるのだろうか。

「私達がなしたことも、苦しんだことも……いつかは過去のものになるのだが、まさに過去の中で、永遠に保存される」

私の小説の中のキャラクター達が絶え間なくささやき続けてくれた言葉は、まさにこのことであり、その符合に気付いた時、フランクルは私の「師」となり、友となった。

私は、文学賞をいただいて本を出すことが決まった時、心から祈った。

かつて読んだ本達が、私にしてくれたように、私^が書いた本が、誰かの心を癒やし、人生を肯定する助けになりますように……。

私は今も毎日祈り続けている。

ありがたいことに福岡大学は、卒業生にも図書館の利用カードを発行してくれる。

次の作品に取り掛かる時には、懐かしいキャンペーンを通して、美しく建て替わった図書館に足を運ぼう。

そこでまた、新たな生涯の「師」との出会いがあるかもしれないと、期待しながら。



作家
桐衣朝子
(きりえあさこ)

1951年、大阪府生まれ。福岡市内の高校を卒業後、歯科衛生士専門学校に学び、英語塾講師を経て結婚。1997年、46歳で社会人入試に合格し福岡大学人文学部文化学科に入学、心理学を専攻。
2003年、52歳で九州大学大学院に入学。哲学と生命倫理学を学ぶ。2005年比較社会文化修士課程修了。『ガラシャ夫人のお手玉』で2012年第十三回「小学館文庫小説賞」を受賞。福岡県在住。

選ぶこととは

—その先にあるもの—

その悲しみや憂鬱、あるいは渴望こそが未来の他者への反響—未来の他者の方から初めて対自化できる心情—なのであり、もっと端的に言ってしまうと、未来の他者の現在における存在の仕方なのだ。もし、われわれが、その心情に応じて行動したならば、それは結果的に未来の他者と連帯したことになるはずだ。なぜならば、その心情に応じた行動とは、未来の他者を救済する行動でもあるからだ。

大澤真幸 『夢よりも深い覚醒へ』 3・11後の哲学』

(岩波書店、2012年)

法学部講師 東原 正明

はじめに

「浦島太郎現象」なる言葉があるのかどうかは分からないが、しばらく外国で生活した後に帰国した際、日本社会での様々な変化や新しいものの登場に驚くことがある。まるで、自分だけ数年前で時間が止まってしまったかのようにである。

2年半暮らしたウイーンから2010年秋に帰国してみると、「AKB48」なるアイドルグループが活動していた。もともとハードロックばかり聴いていた日本の音楽シーンに全く興味のない身としては、

そもそもグループ名の読み方も分からず、「AKB
「よんじゅうはち」などと言って周囲に呆れられ
たものであった。さらに驚いたのは、AKB48の「選
抜総選挙」なるものが行われていることで、これは
ファン（＝消費者）、そして大手メディアをも巻き
込んだ大規模なものであった。

この「総選挙」は、ある曲を誰が中心になって歌
うかなどを決めるだけのことである。もちろん、ファ
ンにとっては大きな出来事であり、「投票結果」に
一喜一憂する人もいるだろう。それでも、AKB48
の「総選挙」は、あくまでも芸能界の中での出来事
であり、ファン、そして関心を持つ人々にとっての
「イベント」でしかない。当然ながら、この「総選
挙」が首相交代などの政治的な影響を日本社会に与
えることはない。

それに対して、同じ「総選挙」でも衆議院議員の
「総選挙」についてはどうだろう。この選挙の結果、
議院に過半数を得た政党や政党の連合は（連立）政
投票する。直接民主主義的には、例えば住民投票が
制度化され、それが実施される場合、投票者はある
特定のテーマについて自らの意見に従って賛否など
を表明する。

選挙では、有権者は個別のテーマについて投票を
行うわけではない。各政党は幅広い政策分野を網羅
した政党公約（近年ではマニフェストと呼ばれるこ
とも多い）を有権者に提示し、選挙戦に臨む。また、
各党間で大きく立場の分かれる争点が存在しており、
例えば2012年の衆議院総選挙では、原子力政策、
経済政策や沖縄に駐留する米軍基地の問題、税制、
社会政策などを挙げることができよう。そうした政
党公約や争点を踏まえ、有権者は政党や候補者に投
票することになるが、近年の投票行動の研究におい
ては、性別や年齢、学歴、職業、社会的地位、居住
地域などといった社会的要因と、候補者に対する
イメージや政党に対する支持意識、争点に対する態
度などの心理的要因が複雑に絡み合っており、選挙結

権をつくることになる。仮に選挙の前後で議会内多
数派に変化が生じた場合には、政権交代や連立組み
替えなどの現象が起こる。この「総選挙」は日本政
治に大きな影響を与えるのである。

1 「選ぶ」とは

それでは、「選ぶ」とはどういう行為だろうか。
私たちは日常的に様々な選択をしている。お店に行
けば、数多くの商品やメニューから自分の好みのも
のを選び、購入する。車を運転すれば走行車線を選
ぶこともあるだろう。もちろん大学では、自分の関
心や取得単位数などを基準にして履修科目を選んで
いる。先に述べたAKB48の「総選挙」の場合、好
みのメンバーを選ぶということになる。

政治の場面ではどうか。代表制民主主義を採用す
る日本において、選挙の際、有権者は国政レベルで
は国会議員を、地方政治レベルでは都道府県議会や
市町村議会の議員、都道府県や市町村の首長を選び、
果が生じるとされる。

2 日本における総選挙とは

日本では、総選挙は小選挙区比例代表並立制とい
う制度の下で実施されている。この選挙制度は、各
選挙区の定数を1とし、第1位になった候補者を当
選とする小選挙区制と、国内を11ブロックに分けた
比例代表制の組み合わせから成り立っている。比例
代表制では、有権者は支持する政党に投票し、得票
に応じて各党に議席が比例配分されるが、小選挙区
制においては、第1位となった候補以外に投じられ
た票は議席に結び付かない死票となる。政治学者
デュヴェルジェによれば、「小選挙区制は二大政党
化をもたらし、比例代表制は多党化を促進する」と
される（デュヴェルジェの法則）。彼は、小選挙区
制において二大政党化が進む要因として2点挙げて
いる。その第一は機械的要因であり、この制度では
中小政党の得票が議席に反映されないため、大政党

が過大代表されるといふものである。第二に心理的要因である。有権者は当選の見込みのない中小政党に投票することをやめ、自らの票が議席に結び付くことを期待して大政党に投票するといふものである。

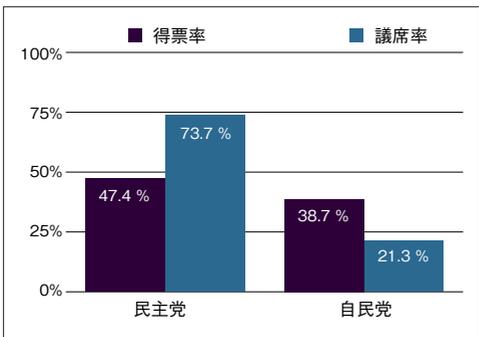
日本の小選挙区比例代表並立制においては、小選挙区部分の議席比率が比例代表部分の議席比率と比較して大きいこと、比例代表も全国一区ではなくブロック制を採用していることから、小選挙区制の効果が強く表れ、1996年の総選挙でこの制度が導入されて以降、衆議院における二大政党化が急激に進んだ。また、日本では小選挙区一回投票制が採用されているため、得票率と議席率に大きな乖離が生じるといふ制度上の問題点も明らかとなっている。「政権交代選挙」となった2009年の総選挙においては、小選挙区制と比例代表制を単純に足し合わせたこの制度の下で、民主党が308議席、自民党が119議席を獲得した。そのうち、全480議席中300議席を占める小選挙区部分における民

「変換」するのが選挙制度であるが、2009年の結果を見ると小選挙区部分で得票率と議席率には非常に大きな差があり、有権者の民意が議席に十分反映されたとは言えないだろう。従って、「国民の多くが政権交代を支持した」と単純に説明することは困難である。小選挙区一回投票制の「非民主性」を指摘する研究者がいることも忘れてはならない。

3 2009年の政権交代から

2009年に実施された総選挙の結果、それまでの自民党主導の連立政権に代わって、民主党主導の連立政権が誕生した。すでに述べたように、確かに現在の衆議院の選挙制度には、民意の議席への反映という点で大きな問題があると考えられる。しかし、現行選挙制度において示された「民意」に基づいて新政権がつけられたことも事実である。小選挙区比例代表並立制という選挙制度の下で、国民は政権交代を「選んだ」のである。ただし、マスコミを中心

主党の議席率は73・7%、自民党は21・3%であった。両党の議席率には大きな差があり、小選挙区部分においては民主党が自民党に「圧勝」したようにも見える。しかし、両党の得票率はそれぞれ47・4%、38・7%であり、その差は10ポイント弱にすぎない。一方、比例代表部分での得票率は、民主党が42・4%、自民党が26・7%であったが、議席率も民主党が48・3%、自民党が30・6%と、



2009年総選挙における小選挙区部分での得票率と議席率

得票率と議席率は両党とも比較的接近していた。ブロック制の影響を受けているとはいえ、比例代表制の効果がある程度表れたと言えよう。得票を議席に

に当初は政権交代への期待が多く語られたものの、その後の民主党政権は、沖縄の米軍普天間飛行場移設問題などで迷走し、総選挙時に提示したマニフェストの内容を十分に実行することもできなかった。民主党には多くの批判が集まり、政権支持率の大幅な低下が見られた。

それでは、日本の有権者が「選んだ」民主党政権は、政権交代という「実験」に失敗したのだろうか。この政権については、様々な観点から今後幅広く研究がなされるだろう。おそらくは多くの功罪が明らかになるだろうが、ここでは、2011年に発生した東日本大震災に伴う福島第一原発事故後の日本の原子力政策について考えてみよう。そもそも、2009年に政権交代が起こらず、自民政権が継続していたとしたら、現在のように国内のほとんどの原発が停止する状況は生まれただろうか。民主党政権については、事故直後の対応はもちろんのこと、批判されるべき点は数多く、福井県の大飯原発も様々に理

由付けされつつ再稼働された。ただ、それ以外の原発の稼働は認められず、同党が発表した2012年総選挙のマニフェストでは2030年代までに「原発ゼロ」を実現すると表明された。その一方で、自民党ではどうか。日本の原子力政策においては、原発は核兵器と切り離され、「原子力の平和利用」という言葉の下に相次いで建設されてきた。その政策を国策として中心的に推進したのは、自民党であった。福島での事故の後、多くの人々が住んでいた土地を追われ、立ち入り禁止区域が設定されて帰還することもできない状況が生じた。一度原発事故が発生すれば、放射能の影響から国土の大きな部分が人の住めない土地となってしまう、重大な健康被害が発生する可能性があるにもかかわらず、自民党では「2030年代までに原発ゼロは無責任」とも主張されている。

民主党政権の問題点は数多くある。それらは十分に検証され、教訓として記憶されなければならない。

摘できよう。

4 ナチスドイツの経験から

前節では、日本での政権交代の経験について考察してみた。ここではもう一例、戦間期から第二次世界大戦に至るドイツについて考えてみよう。その目的は、ナチ党政権下の宣伝大臣であったゲッペルスの言葉を導き出すことにある。

ヴァイマル共和国期のドイツでは経済的・社会的に危機が進行し、国民の不安と不満が増大する中、ナチ党と共産党という左右の急進的な政策を掲げる政党が勢力を拡大させた。1932年夏には、ナチ党は総選挙で37・3%の支持を受け、230議席を獲得して第一党となった(総議席数608)。1933年にヒトラーは首相に就任し、さらに同年の総選挙では得票率43・9%で288議席を得た(総議席数647)。ヒトラーは後に総統となり、独裁体制を築いて人々の政治活動の自由を奪っていった。

しかし、ここで指摘したいのは、彼らが進めた各政策の是非ではない。2009年の総選挙で有権者は——小選挙区制を中心とする現在の選挙制度には大きな問題があるとはいえ——民主党に衆議院での多数を与えたということである。有権者は、現行選挙制度の下で民主党政権を「選んだ」のであった。そして彼らは、2009年選挙ではまだ原子力の利用に積極的であったものの、現在では「脱原発」を主張するようになったのである。政権交代の結果は、事故後の原発停止や原子力規制の在り方に関する議論などに表れているのではないか。すなわち、仮に、今なお脱原発を積極的に訴えようとしない自民党による政権が事故後の原子力政策に取り組んでいたとしたら、多くの原発が停止し、再稼働の時期が不透明となるような状況は生まれただろうか。民主党と自民党では、その対応に大きな違いがあったと推測されるのである。有権者が「選んだ」政権によって、日本の原子力政策に重大な変化が訪れた可能性が指

ナチ党の台頭には、選挙制度の特性や街頭における暴力など考慮しなければならない問題も数多くある。しかし、いずれにしても彼らが多数の国民の支持を得て政権を獲得した事実は重い。そしてドイツは、世界大戦への道を歩むことになるのであった。

しかし、1945年春、第二次世界大戦のヨーロッパにおける最末期、ドイツは東西から攻め込まれ敗北も間近となっていた。首都ベルリンはソ連軍による激しい砲撃を受け、廃墟となりつつあった。ドイツが東西から連合国の攻撃を受け、敗北寸前となっていることについて、ゲッペルスは、ドイツ国民が「東部戦線では逃亡し、西部戦線では白旗を振って敵を迎えている」と指摘し、「われわれはドイツ国民に無理強いしてきたわけではない。(略)国民が自分の方からわれわれに委任したのだ。…つまりは自業自得ということだ」と述べたという(ヨアヒム・フィスト(鈴木直訳)『ヒトラー 最後の12日間』(岩波書店、2005年))。

このゲッペルの言葉には、「選ぶ」ことの一つの重要な意味が含まれている。確かに、必ずしもナチ党が民主的に権力を獲得したわけではない点には十分注意する必要があるが、それでもヴァイマル共和国において、彼らには一定の支持があった。その支持を土台に、ナチ党はヒトラーの下に独裁体制をつくり上げた。そして世界大戦に突入し、連合国からドイツ全土が焦土と化するような激しい攻撃を受けて第三帝国は崩壊したのである。ここでの「選ぶ」ことの意味とは、ドイツ国民自身が「選んだ」べき状況があったとしても――ナチ党を「選んだ」のであり、その責任もまた国民が負わざるを得なかったというものである。そしてドイツ国民は、その責任を、戦後今なお負い続けているのである。

おわりに―選ぶことの責任

ここまでの考察からどのようなことが言えるのだろうか。私たちの「選ぶ」という行為は、すでに述

を示す。その「民意」に基づいて政権がつけられ、政治が行われる。そして、その結果は有権者自身を引き受けなければならない。このことは、ゲッペルの言葉に端的に示されている。さらに、その責任は「選んだ」有権者の世代に限定されるものではないことも強調しなければならない。例えば、原発の運転によって生じる放射性廃棄物の処理には、途方もない年月がかかり、原発を利用してきた私たちの世代だけで解決できる問題では全くない。にもかかわらず、日本の原子力政策において、放射性廃棄物の処理方法はいまだに確立されていない。そのような状況で、これまで原発を動かしてきたという事実を、そしてもし仮に今後、現在運転停止している原発を再稼働させるとするならば、将来世代の行動や生活、彼らを取り巻く自然環境に対して重大な影響を与えることになるのである。従って、この例だけをみても「選ぶ」という行為を通じて私たちは、場合によって数百年、数千年も先の世代、大澤真幸に

べたように日常生活全般にかかわっている。それは極めて個人的な領域におけることから、政治に限らず、それぞれの職場や学校などの領域におけるもので幅広い。職場や学校などでの「選ぶ」という行為についても、例えば仕事に関する今後の方針についての機関決定であったり、学習発表についての友人との討論結果を踏まえた選択であったりと多様である。そして、そういった場合にも「選んだ」ことによって責任が生じるのである。職場の機関決定であれば従うことが求められるし、学習発表の場合は討論結果に基づき責任を持って聴衆に伝えなければならぬ。もちろん、職場や学校と政治では質的に大きな違いがあるが、選んだ後に責任を負うという点では共通することもあろう。いわば、広い意味での「選ぶことの責任」というものを念頭に置きながら、もう一度、政治の場面に立ち返って検討してみよう。

繰り返しになるが、有権者は選挙の際に「民意」

よるところの「未来の他者」に対する大きな責任を負っているということが出来る。

代表制民主主義において、「代表」概念を「国民代表原理」に基づいて把握する場合、国会議員は全国民を代表し、国家の問題について政党のメンバーとして政策決定を行うと説明される。有権者が選んだ代表が政党政治の枠組みにおいて政治を行うのであり、どのような政治が行われ、どのような結果――もちろんその「結果」とは、まだ見ぬ将来の世代が背負うべきものも含まれる――がもたらされるか、その責任は「選ぶ」という行為を行った有権者にある。

現代社会では、人々は新聞やテレビの他、インターネットなど様々なメディアが伝える膨大な量の情報に接している。その中には有益なものが数多いが、一方で社会の偏見や対立を煽つたり、排外主義的な態度を示したりするなど、注意すべきものも少なからず存在する。故に有権者には、幅広く多様な情報の中から必要なものを取捨選択しつつ、冷静に、

そして長期的な視野に立つて判断することが求められる。

再び原子力の問題を例に引いてみよう。2012年12月、日本では3年ぶりに総選挙が実施された。原子力政策に限定しても、各政党は、脱原発から原発の引き続いての利用、さらには核兵器に関する言及に至るまで、様々な政策を主張した。「核分裂は生命の論理とは違う論理で動く世界」であるとした上で、人類が膨大な核エネルギーを「コントロールできると誤認」しており、地球上に核兵器が多数存在していることについて「地球の生命体への敵対行為以外のなにもありません」と指摘したのは宇宙物理学者の池内了であった〔朝日新聞〕2000年8月5日)。原発も核分裂を伴っており、その存在を核抑止力に結び付けようとする言説もある中で、池内の言葉の対象を原発にまで拡大することは可能である。有権者とすれば、放射能汚染という人間はもちろんのこと地球上のあらゆる生命体の存

在自体に対する脅威を内包した装置―それは原発であれ核兵器であれ―が引き続いて残存してもよいのか、十分に考え、積極的に判断することが必要となる。すなわち、広島、長崎への原爆投下、ビキニ環礁での第五福竜丸事件に次いで福島事故を経験した日本社会は、総選挙を目の前に「選ぶことの責任」ということに関して大きな岐路に立たされたのであった。

ヨーロッパの小国オーストリアでは、1979年のスリーマイル島原発事故よりも、そして当然ながら1986年のチェルノブイリ原発事故よりも前に、1978年には国民投票で脱原発を決定していた。現在では、二大政党からなる大連立政権の下で輸入電力―ヨーロッパでは各国が送電網でつながっており、オーストリアにもわずかながら原子力由来の電力が輸入されている―も含めて全電力の脱原発化が進められている。オーストリア国民は1978年に脱原発を「選ぶ」、この政策は憲法典にまで記載さ

れた。そして、選挙によって「選ばれた」現政権は、35年前に行われた国民による直接民主主義的な選択に従って政策を進めているのである。すでに30年以上前に、脱原発という未来がオーストリア国民によって「選ばれ」ていた。このようなオーストリア国民の「選択」を前にして考えるならば、私たちは自分たちのみならず、未来に対しても責任を負えるよう「選ぶ」という行為を行う必要がある。

ここでは原子力政策を例に挙げたが、問題はもろんこの領域にとどまるわけではない。2012年の総選挙でも、小選挙区で79・0%の議席を獲得した自民党の得票率は43・0%にすぎなかった。小選挙区制における得票率と議席率の差はやはり極めて大きく、民意の正確な反映という点で、今後も引き続きこの制度の下で選挙を行うことの是非について十分に検討されなければならない状況にある。とはいえ、現行選挙制度に基づいて有権者が自民党に多数を与えたことは事実である。新たに誕生した

自民党政権の下では、それまで民主党政権によって進められてきた諸政策に対して大幅な見直しが行われており、政権交代の影響はすでに大きく現れている。今回の選挙において、私たちは一定の選択を行った。それが積極的な支持表明としての投票行動であったにせよ、そうではなかったにせよ、私たちが「選んだ」ことに起因する責任は、私たち自身が負わなければならないのである。

アルツハイマー病に漢方薬は効くのか？

薬学部教授 岩崎 克典

わが国は世界に誇る長寿国で、男性は79歳、女性は何と85歳を超える平均寿命である。しかし自立して生活できる期間である健康寿命はそこまで長くはなく、それ以降は何らかの疾患と付き合うことにな

る。何らかの疾患の中でも多いのがアルツハイマー病で推定患者数が百万人ともいわれている。この疾患は、現在のところ発症すると回復の見込みのない進行性の神経変性疾患であり、家族の顔が分からなくなるとか場所や時間が認識できなくなるなどといった認知症を呈するようになると、もはや自身のみならず家族も大きな負担を抱えることになる。長寿国という輝かしい名声の反面、アルツハイマー病

などの高齢者疾患は急増し医療行政を揺さぶる社会問題にまで発展してきた。

1 アルツハイマー病の治療薬

アルツハイマー病の治療薬は、その発症原因が解明されていないことと相まって、10年以上の長きにわたり世界中の研究者が躍起になって新薬開発に取り組んだにもかかわらず、治す（回復させる）薬が出てきていないのが現状である。アルツハイマー病の治療には、この病気で亡くなった患者さんの脳内で記憶に深くかわるアセチルコリンという神経伝達物質が減っているという病理所見に着目して、ま

ずわが国の製薬企業のエーザイが薬を考案した。原因は不明であれ結果的に生じた病理変化を改善するという対症療法的な考え方ではあったが、コリンエステラーゼ阻害薬のドネペジル（商品名アリセプト）は、10年以上にわたり第一選択薬として世界中で使われた。確かに患者さんや家族にとって症状の改善は何よりのものであったが、記憶障害が元に戻るような効果があるわけではなく、あくまでも病状の進行抑制であった。最近になってドネペジルと同様のコリンエステラーゼ阻害薬であるガランタミン（商品名レミニール）や貼付剤としてリバスタグミン（商品名エクセロンパッチ、リバスタッチパッチ）が使えるようになった。また、全く新しい考え方で神経細胞死を抑制して記憶にかかわる脳の神経保護を期待するメマンチン（商品名メマリ）も発売された。いずれの薬物もアルツハイマー病の認知症の進行を抑制するという意味では効果があり、これらに頼るしかないのが現状である。

アルツハイマー病の症状には病的な物忘れを中心とする認知症以外に、喧嘩けんかっ早くなるような攻撃性の上昇や物盗られ妄想、不安や夜間徘徊はまがわといったいわゆる問題行動（周辺症状）があり、これらも治療対象である。これには同様の症状を来す疾患に重ね合わせて様々な薬物が使用されている。攻撃性や妄想には統合失調症の治療薬などが、不安行動や夜間徘徊には抗不安薬や睡眠導入薬などがいずれも対症療法的に使用され効果は得られている。しかしそれぞれの薬にはそれなりの副作用があり、特に歩行障害や転倒といった高齢者には問題となる副作用に注意を払わねばならないのも現状であった。

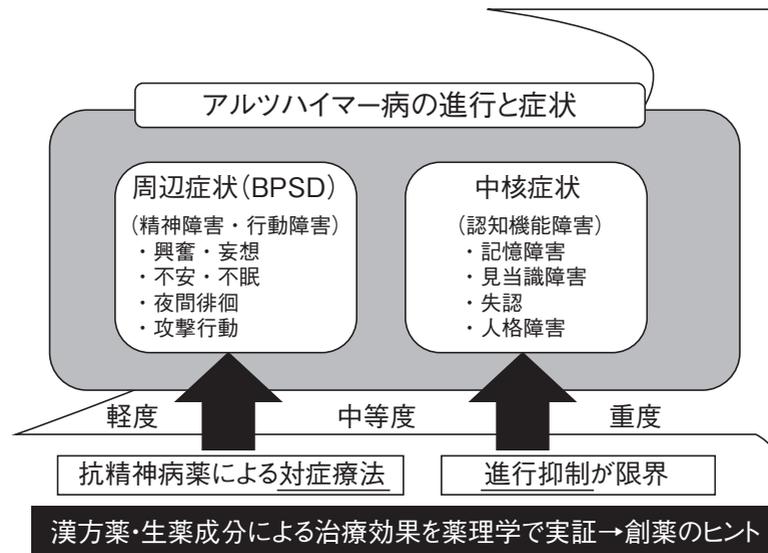
アルツハイマー病の周辺症状に漢方薬が使用できないかという考えがあった。漢方薬は中国四千年の歴史の上に作られたといわれる薬で、認知症などの現代病には使えないと思われがちだが、漢方薬の中には不安や不眠などに効果があるものもある。我々は1985年に本学副学長の藤原道弘教授が薬学部

に応用薬理学教室を開設された時から漢方薬の認知症への応用を考え、中国の歴史的书物の中に認知症を思わせるような症例がないか、使用経験のある漢方薬はないかを探していた。その中で統合失調症を思わせる激高な症状に大黃単味だいおうたんみが有効であること（寿世保元じゅせいほげん）や女性の駆瘀血薬くおけつである当帰芍薬散とうきしやくやくさんに記憶改善の可能性のあること（金匱要略きんぎやうりやく）を見つけた。漢方薬の効果は、伝承と経験に基づき熟練された漢方医、漢方薬剤師による「証しよ」と呼ばれる患者の体質を考慮した概念に基づいて処方されて初めて現れる。現代の医療現場では漢方医がいなければ、真の意味での漢方の極意は達成されないのが現状である。また、「漢方薬は本当に効くのか」と疑いの目でみる医師、薬剤師がいたのも事実である。そこで我々は、薬学の立場として何をすれば漢方薬の効果をきちんと世に示すことができるかを考えた。その結果、漢方薬の効果を現代の西洋医学的手法で証明しようということになった。多種多様な有効

成分の合体である漢方薬の作用を実験薬理学で証明するという取り組みは、効率が悪いことから避けられてこれをやる研究者がいなかった時代であったが、教室に来てくれた多くの学生の情熱がそれを成し遂げた。その後テレビコマーションに使われた「漢方を科学する」というキャッチフレーズはまさに我々の情熱を象徴するものであった。

2 アルツハイマー病の動物モデル

漢方薬である当帰芍薬散が認知症の症状に効くか否かは、まずそれを実験動物で試さなくてはならない。それにはまず患者さんの代わりとなる病態モデル動物をつくるのが第一であった。患者さんの記憶障害をネズミの何で再現するか。言葉を持たないネズミの何をもって記憶障害とするかは大きな命題であった。当時、教室で面白い装置を手製で組み立てた。8方向放射状迷路という装置で、中央のプラットホームから伸びた8本のアームの先端に小さな餌



を隠した装置である。プラットホームに腹を空かせたネズミ（ラット）を入れると、餌を探して歩き回りが、これを毎日、2週間以上訓練するとついにラットは周囲の環境を頼りに自分がいる位置を認識し、8個の餌を再び同じアームに入ることなく、うまく摂



8方向放射状迷路装置

取できるようになる。これは空間記憶といって脳内に形成された認知地図を利用して行っていると考えられている。アルツハイマー病の患者さんはこれと同じような空間記憶を始めとする脳の高次機能が障害されていると考えられる。また、そのような障害が起こる理由も考えたところ、アルツハイマー病で亡くなった患者さんの脳内では神経伝達物質として記憶に重要な役割を担っているアセチルコリンという物質が減少していることに帰因することが分かった。そこでスコポラミンというアセチルコリンの働きを止める抗コリン薬をラットに投与したところ、獲得した空間記憶が障害されるということを確認し、これを記憶障害すなわち患者さんの認知症のモデルと仮定してそれ以降の実験に用いることにした。

3 当帰芍薬散の作用

空間記憶を獲得したラットにスコポラミンを注射すると30分後にはせっかく覚えた空間記憶の地図が中でβカルボリン骨格を有するAngS1という物質がその作用の本体の可能性が強いことを突き止めた。当帰芍薬散を投与することによりどの成分が働いて空間記憶を改善するかの機序の一端を明らかにしたのである。今後はこの本体の化学構造を基に新しい生薬成分由来の新薬が開発されるかもしれない。しかしここまで10年以上の歳月と膨大な学生のマンパワーと費用が掛かったことは書き留めておく必要がある。

4 抑肝散の作用

抑肝散は不安症、不眠症、小児の夜泣きなどに用いられる漢方薬であるが、東北大学医学部でアルツハイマー病の周辺症状に有効であるという報告がなされた。ほぼ同時期に臨床応用のために当帰芍薬散のときに行ったような実験薬理的な実証が欲しいという要望も出てきた。そこで我々は抑肝散が本当にアルツハイマー病に有効か否かを動物実験で確か

崩れて一度進入したアームに何度も入るような空間記憶障害が発現する。このようなラットに当帰芍薬散のエキス剤を飲ませておくと空間記憶障害を改善することが分かった。漢方薬である当帰芍薬散でアルツハイマー病の認知症が治せる可能性を科学的に証明した第一歩であった。事実、当帰芍薬散をアルツハイマー病に用いた漢方医もおられたが、我々の実験結果はその使用を科学的に後押しした形となった。当帰芍薬散は当帰、芍薬、川芎、茯苓、蒼朮、沢瀉という6つの生薬で構成されている漢方薬である。我々はその生薬の一つ一つについて8方向放射迷路課題の実験を行い、どの生薬が記憶障害の改善作用を担っているかを突き止めることにした。そしてついに当帰にその主たる効果があることを見いだした。さらに九州大学生薬学講座の西岡五夫教授と野中源一郎助教授（いずれも当時）にお願いして成分ごとの分画を抽出してもらい、それぞれの分画抽出物の効果を探り、ついにブタノール抽出相の

めることにした。当帰芍薬散の実験ではスコポラミンを用いてモデル作製を行ったが、今回はアルツハイマー病の老人斑の構成成分であるベータアミロイドを脳循環障害を経験したラットの脳室内に微量注入するという実際の患者さんの病理所見に一段と近づけたモデルを作製し実験を行った。臨床に習ってまず周辺症状の一つである不安行動に対する影響を見た。これは高架式十字迷路や明暗箱という夜行性のラットが暗い所を好み明るい所には長く留まらないことを利用した実験である。ベータアミロイドの脳室内微量注入を行ったモデルラットは、明るい所の滞在時間が短縮し不安を呈するようになる。これに抑肝散のエキス剤を飲ませると不安が解消され明るい所に行けるようになった。夜間徘徊についても実験を行った。ベータアミロイドを脳室内微量注入したモデルラットは、夜行性動物が本来寝るべき時間帯である昼間の時間帯（明期）に動き回って運動量が増加するが、抑肝散のエキス剤を飲ませておく

とこれを改善することが分かった。攻撃性についても調べてみた。ラットを単独隔離飼育すると2〜3週間後には差し出した棒に噛みついて引き込むような攻撃性が出てくるが、これに対して抑肝散のエキスを飲ませておくと抑制されおとなしくなった。さらに、抑肝散は柴胡、茯苓、釣藤鈎、蒼朮、当帰、川芎、甘草という7つの生薬が配合された漢方薬であるが、その中で釣藤鈎が脳内のセロトニン神経系を介して効果を現しているという実験薬理的に加えて神経化学的結果も見いだした。このような実験結果から抑肝散はアルツハイマー病の周辺症状に対して間違いなく効果があるということを実験薬理的な手法を用いて科学的に証明できた。今では、ほとんどの臨床医が認知症の周辺症状に抑肝散を使うようになったが、我々の貢献も大きかったと思われる。

ところで、アルツハイマー病の中核症状である記憶障害に対しては抑肝散は使用されていないのが現状である。効果が期待される根拠がないのがその理

由であるが、我々は動物実験でこれを証明することにした。前述した8方向放射状迷路課題を用いてラットの空間記憶に対する影響を調べた。その結果、脳循環障害とベータアミロイド脳室内微量注入を行ったアルツハイマー病モデルラットの空間記憶障害に対して抑肝散のエキスを投与により空間記憶障害の改善効果が認められた。さらにこの効果には抑肝散を構成するの7つの生薬のうち当帰がそれを担うこと、記憶に深く関わる海馬部位のアセチルコリン神経を当帰が賦活することがその機序であることも見いだした。このように抑肝散はアルツハイマー病の中核症状にも有効である可能性が実験薬理的に示された。甘草を配合しているのでまだ考慮しなければならぬ問題点はあるが、我々の提言が臨床応用にご貢献することを願っている。

5 その他の漢方薬

当帰芍薬散や抑肝散以外にも、認知症に有効な可

能性のある漢方薬は多い。アルツハイマー病も高齢者疾患であるが故に高血圧症や糖尿病などの生活習慣病と合併することが大半である。アルツハイマー病が生活習慣病の合併によりその進行が増強されることも動物実験で証明した。予防薬学の観点から生活習慣病の予防は認知症にならない体づくりにつながることは間違いない。現在のところアルツハイマー病に対する直接効果は証明されていないが、高齢者向けに加味温胆湯、抑肝散加陳皮半夏、温清飲、人參養榮湯、八味地黄丸や六味丸が認知症の周辺症状に有効である可能性も示唆されている。今後、これらの漢方薬の薬理作用が動物実験で科学的に証明されれば臨床応用はさらに広がると思う。

6 おわりに

「漢方薬は本当に効くのか」という言葉が存在すること自体、漢方薬の薬としての認識の薄さを彷彿させる。しかしそういう時代は終わりに近づいてい

る。私は漢方研究に携わって30年近くなるが、動物実験とはいえ、やればやるほどその薬効に心を吸い寄せられていく。一つの疾患でも症状は複数にあり、私は漢方薬はそれぞれの症状ごとに効果のある生薬が適宜配合されたものと考えている。症状が多ければそれに見合うだけの異なる多くの薬が処方される西洋医学と基本的に変わりはない。そういう意味では漢方薬の方が理にかなっている。患者さんの複数の症状とそれぞれに効く生薬の配合比が歯車のようににぴったり合えば、証が合ったということでで効果が現れる。アルツハイマー病のように認知症を始めとして数多くの症状が集合した疾患は、特に漢方薬の活躍を期待できるのではないだろうか。また、漢方薬の薬理作用を動物実験で実証できたことは、漢方専門医のみならず一般内科医でも、西洋医学的理論で漢方薬を適正使用できることの証明になったのではないかと思う。

随筆

■人文学部日本語日本文学科教授

■経済学部教授

■工学部社会デザイン工学科准教授

田坂 順子

木下 敏之

渡辺 浩



天神様(菅原道真公)の本質

人文学部日本語日本文学科
教授

田坂 順子

先日太宰府天満宮に参詣したら、境内で結婚式の行列に出会いました。お宮参りらしき方達もいる一方で、参拝客の中からは英中韓……様々なお国の言葉も聞こえてきました。平成の今日、天神様は、専門の受験にとどまらず、結婚・出産・就職から健康・交通安全など人生の折々の沢山の願いを聞き入れ、その御利益は海外にまで及んでいるのだと改めて驚きました。

私は、福岡大学人文学部で平安時代の文学を教え

いう顔もあります。生きていた人が亡くなって天神様として信仰されていく過程や、天神様にまつわる沢山の所謂天神縁起説話も興味深いのですが、今回は本号のテーマである「本質を捉える」に沿って、天神様となる前の、生きていた人間菅原道真の本質に近付いてみたいと思います。道真がどのような人であったかを知ることが、ひいては、天神様がこれほど信仰されている理由を知ることにもつながるのではないのでしょうか。

八四五年に生まれ、九〇三年に太宰府で亡くなるまでの五九年の生涯で、道真は多くの作品を生み出しました。夥しい公文書を作成したり、国史の撰修の他、国史の記事を事項別に分類した『類聚国史』の編纂も代表的な仕事ですが、人間道真を知る最も有効な手がかりとなるのは漢詩です。当時の第一文芸は漢詩文ですから、人々は折にふれてその思いを漢詩に詠じています。とは言っても千年以上昔のことですから、平安時代の作品が現在残っている

ていて、菅公の生きた九世紀から『源氏物語』が作られた十一世紀初めあたりまでを専門としています。太宰府天満宮という、天神社の中でも別格の天満宮に地理的に近いこともあって、道真公には特に親しみをおぼえます。

全国には天神様を祀る天神社が千二百ほどあるそうです。千年以上の長きに亘って信仰されてきた天神様、「ここはどここの細道じゃ」という「通りゃんせ」の童歌でもおなじみの天神様です。では私共は天神様＝菅原道真についてどのくらい知っているのでしょうか。

菅原道真という人物には、在世中の官僚・政治家・教育者・学者・詩人等の顔の他に、死後の神と

こと自体奇跡ですし、転写を重ねて現存するものもごく僅かです。その中で何と幸運なことに、道真の場合は(死後神様になったからでしょうか)大切に書写が繰り返され、その漢詩は殆んど完全な形で残されています。

道真の漢詩文は二つの集に収められています。先ず一つめは、巻一冒頭に初めての詩作と自らいう十才!!の時の漢詩を置き、以降流謫までの作品を収める『菅家文章』十二巻。次に、配所太宰府で亡くなるまでの二年間の詩を収めた『菅家後集』一巻です。両集合わせて五〇〇余りの詩篇と、一六〇程の漢文を見ることができます。とりわけ『菅家文章』は、太宰府に流される直前の九〇〇年八月、醍醐天皇の命に応じて道真自身が編んで献上したものですから、作品が正確に詠作順に並んでいます。

若き日の道真は、友人や妻子との交わりも控え、学者の教養の第一である琴の練習もやめて勉学に励んだ結果、その甲斐あって二六才で超難関の試験に

合格します。その後の詩には、父や祖父と同じ高い官職に就けた喜びを詠む一方で、厳しい批判や他人の評判に一喜一憂する繊細さ、身に覚えのない疑い・心ない噂に恐れおののき落ち込む弱気な面も見えます。又、門人達の無神経な言動への苛立ち・憤懣・愚痴を書き記すこともあります。

あまり知られていないことですが、道真は太宰府に流される前にも挫折を経験しています。それは四二才から四年間、初めて都を離れて讃岐へ赴任したことです。道真自身「他人はこれを左遷というであろう。国司という官は祖業ではない」と嘆じています。讃岐の地で「家を思つては涙を落として」いた道真ですが、挫折や辛苦の経験は人を強くやさしくするのでしょうか。この四年間で道真は社会的に弱い立場にいる者達への温かな視線を獲得した詩を作っています。関心のある方はこれらの漢詩を是非読んでほしいと思います。

族の様子を記します。

神や仏を怨み茫然自失の道真。妹はまだ小さくて二人の兄達の死を理解できないのでしよう、二人の名を呼んで探している。母親は自分の命をすりへらすほどに嘆き悲しんでいる。そんな二人をたまらな思いで見ている道真。そんな中で道真は「吾が両膝を見て嘲弄すること多し」、自分の両膝を見て嘲り笑うような思いにかられます。両膝、そこにはついこの間まで二人の兄弟が仲良く並んで座っていたのでしよう。両膝はまだしっかりと二人の小さな身体の重みや感触を憶えているのに、二人はもういない。それに気付いた父親の虚しさ、やるせなさ、哀しみが伝わってきます。とても印象的な句です。

詩の後半、周囲を眺める道真の目に映るのは、阿満の思い出に連なる景物です。戸の上には阿満の誕生を祝った桑の弓と蓬の矢が懸けてある。垣根には阿満が乗って遊んだ竹馬に葛の鞭が一緒に立ってかけたまま。庭には阿満が植えた種が芽を出している、

それではここで、道真の人間性がのぞく多くの詩篇の中から、家族のことを詠んだ一篇を取り上げてみたいと思います。道真の父親としての顔が見える詩です。

八八三年、三九才の道真を二人の幼い子を失うという辛いできごとが襲います。その時作られたのが「阿満を夢みる」という七言二八句の作品です。

阿満が亡くなってから眠れない、たまたま眠ると夢の中で阿満と会って涙がはらはら溢れる、と詠んでいますから、亡くなってそれ程たっていない頃作られたのでしよう。

阿満と呼ばれていた男の子は六才か七才。身長九〇センチ程の賢い子でした。長い詩を誦んじ、萱家の子、お父さんの子としてしっかりと学びたいと言うような利発な子。その子の痛みを葉がおさえること僅か十日で亡くなったとあるので、病は突然襲ったのでしよう。阿満に続いてその弟も夭折し、一緒に葬ったようです。詩は幼い兄弟を亡くした後の家

壁には阿満が字の学習をした跡が残っている……何を見てもすべてが遊び・笑い・学び・話す在日常の生き生きとした阿満の記憶につながっているのです。「言笑思ふ毎に在るが如しといえども、起居を見んことを希えばすべて惘然たり」、笑ったりおしゃべりする阿満のことを思うと今もそこにいるようだけれども、立ったり座ったりする阿満を見たいと思うと、いけないことに呆然となる、と子の突然の死を受け入れられない思いが綴られます。

そして詩の最後を道真は、死後に冥途まで辿る暗い旅路を子どもが迷っているのではないかと案じ、「南無観自在菩薩、吾が児を擁護して大きな蓮に坐せしめたまへ」、どうぞ幼い子等を守り、極楽浄土の蓮の上に往生させてやって下さい、と祈りの言葉で終えています。子に先立たれた経験のない私にも、この時の道真の心中に思いを馳せることができます。この詩には紛れもなく、人の子の親、父親の姿を見ることができましよう。

道真の詩には、家族のことがちらりと垣間見えるものはあっても、この詩のように全篇に亘って父親・家族の姿や思いが描かれたものは稀です。ということは逆に、阿満という聡明な子の夭折が道真に与えた衝撃の大きさを表していると言えるのかもしれませんが。

私は以前、道真と、唐の白居易、道真と同時代の詩人都良香が、同様に幼い男児を失った哀しみの詩を残していることから、三人の詩を比較して深い哀しみの理由について考えたことがあります。文学を業とする父親にとつて、男児とは自分の文学を継承し顕彰していく存在です。ですから良香は「文章継ぐ者なし」と嘆じ、白居易は「文章千帙官三品、身後誰にか伝へ誰をか庇廕せん」と詠じました。子に先立たれた哀しみに加えて、この三人の詩人達の悲哀をより深くしたのは、父の業が文道であったこと、そして亡くなった子が後継として期待した男児であったことです。道真の場合は、他に男児の存在

唐使を廃止したことが有名ですが、残された五百余篇の漢詩を読むことで、この人物もいろいろな経験をし、人として悩み苦しみ、様々な思いを抱えて生きたことがわかります。そしてその奥に慈愛に満ちたやさしさを確認できました。

このような菅公だからこそ、荒らぶるおそろしい神ではなく、利益をもたらすやさしい神として千百年もの間人々に親しまれているのでしょう。

天神社に詣でたら、そんな人間道真公にも思いを馳せてみてください。

○道真の二つの集については、全作品に詳細な注を付した日本古典文学大系『菅家文章・菅家後集』（川口久雄校注、昭41、岩波書店）があります。又、抜粋した詩をやさしく読み解いた『日本漢詩人選集1、菅原道真』（小島憲之・山本登朗著・平10、研文出版）・『菅原道真——詩人の運命』（藤原克己著、平14、ウエッジ）もあります。

が確認できますが、道真が負っていた代々の儒門の領袖としての重圧、祖業を受け継ぎ発展させる責任を思う時、聡明な男児への期待と落胆の大きさがこの詩の背景に窺えるように思われます。

以上、「阿満を夢みる」という詩を取り上げてみました。この作品に表れた菅原道真という人物の本質は何でしょうか。

幼い兄弟の突然の死に強い衝撃を受けながらも、残された妹や妻へ向けられた気遣い、旅立った子を案じ仏へ託す祈り、子の思い出の一つ一つに向けられたやさしい眼差し。この作品の底に一貫して流れているのは、父親道真の限りないやさしさではないでしょうか。それは慈愛という言葉で言いかえることができません。

菅原道真というと、右大臣まで昇って時平の讒言で太宰府に流されて亡くなったこと、「東風吹かば匂ひおこせよ」の歌を梅に向かって詠じたこと、遣

人口問題は「率」ではなく「数」で見る

経済学部
教授

木下 敏之

大学で「九州経済論」「企業システム論」を教えながら、人口減少と高齢者が増加する九州における経済の振興について研究しています。農林水産省での勤務（人口約9,000人の島根県の過疎の町に2年間出向）、また佐賀市長2期の経験を踏まえた実務家出身の視点から、人口減少と高齢者の急増という大きな流れについてお話しします。

高齢化は率でなく数でみる

今では一般の人にも、ようやくこの人口減少と高齢者の急増が社会に大きな影響を与えると漠然とイメージしてもらえようにはなったのですが、まだまだ誤解もたくさんあります。例えば、高齢化を

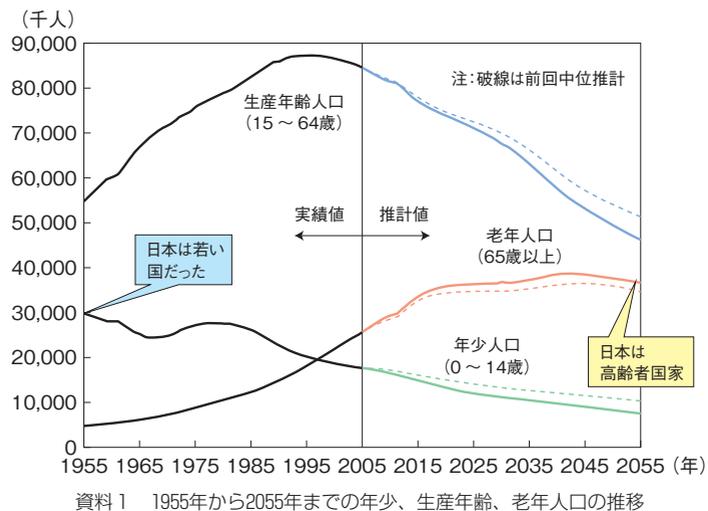
役に立ちません。予算を組んだり高齢者福祉施設の規模や内容を決めたりするためには「数」が重要となるからです。

私は授業でも講演でも高齢化は「率」ではなく「数」で見ると話しています。例えば、日本は急速に高齢化しているといわれていますが、資料1のように65歳以上の数というのは2020年頃からは横ばいとなるのです。

高齢者数も85歳以上に注目

資料1を見ると65歳以上の数は2020年頃から横ばいになるので、日本の高齢化は大した問題ではないのかと誤解する人がいますが、お年寄りを支える働世代の人口が急減するので、お年寄りの数は変わらなくても誰がお年寄りを支えるのかという問題が残ります。

また、これからは65歳以上とひとまとめに見ていくのではなく、まだ元気な65歳から74歳までの

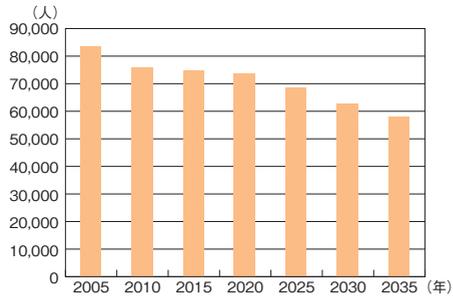


高齢化率で論じるということです。2040年の高齢化率は40%を超えるといわれていますが、地方自治の現場やビジネスの世界ではこの40%と言う数字は

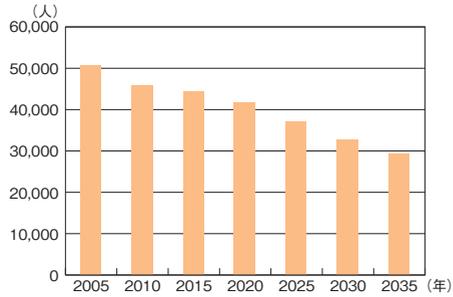
世代（前期高齢者）と、だんだんと体の調子が悪くなっていく人の割合が増えていく75歳から84歳までの世代（中期高齢者）、そして85歳以上の世代（後期高齢者）に区分してその数がどうなるかを見ている必要があります。

85歳以上の方は寝たきりになる人も増え、世話にとっても手間の掛かる認知症の人も増えていきます。85歳以上の世代は認知症になる人の割合が25〜30%といわれています。認知症の人のためのグループホームなどまだまだ整備が進んでいないため、85歳以上の人がどれくらい増えていくのかということは、地方自治体の福祉予算に非常に大きな影響を及ぼします。

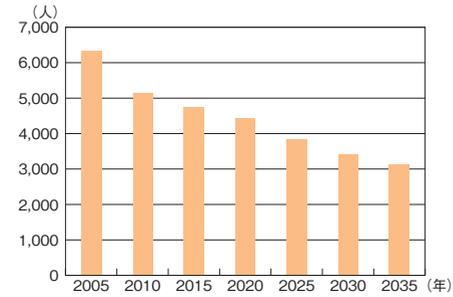
例えば、福岡県大川市の将来人口は資料2のとおり急激に減少しますが、65歳以上の高齢者数は横ばいです。もう高齢者のための施設整備は大体終わりにかなと思うかもしれませんが、85歳以上の人口がどうなるかを見してみると、資料3のとおりまだまだ増



資料4 福岡市の15歳～19歳人口の予測



資料5 北九州市の15歳～19歳人口の予測

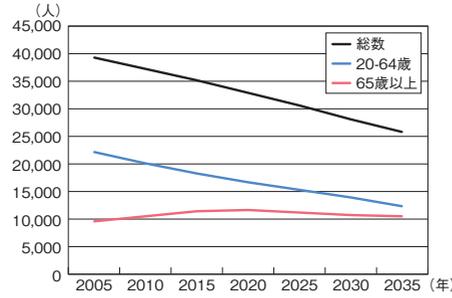


資料6 宗像市の15歳～19歳人口の予測

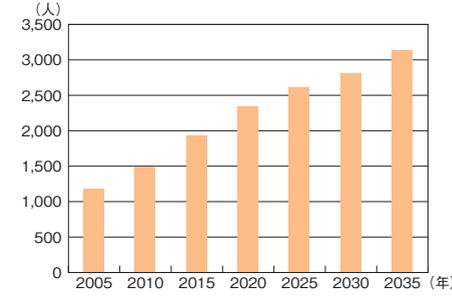
福岡市の人口の予測は資料7のとおりです。九州の市の中で人口がまだ伸びる数少ない町です。20歳から64歳までの働く世代の数も大幅な減少はありません。高齢者数は20万人から40万人と急増するので、高齢者対策が重要課題ということになるでしょう。それでも、働く世代の数は減らないので、先に述べた市と状況は異なります。

福岡市のベットタウンの場合は少し事情が異なり、すでに若者人口の減少が進んでいます。資料6は福岡県宗像市の若者人口です。2010年に5、132人、2020年に4、428人、2030年に3、416人となっています。上回っています。

福岡市の錯覚―減少する若者―



資料2 大川市の将来人口推計



資料3 大川市の85歳以上人口の推移

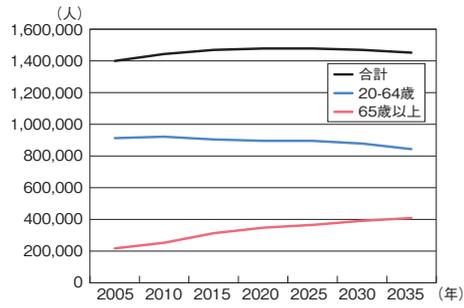
資料4は、福岡大学に入学する人が最も多い福岡市の15歳から19歳の若者の人口予測です。2010年に76、239人、2020年に73、860人、2030年に62、639人になると予想されています。福岡県にあるもう一つの政令指定都市である北九州市は資料5のとおりです。北九州市の場合は、2010年に45、639人、2020年に41、656人、2030年に32、524人と減少のスピードは福岡市を

えます。つまり、85歳以上の人の福祉対策費用はこれから増えていくのです。少子化といつが子どもの「数」はどつなるか もう一つよくある誤解は、少子化、少子化といわれると「毎年子どもがどんどん減っていくのではないか」と思っている人が多いということです。子どもの数がどの程度減少していくのかということ

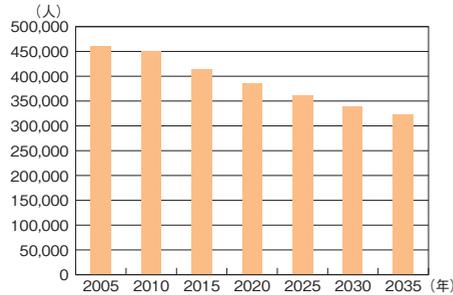
とは大学の経営にも大きな影響を及ぼすのですが、実際にはどのように子どもの数が推移していくのでしょうか？ 福岡に限った話をする、2020年頃までは福岡の高校生の数はあまり減少しません。いったん減少した子どもの数は、今は踊り場に差し掛かった状態で緩やかな減少をしていて、2020年を過ぎた辺りから再び減少のスピードが速まります。

福岡市には大学も多く若者の町だと思っ
ている人が多いと思います。

しかし、高齢者の場合と同様に20歳から64歳までの世代も、少し細かく見ておく必要があります。資料8のとおり、若者の町といわれている福岡市の20歳から39歳までの人口はもう減少を始めています。もちろん天神や博多駅が全九州から若者を集客しているのも、すぐに商売が成り立たなくなるわけでは



資料7 福岡市の将来人口の推移



資料8 福岡市の20~39歳の人口推移

ありませんが、大名などでこの層を狙うビジネスをしている人には要注意の数字です。

終わりに「イメージにだまされない」

いろいろな人口のグラフを出してお話ししましたが、特にビジネスをしている人は、自分の会社が活動をしている中心となる地域の人口がどのように変化していくのかを「数」で把握してみてください。

国立社会保障・人口問題研究所のウェブサイトに、市町村ごとに2035年までのデータが詳しく載っています。『少子化だ』『高齢化だ！』というイメージではなく、実際の数字を見ることが実情を正確に把握することになります。きっとビジネス等の意思決定に、重要な役割を果たすと思います。

※資料1 国立社会保障・人口問題研究所の資料に筆者が加筆。

※資料2~8 国立社会保障・人口問題研究所の推計データを基に筆者が作成。

樹の力、木の力

工学部社会デザイン工学科
准教授

渡辺 浩

はじめに

福岡大学工学部社会デザイン工学科は、ものづくりを主旨とする工学部の中でも、公共空間全般の設計・施工からマネジメントまで広範囲にカバーしています。その社会デザイン工学科における私の専門分野の一つが「橋」です。

橋という近年では鋼製やコンクリート製のものが主流となりましたが、私は木橋にのめり込んでいます。木橋を研究している研究者は国内にもわずかしかりません。そんな過去のもの进行研究して何になるのかと言う仲間もいますが、私は木橋は新しい技術、そして今強く求められている技術であるとまじめに考えています。意外と思われるかもしれませんが、木材は過去のものとは片付けるにはもったいない

ほどの素晴らしい性能を持っています。これらに関する私のこだわりは、しばらくお付き合いください。

地球温暖化対策と森林・木材

地球温暖化が叫ばれて久しくなりますが、その主な原因は化石燃料の消費による温室効果ガスの増加といわれています。ですが、そうと分かっても暮らしを豊かにしてくれている化石燃料の使用を簡単に減らせるわけはなく、また使用の抑制は経済に悪影響を及ぼすため、その対策は先進国間、あるいは途上国との間で国際摩擦の原因にもなっています。

化石燃料の消費は必ず二酸化炭素の放出をもたらします。ところが木材の消費では、例えば燃やそうとも大気中の二酸化炭素は増えません。その理由はお分かりになりますか。

当たり前の話ですが樹木はご飯を食べません。私たちはご飯を食べなければ大きくなるどころか生きていることもできませんが、それでは樹木はなぜ大

きくなれるのでしょうか。それは、光合成という作用により大気中の二酸化炭素を取り込んで自らエネルギーをつくり出しているからです。光合成には日光と水分と二酸化炭素しか要りません。だからそこに立っているだけでどんどん大きくなるのです。すると樹木とそれを加工しただけの木材は、大気中の二酸化炭素が固まったものと考えることができません。これは、例えば50年生きた樹木を伐って使うなら50年分の貯金を下ろして使うということであり、50年間で考えれば二酸化炭素は増えも減りもしないわけです。

普通、木材といえば建材や工芸品のようなものをイメージすると思いますが、形や性質は違っても木材は化石燃料と同じ有機化合物なのでガソリンの代替となるバイオエタノールの原料にもなります。もっと簡単に、燃やすことでもエネルギーを取り出すことができるので、木材を燃料にした火力発電所は再生可能エネルギーとして太陽光発電等と共に国

よそ8千万^mの樹木の蓄積が増え続けていると言われています。一方で、日本国内での年間の原木利用量も同じ8千万^mです。ですから、数字の上では資源を全く減らさずに木材を使い続けることができるという夢のような話もできるわけです。すると木材の自給率は100%かというところ、現実はその甘くはありません。

あるのに使われない木材資源

現実には、木材は国内に潤沢な資源があるのに現状では消費量の3/4を輸入に頼っています。その理由を説明するには過去と今の視点が必要です。過去とは、戦後の混乱期から高度成長期を示します。

木材は収穫までに数十年を要するのでその資源管理にはさらに長いビジョンが必要です。しかし戦時中は資源管理がおろそかになり、戦後は回復に努めたものの資源が回復する前に高度成長期を迎えたため、国内需要で不足する分は外国に頼らざるを得ません

に奨励されています。このように木材利用は化石燃料の消費を減らせるという意味で地球温暖化対策であると言えます。

今や二酸化炭素削減は全世界レベルで取り組まれる懸案であり、わが国も「京都議定書」の名前にも見られるように主体的な役割を果たしてきました。しかしながら、その方法は前述の理由から排出量削減よりも森林による吸収により多くを期待するというものが主流となっています。木造建築の道の駅が増えたのはこういった背景もあります。

いくら使っても減らない資源

いくら使っても減らないなど、そんな都合のよいものがあるのでしょうか。それがあつたのです。狭い島国に1億2千万人が暮らすわが国ですが、その国土の2/3を森林が占めています。これは割合の上ではフィンランドやスウェーデン等の森林大国にも匹敵するものです。その森林では1年間にお

でした。それから長い年月を経て資源は回復してきましたが、その利用は回復していません。プラスチックやコンクリート等の他材料が安価に出回り、戻る場所がなくなっているからです。これが今の課題です。

使われなければ山も荒れます。一般に森林荒廃という乱伐によるものを想像すると思いますが、わが国ではその逆の過密による森林荒廃が進んでいます。豪雨により山崩れが頻発するようになったのは、豪雨が強烈になってきたことよりも樹木が山を保護する能力を失いつつあることの方が大きいともいわれています。

使つことがエコに繋がる木材

このように、二酸化炭素を吸収しながら自らの力で成長できる樹木は環境に優しい資源です。だから伐らずに育て続ければなお良いのでは、と思うかもしれませんが。でも、それでは効果の半分も使えま

せん。ある面積当たりに育つことができる樹木の本数や大きさには当然ながら限界があるので、二酸化炭素の吸収・固定量にも上限があるからです。そこで「伐って使う」ことがクローズアップされます。伐って得られた木材は資材としても化石資源の代替としても利用できますし、伐ることによってできた隙間には別の樹木が生育することができます。このように、植えて育てるだけでなく、伐って使うことが伴ってこそ、その環境性能がフルに発揮されるのです。

スギ花粉症対策

余談になりますが、現代人を悩ませるスギ花粉症はかつて植林したスギが伐期になっても利用されなため、過密になったスギが苦しくて異常な量の花粉を飛散させていることが原因です。私も患者の一人としてスギ花粉症撲滅に貢献したいところですが、対策としてはスギを全部伐る必要はなく、適切な環

境になるほどに間引けば花粉の飛散量は劇的に減るといわれています。また無花粉のスギが開発されたというニュースを耳にしますが、植え替えるためにもやはり今生えているスギを伐る必要があります。伐るにしても植え替えるにしても、その莫大な費用をどうやって捻出するかは大問題です。そこで、伐って得られた木材資源の活用はその費用捻出のために有効な手段となります。

木材を使う

さて、木材を使うことの優位性をご理解いただけたかと思います。でも、せっかく使うなら燃料よりもまずは「木材」として使いたいところです。その後でも燃料にはなりますから。ただ、木材は性能としてはどうなのでしょう。無理して使わなければならないのであればやはり気が進みません。

結論を言えば、木材は我慢しなければならないほど悪い材料ではありません。とても軽いのに利用し性能が劣ると思われがちですが、破壊試験をしたら何とびっくりスギでもコンクリートよりは強いことが分かります。また、コンクリートでは重くて巨大な鉄筋がなければ構造を維持できませんが、木材では軽くてシンプルなのが作れるという点でも大きなメリットです。ここでの課題は火と耐久性です。元天然資源であるため燃えたり微生物に食べられたりしてしまう劣化が生じる可能性があるからです。

まとめ

本稿では森林と木材の役割に関する話を進めてきました。その中で、エネルギーを投入することなく自然の中で日々生産される木材資源は環境に優しい資源であること、そして二酸化炭素の吸収を期待するのであれば、伐って使うことが必要であることをご理解いただけたかと思います。私たち人間は、科学技術の進歩によって地球全体の環境をも変えられる力を持つに至りました。しかしながら、支配者と

木材はやや不均質であり、割れたり反ったりすることもあります。これらには注意が必要ですが、抑える方法や影響を小さくする方法もあります。逆に不均質であることが喜ばれることもあります。例えば天然の木目は二つとして同じものはありませんが、その適度な不均質が演出する癒やしの空間は人工の材料にはまねできないものです。

木材は建材としてもよく使われていますが、その割合は減っています。このためコンクリートよりも

傲る前に、地球生物社会の一員として今一度謙虚になることが必要ではないでしょうか。その意味で、木材をもつと使うことは無理なく実践できる一つの方法であると私は考えています。

産学官連携

「火山噴火史情報学」を確立する

国際火山噴火史情報研究所長
(理学部地球圏科学科教授)

奥野 充

九州には、雲仙や阿蘇、九重など数多くの火山があり、霧島・新燃岳の2011年1月の噴火は記憶に新しい。さらに桜島では、断続的な噴火が現在でも続いている(図1)。このように、火山は独特の景観や温泉といった恵みをもたらす一方で、災害を起こす厄介な存在でもある。その活動履歴は、防災を考える上でも基礎的な情報となる。福岡大学では、2012年4月

に国際火山噴火史情報研究所が産学官連携研究機関の一つとして設立され、さまざまな研究活動を展開している。それらの活動については、拙著^{*)}やウェブサイト(<http://www.acris-ehai.tukuoka-u.ac.jp/EHI/>)を参照していただくとして、本稿では、噴火史、情報科学、国際といった研究所のキーワードを並べながら、この研究所が目指している火山噴火史情報学の確立と、

その意義について考えてみたい。
噴火史研究の発展性

火山研究者は、過去に火山がどのような噴火をいつ起こしたかを知りたいと思っている。これは火山学の基礎的課題でもある。我々は、調査・研究を通してそれを理解することで知的欲求を満たすことができ、噴火史研究の素朴な動機となる。単なる道楽なら知るだけで十分であ



図2 由布岳南麓の登山口付近の露頭
噴火による火山灰層と静穏期にできた土壌層が交互に重なっている。明瞭な淡褐色の火山灰層は、南九州の鬼界カルデラの火砕流噴火によるアカホヤ火山灰（K-Ah）である。このような露頭に、噴火史に関する情報が記録されている。

このように噴火史の研究は、火山学の基礎的課題であるだけでなく、人々に特殊な景観を提供する火山の生い立ちを述べ、我々の生命や財産を守る指針を提供するなど、幅広い分野に

関連性・発展性を持っていると言えよう。

噴火史研究と情報科学の連携

噴火史研究の成果を整理するデータベースは、気象庁の『活火山総覧』^{*2}や産業技術総合研究所の「活火山データベース」^{（<http://riodb02.ibase.aist.go.jp/db099/>）}など既に多数ある。本研究所では、研究の過程で得られた情報（図2）を省力的に入力し、研究成果を後で検証できるようにするシステムを構築したいと考えている^{*3, *4, *5, *6}。

またこのデータベースは、研究者向けだけでなく広く一般市民にも公開され（図3）、噴火史

クに認定された「島原半島ジオパーク」も雲仙火山を中心にしたものである（<http://www.mzen-geopark.jp/>）。次は火山災害の防止・軽減に資することであり、過去の噴火履歴が将来

の噴火を予測するための基礎資料となる。さらに火山は、地熱エネルギーや鉱物資源とも密接に関係することから、それらを理解するためにも役立つ。防災やエネルギー・資源といったテーマも、社会のニーズとして大きいものと思われる。

るが、研究活動に公的な資金を使っている以上、何らかの形で社会に還元することが必要不可欠である。重要なことは、学術

あつたが「せめて英語で書いてくれば」というのが正直な感想であつた。これと同様に日本語を理解できない海外



図1 桜島南東麓から見た南岳昭和火口の噴火（2009年9月撮影）
桜島は、ブルカノ式噴火と呼ばれる爆発的噴火を断続的に繰り返しており、噴煙は風下側に運ばれたあと降下堆積する。

論文としてその成果を他の研究者などに伝えることであり、英語で執筆することが求められる。私も中国、韓国、フランスなどを訪れる機会があり、現地語で書かれた論文に接する機会が

の研究者にとっては、日本語の論文は文字化けのようなものだろう。英語が苦手な筆者にとっては、大変苦勞させられるが、できるだけ多くの人に研究成果を還元するためには、もはや必須の課題となつてしまった。噴火史研究を進めるには、学術的な観点だけでなく、広くその意義（拡張性・発展性）を他者に説明する必要がある、ニーズを掘り起こしてそれに応えなければならぬ。まず一つは、一般市民の知的欲求に応えることである。九州の諸火山は、すべて国立公園内にあり、それぞれで重要な構成要素となっている。日本で初めて世界ジオパ

研究のすそ野を広げる役割も担っており、量が質を変える「情報爆発」も期待される^{※6}。一般に、データベースの構築・運用には、大量の人的・資金的な資源が必要であるが、ICT(Inf-

formation and Communication Technology) 基盤技術を活用

して、できる限り省力的なシステム運用を目指したい。このシステムは、研究と同時並行的にデータを蓄積させる電子博物館



図3 一般市民に向けたデータベース「じおログ」
(<http://media.tl.fukuoka-u.ac.jp/vdb2/>)

であり、それに併せて実際の史料も各研究室で収蔵していけば、大

なぜ「国際」か？
本研究所の名称には、火山噴火史情報の前に「国際」の2文字を付けている。一つは、既に述べたように研究成果を海外の研究者とも共有することである。噴火史研究のノウハウは、『火山灰アトラス』^{※7}で代表される広域テフラによる編年など、日本で独自に進化したものも多くある。いわゆる「ガラバゴス」と呼ばれる現象であり、これらの研究手法や成果を海外に広く発信すべきだと考えている。そのため、学術誌『Eruptive History and Informatics』の刊行を準備しているところである。この学術誌は、大学紀要ではな

く、査読付き論文を掲載する *peer-reviewed journal* を考えて

いる。筆者も含めて英語が大きな障壁になっているが、何とか克服すべき課題である。また、付加価値を付けるため、研究所で立ち上げるデータベースとリンクさせるなど、何らかの特長を持たせたいと考えている。研究所では、研究成果を社会に向けてどう伝えるか、その還元方法が重要な課題の一つであろう。データベースと学術誌は、その発信の両輪と考えている。

次に、火山噴火のような自然現象は、その規模が大きくなるほど頻度は下がるので^{※8}、多くの事例を得るためには、日本国

内だけでなく広く世界から情報を収集する必要がある。そのため、筆者らはこれまでフィリピン、韓国、中国、アリューシャン列島^{※9}など積極的に海外に出掛けて調査を展開しており、2013年度からはインドネシア・バリ島でも本格的な調査を開始する計画を立てている。すなわち国際とは、日本国内にだけでなく世界に広く情報発信するという面と、海外での調査研究によって広く情報を収集するという面の両面がある。

NPO法人の設立

ここまで、噴火史、情報科学、国際にまつわる話題を扱ってき

たが、研究所の多岐にわたる活動を展開し維持するには、大学内だけでは人的・経済的資源に限りがある。このため、研究所をサポートする組織としてNPO法人を学外に設置することを構想している。産学官連携という、大学発のベンチャー企業がいちいち浮かぶが、研究所では公的な性質を持たせる意味でNPO法人という形態を考えたい。構想中のNPO法人は、研究所への人的・経済的サポートという目的もあるが、大学院で博士号を取得した優秀な研究者の受け皿としての役割もある。博士号を持っていても、なかなかパーマネントの研究職に就けな

いのが現状であり、本学を含めてさまざまなPD（ポストドクター）制度が整備されている。しかし、そのほとんどがプロジェクトなど特定の研究（または業務）に専念するものであり（つまり、エフォート＝100）、その他または独自の研究、非常勤講師などの教育活動は大きく制限される。大学教育は、実際に研究している人が教育・指導することが高校までの教育と本質的に異なる点である。研究（業務）だけに専念することを義務づけることは、本人と将来指導を受ける学生にとって必ずしも良くない。このようなPD制度をはじめとして、さまざまな場

面で「選択と集中」による効率化が図られているが、自然界の生き残り戦略の本質はむしろ「多様性の維持」である。博士号を持った若い研究者が自由に研究できるように、義務的なエフォートは最大でも「50」に抑えるべきだと考える。上記のNPO法人において、生活の糧としての仕事と自由な研究が両立できるシステムを考えたい。また、このNPO法人は、PD制度と違って任期はなく、仕事と研究を自ら確保して、じっくりと取り組むことを想定している。

おわりに
本研究での試みは、単に噴火史研究や情報科学にとどまらず、両者を有機的に連携させ、新しい価値を創造することである。また、これまでムダに繰り返されてきたことを省力化することにより、少ない資源で研究（者）の多様性を確保したい。これは、少子高齢化社会が進むに当たって、一つの解答になるだろう。さらに、国際化も同様に大切なキーワードとなる。そして、本稿で述べてきた内容およびその意義を現実のものにするために、火山噴火情報学の確立を目指したい。

謝辞

この研究所を運営するに当たって、工学部電子情報工学科の鶴田直之教授、理学部地球圏科学科の田口幸洋教授をはじめとする分担者の皆さまには、多大な協力をいただいている。また、専属メンバーであるPD研究員の藤木利之博士には、大変なご苦勞を掛けている。記して謝意を表したい。

引用文献

- ※1 奥野 充（2012）国際火山噴火史情報研究所の活動内容。福岡大学 研究推進部ニュース&レポート [Research] 17巻4号、10-12頁。
※2 気象庁（2005）『日本活火山総覧』第3版、635頁、CD-ROM付。
※3 奥野 充・小林哲夫（2012）『月刊地球』九州の活火山データベース

スを考える―巻頭言―。34巻、261-263頁。

- ※4 奥野 充・鳥井真之・西園幸久・稲倉寛仁・小林哲夫（2012）九州の活火山データベースで何を指すか? 『月刊地球』34巻、273-276頁。
※5 鳥井真之・西園幸久・稲倉寛仁・鶴田直之・高橋伸弥・奥野 充・福岡国際火山噴火史情報研究所メンバー（2012）火山地質情報データベースの構築とその応用。『日本火山学会講演予稿集』2012年度秋季大会、125頁。
※6 鶴田直之・高橋伸弥・奥村 勝（2012）情報科学から活火山データベースを考える。『月刊地球』34巻、277-280頁。
※7 町田 洋・新井房夫（2003）『日本列島とその周辺』新編 『火山灰アトラス』東京大学出版会、336頁。
※8 De la Cruz-Reyna, S. (1991) Poisson-distributed patterns of volcanic activity. *Bulletin of Volcanology*, 54巻、57-67頁。
※9 奥野 充（2012）テフラ編年学の多様な役割：フィリピン、中国、韓国、日本、アリューシャン列島の研究例。第四紀研究、51巻、275-284頁。



6年目を迎えたPET-CT検査

福岡大学病院 放射線部第二部長 教授 桑原 康雄

福岡大学病院のPET-CT装置は2007年6月に稼働開始しました。RI施設の中にあつた旧RI治療室を改造し、当時では最新の東芝製 Aquiduoが導入されました(図1)。検査に用いるFDG (F-18 Fluoro-deoxy-glucose) は久留米の工場で作られたものを高速道路で病院まで運んでもらい使用しています。FDGはブドウ糖を放射性核種のF-18で標識したのですが、腫瘍や脳に集積する性質を利用してがんや脳機能の診断に用いることができます。F-18は物理的半減期が110分と短いため午前9時、午前11時、午後2時の3回に分け



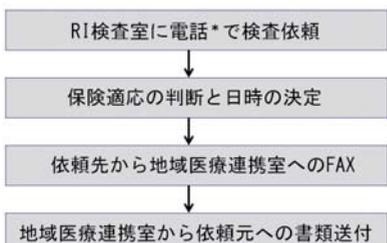
図1 PET-CT (福岡大学病院 : Toshiba aquiduo)

て供給されます。福大病院内にはポジトロン核種製造用のサイクロトロンや放射性医薬品合成のための自動合成装置がないため、新しい薬剤の開発や合成はできませんが、年間約1、100例のFDG-IPET/CT検査を主に腫瘍患者を対象に行っています。検査を始めた当初は、乳がん、卵巣がん、子宮体がん、甲状腺がん、大腸がん、膵臓がん、食道がん、頭頸部がん、肺がん、悪性リンパ腫、悪性黒色腫などの限られた腫瘍のみに保険適用されていましたが、徐々に拡大され今では早期胃がんを除く悪性腫瘍すべての病期診断・再発診断が保険適用されています。また、2012年4月の保険適用基準改正ではこれまで認められていなかった治療効果が悪性リンパ腫を対象に初めて保険適用されました。これらの改正に伴い本院のPET-CT検査も徐々に増えています。

福大病院ではPET-CT検査開始当初から病診連携の一環として近隣の施設から電話予約で検査が

行える体制を取っています。図2に概略を示します。福大病院核医学部門(092-8011-1011(代)(内線2180))に電話していただくことと保険適用の有無を確認の上、検査日を決定します。その上で病診連携室から検査の説明書と問診票を施設または患者さんへ送付します。前処置は5時間の絶食が必要です。また、激しい運動は前日から控えるようにお願いしています。インスリンの投与は筋肉への集積が増加するため、絶食同様に検査前5時間は不可です。来院から検査終了までは約2時間半を要します(図3)。検査終了後、報告書は画像と共に地域医療連携室から依頼先に送付

院外からのPET/CT検査の申し込み方



TEL : 092-801-1011(代) [内線2180] 福大病院核医学検査部門 (RI 検査室)

図2



G集積が低い場合には円形無気肺や粘液産生肺がんを考慮するなど一定の有用性が見られますが、良性病変でも比較的高いFDG集積が見られることから、現在、保険適用から外れています。頭頸部領域の腫瘍では転移や再発の診断のみならず、他のがんを合併することが少なくありませんが、PET-CTで同時多発がんが時々発見されています。婦人科領域では子宮がんや卵巣がんのリンパ節転移や腹膜播種

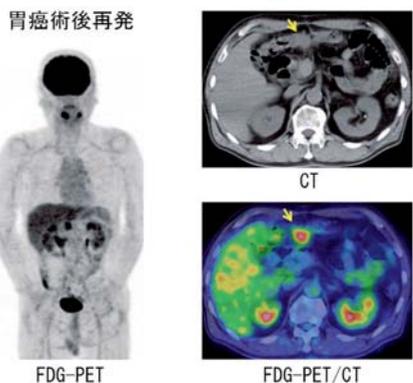


図4

悪性リンパ腫

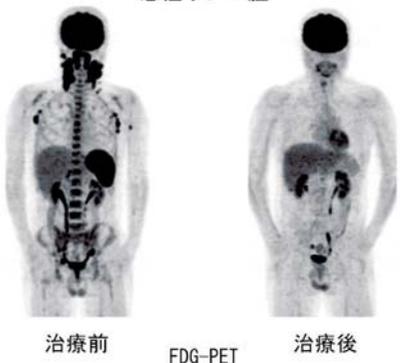


図5

ることやCTをベースにFDG集積の有無を観察するという診断しやすさが忙しい臨床では威力を発揮していると思われます。肝細胞がんや膵がんは消化器領域で重要な腫瘍です。肝細胞がんに関しては以前より、FDG集積が低いことや正常肝細胞にFDGが取り込まれることからFDGの不得手な腫瘍の代表でしたが、転移や腹膜播種では現在保険適用されています。肝細胞がんでは比較的に見られる骨転移は

の診断に有用です。また、断端再発も時々発見されています。ほとんどの場合CTやMRが事前に行われていますが、PET-CTで初めて指摘される病変が非常に多いように思います。PET-CTの検出能が優れるということもありますが、全身を容易に観察でき

最近のFDG PET-CT検査の傾向として胃がんの再発疑いの患者さんが増えています。造影CTでははっきりしない病変が思わぬ所に見つかることがあります。印環細胞がんでは集積が低いものももちろん検診可能です。

が多く読影には注意が必要です。図4に胃がん患者さんの術後再発のFDG PET-CT画像を示します。横行結腸に接して再発を認めます。また、悪性リンパ腫の治療効果判定が保険適用されたことに伴い、治療後のリンパ腫の患者さんが増えています。図5に悪性リンパ腫患者さんの化学療法前後のPET-CT画像を示します。治療前後に見られた頸部や腋窩のリンパ節、脾、骨髄の集積が治療後消失しています。FDGの集積消失は必ずしも顕微鏡レベルでの腫瘍の消失を意味しませんが、このような例では集積が残存している例に比べその後の経過が良いことが報告されています。肺がんは依然としてPET-CT検査の中で最も多い腫瘍の一つであり、術前の転移検索や術後の再発診断に欠くことのできない検査となっています。検査の保険適用は必ずしも病理所見が得られなくても、画像から肺がんとして診断される場合も認められています。以前保険適用されていた肺腫瘍の良悪性の鑑別に関しては、FD

PET-CT検査の流れ

- FDG注射後60分より撮像開始
- 測定時間は10-20分
- 必要に応じて2時間後に追加撮影



図3

するようになっていきます。検査の対象は大部分が保険適用の患者さんですが、保険適用のない病気や検診目的の検査も行っています。開業さ

さんの術後再発のFDG PET-CT画像を示します。横行結腸に接して再発を認めます。また、悪性リンパ腫の治療効果判定が保険適用されたことに伴い、治療後のリンパ腫の患者さんが増えています。図5に悪性リンパ腫患者さんの化学療法前後のPET-CT画像を示します。治療前後に見られた頸部や腋窩のリンパ節、脾、骨髄の集積が治療後消失しています。FDGの集積消失は必ずしも顕微鏡レベルでの腫瘍の消失を意味しませんが、このような例では集積が残存している例に比べその後の経過が良いことが報告されています。肺がんは依然としてPET-CT検査の中で最も多い腫瘍の一つであり、術前の転移検索や術後の再発診断に欠くことのできない検査となっています。検査の保険適用は必ずしも病理所見が得られなくても、画像から肺がんとして診断される場合も認められています。以前保険適用されていた肺腫瘍の良悪性の鑑別に関しては、FD

キャンパス風景

中央図書館と2号館前に広がる芝生の広場。

樹木からこぼれるやわらかな光が、学生たちに憩いと和みと交流の機会を演出する。



campus

膨隆性病変を呈することが多く、骨シンチグラフィで集積を示しにくいものの一つであり、PET-CTの方が有用です。膵がんのPET/CTは当初、腫瘍形成膵炎との鑑別が保険適用されていましたが、膵炎にも集積することから現在では保険適用されていません。また、自己免疫膵炎にもよく集積することが知られています。

腫瘍以外の病気では心不全を伴う虚血性心疾患が保険適用されていましたが、心筋SPECTで検査されることが多く、ほとんど検査はありません。

2012年4月の改正では心サルコイドーシスの診断がFDG-PETに保険適用されました。従来はGシンチグラフィに比べ診断能が高いといわれています。FDGは以前よりサルコイドーシスに集積することが知られていましたが、今回は心サルコイドーシスのみが保険適用されました。脳はブドウ糖をエネルギー源として活動しているため、脳糖代謝を測定することにより脳機能を間接的に評価する

ことが可能です。現在のところ外科的治療を考慮する側頭葉てんかんの焦点検出のみが保険適用されて

おり、この目的での検査はわずかです。最近、大きな社会問題となっている認知症に関して、FDG-PETは広く普及している脳血流SPECTに比べ

診断能が高いことが知られていますが、医療経済上の問題で保険適用に至っていません。また、PET

を用いたアミロイドイメージングが注目されていますが、検査に用いるC-11PIBは半減期が20分と

短いためサイクロトロンと自動合成装置が必要であり、福大病院では設備がないため検査できません。現在、国内でF-18標識の薬剤が治験中であり、商業ベースでの供給が可能性になれば、FDGと同様、

本院でも臨床使用が可能になると思われます。以上、福大病院PET-CTの紹介とFDG-PET/CT検査の現況について解説しました。福岡大学の貴重な財産ですので、できるだけ多くの皆さんに役立てたいと考えています。

以上、福大病院PET-CTの紹介とFDG-PET/CT検査の現況について解説しました。福岡大学の貴重な財産ですので、できるだけ多くの皆さんに役立てたいと考えています。

福岡大学新中央図書館紹介

図書館長（人文学部歴史学科教授）

則松 彰文

昨年（平成24年）の7月2日に、福岡大学新中央図書館がオープンしました。本図書館は、福岡大学創立75周年記念事業の中核として、附属大濠中学校・高等学校本館および体育館、福岡大学病院新診療棟、2号館（創立75周年記念商学部棟）とともに建設されたものです。東京スカイツリーを手掛けた日建設計・大林組という日本を代表する企業のコラボレーションによって、名実ともに日本屈指の大学図書館が誕生しました。7月のオープン以来、他大関係者、マスコミ各社をはじめ、様々な団体・機関からの問い合わせや見学も数多く、現在、本学

代表する建築物としての地歩を固めつつあります。ここでは、新中央図書館の新しい機能や魅力の一端を紹介させていただくことにいたします。

1 施設の概要

新中央図書館の概要は、別表に示したとおりですが、本館の最大の特長の一つは、自動書庫システムの導入です。地下一階に設置された巨大な自動書庫は、一三八万冊もの書籍を収蔵することが可能で、将来の冊数増加を見通して、最大一七二万冊までの収蔵を可能とするスペースも確保しています。利用



中央図書館（左）と2号館（右）

三つのフロアーには開架閲覧室があり、最大五十万冊の書籍を揃えることができるようになっていきます。閲覧室は、天井部分に照明の無いタスク&アンビエント照明方式という、いわゆる間接照明を採用しており、木製の書架、椅子や机と共に落ち着いた知的空間を提供しています。天井部分には、照明に代わっ

者が貸し出しを希望する図書を検索すると、機械が自動で出納を行うシステムになっています。二階から四階までの

て大きな回転扇が回っており、床部分からの自動換気システムの効率向上に一役買っています。また、バリアフリー対応、多目的トイレの設置はもちろんのこと、閲覧室や検索コーナーの一部には障がい者の方に対応した特注の家具を設置しています。特に、視覚障がいをお持ちの方にも利用できるよう、読書支援室を設けて点字資料やその他必要な機器を取り揃えました。



閲覧スペース



自動書庫

2 新中央図書館の新しい機能と設備

次に、本館に新たに設置された施設の中から、グループ学習室とラーニング・コモンズを紹介しましょう。グループ学習室は、二階から四階の各フロアーに計三室、合計九室を設置しました。後にご紹介するラーニング・コモンズも然りですが、これらはグループによる研究や学習をサポートするための空間です。従来の図書館は、個人が単独で行動する場でした。一人で静かに読書をし思索を深める、



グループ学習室

いわば「静」の空間、「個」の空間でした。これに対して、今回新たに設置されたグループ学習室は、様々な授業はもちろん、学生・院生諸君が複数人で発表会や勉強会を催し、ゼミでの報告やレポーターの作成へ向け

は、広い意味での「学習支援」のための空間です。高校までの暗記中心の受験勉強から大学における学問・研究へとスムーズに移行できる学生ばかりではありません。ゼミ報告に必須のレジュメの作成一つをとっても、初めは何をどうしたら良いのか、戸惑うこともしばしばです。そこで、本学では、大学院生の中から意欲と能力に秀でた選りすぐりの先輩たちをLA（ライブラー・アシスタント）として採用し、二階から四階の三フロアーに各一個所設けたラーニング・コモンズに常駐してもらっています。大学の学問・研究ですから、「手取り足取り」で指導するわけにはいきませんが、レジュメの作成やレポートの執筆ほか、新入生を中心として、彼らの疑問や質問に対して親身になってサポートする体制を整えました。ラーニング・コモンズとは、コミュニケーションを取りつつ、学習の総合的支援を行っていく空間なのです。

トの作成へ向けて議論を交したり共同で作業を行う場です。いわば、「動」の空間、「共同」の空間と言えるでしょう。図書館



ラーニング・コモンズ

の「静寂」や「個」による活動と

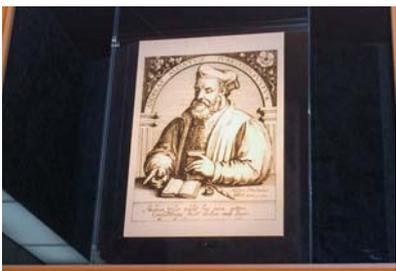
格は今も何ら変わりませんが、これまで本学に不足していたグループで自主的に研究・学習する場所を新図書館が提供することになりました。今後の活用が大いに期待されることです。

他方、ラーニング・コモンズですが、こちらは些か耳慣れない言葉かと思えます。近年、日本の各大学図書館で続々と設置されるようになったこの空間

3 新中央図書館の魅力

美術館や博物館を彷彿とさせる重厚な雰囲気の一階ロビーに一歩足を踏み入れると、その空間全体が私たちが知の世界へと広がってまいります。階段を上がっていくと、広いつたりとした空間が広がります。木製書架の味わい深い茶色と床の黒が織りなすシックな知的空間は、読書や研究にはうってつけのもの。本館には、利用者の利便性やニーズに対応する様々な工夫と智慧が施されています。

膨大な蔵書の中でも、ローマ法コレクションや日本近世文学関連書籍など、極めて学術的文化的価値の高い貴重書群を五階の貴重書庫に、九州中世史研究を網



1階ラウンジに展示されているヨーロッパ法コレクション



国際交流 好

人文学部東アジア地域言語学科 4年次生

城 康平

「你好（ニーハオ）、谢谢（シエシエ）」大学入学時、私が知っていた中国語と言えばこれだけでした。少しでも外国語をしゃべれたら格好いいだろうな、中国は成長しているから将来的に使えるかもという理由で福岡大学人文学部東アジア地域言語学科に入学しました。初めは学ぶからには最低でもコミュニケーションが取れるくらいの言語力は身に付けようという強い意志で臨んでいましたが、部活動やサークル活動、アルバイトや飲み会などさまざまな活動に顔を出し学生生活を満喫していました。語学力向上という入学時の目標からは程遠い学生生活が続いていました。そんなある時中国からの留学生と知り合いました。とても日本語を流暢に話す彼を見て、すごいと思いました。その時「中国語で会話してみて」という友人の言葉がありました。しかし私が話せる中国語の単語は非常に少なく簡単なものでした。このままではこれまでのようにただ習っただけで実用性がないものになってしまうと感じたため、留学を決意しました。

私が留学先に選んだのは中国南方の広州大学です。飲茶などの広東料理が有名で、香港やマカオとも近く、2010年のア

に、先に紹介したグループ学習室やラーニング・コモンズ、また充実のAVブースやパソコン・ルームなど新たな魅力的機能も完備しています。

福岡大学の図書館は、新中央図書館を中核として、さらに理学部・工学部・薬学部・スポーツ科学部の四つの分室と、医学部分館（医学情報センター棟）



1階ラウンジを通過して「知の宝庫」へ

羅する川添昭
二文庫を四階
の特別資料室
に収蔵するな
ど、学習・研
究の拠点とし
て存分に活用
していただけ
る図書館です。
さらに、本館
は旧来の図書
館機能のほか

の六施設で構成されています。今後も、大学図書館としての役割を十二分に果たしていくのみならず、さらに総合的文化発信基地としての機能を積極的に遂行していきます。新しい福岡大学図書館の今後に、どうぞご期待ください。

建築面積	3,892㎡	
延床面積	24,792㎡（うち図書館17,219㎡）	
収容能力	開架	500,000冊
	自動書庫	1,380,000冊
閲覧席数 (内訳)	一般閲覧席	1,527席
	AV・マイクロブース	61席
	グループ学習室	126席
	情報サービス室	102席
	情報検索エリア	56席
	研究用個室	28席
	貴重書その他	34席



アジア競技大会を機に大きく発展した都市です。食事や生活環境の面での不安が少ないということ、本学と提携を結んで間もない広州大学には日本人が少ないだろうということで「言語を勉強するには最適な環境だ」と考えたため広州を選びました。

誰も知らない環境、しかも初めての海外が長期留学ということ、また反日運動なども起こっており周囲から心配の声を掛けられることで若干の不安を抱きながらの出国でした。いざ白雲国際空港に着いたもの手続きはどこに行けばいいのかわからず、荷物の受け取り場所すら分かりません。しかも大した語学力もないため人に尋ねることすらできず、慌てる自分でした。だから初めてのころは現地で日本語を勉強している中国人学生の力を借りて生活を送る日々でした。銀行のカードを作ったり寮の手続きをしたりなどすべてを日本語ができる学生の力を借りて行っていました。しかし、授業はすべて中国語で誰にも頼ることはできません。先生やクラスメートも歓迎してくれ話し掛けてくれるものの、コミュニケーションを取りたいという気持ちがあってもまともに取ることができませんでした。この時ほど自分に不甲斐なさを感じたことはありません。コミュニケーション

ションを取れなかった理由は語学力の低さもありましたが自分自身に自信が持てず、もし伝わらなかつたらどうすればいいのか、完璧な文章を話さなければならぬなど自分で自分を追い込んでいたことも原因だったと思います。私と比べ他の留学生の気軽でフレンドリーな感覚というのは私の中の考え方を大きく変化させてくれました。自信が持てないから話さないのでは何も変わらない。少しずつでもいいからコミュニケーションを取っていいこうと考え、片言ではありましたが進んでコミュニケーションを取るようになっていきました。

日本人は外国人の話す日本語を聞いて多少の違いがあったとしても意味が通じればそれでよしという考え方の人が多いと思いますが、広州ではそうではありませんでした。ストレートにはっきりとものを言ってくれます。発音や声調の違いは指摘され、私と話した中国語の意味が分からなかつたら何を言っているのか分からないと。ただはつきりとものを

言ってくれた後の特訓や指導も真剣に行ってくれました。何度も発音の練習などを繰り返すことで自身の語学力の変化を肌で感じることで嬉しさを感じました。

一つ留学を通して考えさせられたことがあります。それは日中関係をはじめとする日本と他国の関係です。現在も中国では反日デモが起こるなどして世間の関心が高まっています。メディアからの一方的な情報しかなければ中国は怖いとか、中国には行きたくないといった感情しか生まれてこないでしょう。しかし一度現地の状況を自分の目で確かめることができましたら考え方も大きく変化すると思います。実際私がかかわった多くの人々は優しく親切に私に接してくれました。中には東日本大震災の募金活動で中国で行った時、昔ひどい仕打ちをされた日本になぜ募金しなければいけないのかという意見を言う人もいましたが、多くの人が募金活動に対しても協力的で反日感情を感じる場面は少なかったです。日中間



国際交流

人との絆があれば、命が輝く

商学研究科商学専攻博士課程後期 1年次生

鮑 慧 (中国)



仲間たちと記念撮影

で双方の意見はありますが、それ以上に我々は誤解や偏見の上で物事を見ていることが多々あると思います。全員の考え方を变えることは無理かもしれませんが、ただ、多くの人に機会をつくっていただき自分の目で実情を確認していただきたいと思います。マイナスなイメージを持っていただければ持っているほど、現地で受ける優しさや驚きには想像以上の感動があ

ることでしょう。

語学力向上を目標にして行った広州大学への留学でしたが、語学力向上はもちろんのこと、新しい考え方や新しい友好関係を築くなど自分自身の可能性を大きく広げることができた留学だったと感じています。日本と諸外国で距離はあるものの、留学中に出会った人たちとスカイプやQQといったコミュニケーションツールを通じ今でもコミュニケーションを取り続けています。留学でできたつながりは一生のもので、これからは掛け替えのない宝物として大切にしていこうと思います。大学卒業後は旅行業界へと進むことが決まったので、留学を通じて感じた諸外国に対する誤解を解き、偏見をなくし、多くの人に海外の良さを伝えていける人物になりたいと思います。そのような人物像を目指すという新たな道を切り開くことができたのも留学のためです。今後もまだまだ知らないたくさんの方の海外の実情を自らの目で確かめていこうと思います。

19歳の時に日本のある企業の研修生として来日して以来、あつという間に15年が経った。3年間の研修生活、10年を超える留学生活、笑いもあり涙もあった。15年間の異国での生活は、私にとって人と良い「絆」を築くことの大切さを体感できた。

「絆」が築けなかった涙の研修生活

私の研修は、6人のメンバーで本社の寮での慣れない自炊生活からスタートした。毎日ハードな仕事、しかも残業続きで、娯楽はほとんどなかった。生活のつらさのせいなのか、10カ月が経ったころ、メンバーの1人である穎の様子がおかしくなり、精神的な病を患って中国送還となった。涙の送別、見送る側として残る5人は大きなショックを受けた。

時間が流れ翌年、私とメンバーの1人櫻蘭は支社へ異動となった。櫻蘭とは同郷で、仲が良かったし、すべてが順調だと思っていた。しかし、ある休みの日の夜に、突如として告げられた櫻蘭の言葉を今でも忘れられない。「慧のこと親友だと思っているから言うね。グループの中で、慧を友だちと思っている人はいないよ。日本語ができて、3カ月の語学研修にも参加し



ていなかっただし、特別な存在で皆は嫌だった：でもね：慧、これからは仲良くやろうね：」彼女から語られた事実にびっくり仰天だった。「でも、やっと1人友だちができたから、良かった。まだ遅くない、やり直そう」とその夜、一人で泣きながら自分に言い聞かせた。ところが、彼女もまた1年後に研修生活からいなくなつた。日本人男性と結婚したのである。いつもと変わらぬ朝、洋服箱が空になった部屋と同じように、心にぽっかりと穴が空いてしまったようだった。

後々聞いた話では、颯と櫻蘭は家計の問題や幼い兄弟のことなどの関係で日本に来たようだ。あの若さで背負っていた重圧は計り知れなかつただろう。もつと彼女たちと心の通つた話ができなければどんなに良かったらうかと今でも思う。平成17年4月に福岡大学商学部に入學した私は、大学2年次生の時に櫻蘭と偶然の再会を果たした。「弟は九州にある大学に留學中だ」と幸せな笑みを見せた彼女を見て私はほっとした。きつと、神様がわざわざ私たちを結び付けてくれたのだと思つた。

仲間を支えられる幸せな留学生活、「絆」の大切さを実感

研修生活と一転して、大学生活では頼もしい友だち、最高のゼミの先生、仲の良いゼミメンバーに恵まれた。「良い仲間をつくって最高の大学生活を送ってください」と先生はいつも口にされていた。そして、「明るく元気にあいさつする」「ほかの人の立場で物事を考える」と人と絆を築く基本を教えてくださいました。私の大学生活はこれらの言葉に支えられている。いつからか私は、「優しい一言に救われる命がある」と思うようになった。

現在、私は商学研究科博士課程後期に在籍し、博士号を取得するため日々努力している。私の所属する研究室の先輩方、同期、後輩たちの協力を得て、博士号申請論文の完成を目指している。心強い仲間巡りに巡り会えたことに感謝している。

人は、孤独では何もできない。弱い一人の人間に過ぎない。だが、家族との絆、友だちとの絆、そし

て自分を取り巻く環境の中の一人一人との絆が強ければ、その絆は巨大なエネルギーとなり、自分自身も強くなるはずだ。「人との絆を築く」「人を思う」その大切さを学べたことが15年間の日本での生活から得た私にとっての大きな財産である。

札幌の四季

工学部電子情報工学科准教授

文仙 正俊

福岡市に住み始めて8年ほどになる。食べ物は美味しいし、程よく都会であって、少し車を走らせれば気持ちの良い自然を満喫することもできる。魅力的な街である。そしてこれらの特徴は私の故郷札幌にも良く当てはまることでもある。もちろん北海道と九州では気候をはじめとして同じ日本かと思うほ



大通公園とテレビ塔



札幌駅とJRタワー



すすきののネオン街

ど違うところもあるが、これらの共通項は私が福岡に住みやすさを感じている理由の一つだろう。

札幌で生まれ育ち、大学院修了までの27年間を過ごした。現在の人口は190万人で北海道の人口の三割が集中している。札幌の市街地は、明治の開

拓使の時代に京都に倣い
碁盤の目に作られた。中心地の大通にあるテレビ塔周辺を基準に南へ条西へ丁目と住所が定められている。とても道を覚えやすいし行き止まりがまったく無いので、あの

辺りだろうという感覚でのんびりと歩いていればそのうち目的地へ到着できる。車道も歩道も広く歩きやすく、それなりに都会的でもあり、大通り周辺を歩く度にいい街だなあとと思う。昔からのビジネス・商業の中心地が大通エリアであり、夜の大歓楽街すすきのはこの南隣に位置している。40年ほど前から大通エリアとすすきのは地下街で繋がっているが、昨年新たに大通からその北隣の札幌駅まで伸びる広い地下道が完成した。札幌駅周辺はこの10年くらいの間に駅の大改装が行われ、タワービルも建ち大通と並ぶほどの商業エリアへと成長しつつある。12月から3月までの長い冬の間に閉ざされる札幌において、これら三つのエリアが地下道で結ばれた意義は大きい。

生まれ育った家は札幌市中央区の山手に位置しており、木々に溢れる自然豊かな環境である。坂道を歩いて上って20分ほどで大倉山シャンツェ(ジャ

ンプ台)や荒井山スキー場に行くことができる。冬の日曜日の昼間にはよく父とジャンプ競技を見に行ったり、家においてもシャンツェからのスピーカー音やK点を越える大ジャンプへの歓声が冬の乾いた空気に響いていた。小学生の頃にはスキーを肩に担いで荒井山までの上り坂を歩き、何時間もゲレンデを滑り回った後にそのままアイスバーンの車道を滑り降りて家まで帰ってきたりもした。他にも近所には北海道神宮や円山公園、円山動物園などがあり子どもが遊ぶにはうってつけの環境だったように思う。ちなみに円山公園は札幌市の花見のメッカであり、ゴールデンウィーク時期が桜の見頃となる。肌寒い中、バーベキューセットを持ち寄って炭火をおこして皆どんちゃん騒ぎをしている。九州の人もそうだが北海道の人もよく酒を飲む。私も札幌を離れて間もないうちはゴールデンウィークに必ず帰省し、学生時代からの仲間との馬鹿騒ぎを毎年の楽しみにしていた。福岡と札幌で二回の花見ができることを皆



札幌時計台



羊ヶ丘展望台

にうらやましがられた。北海道の桜はエゾヤマザクラで、春の福岡市内に咲き誇る淡い桜色のソメイヨシノと比べると花弁は小ぶりですつと濃い色をしている。極寒の冬を耐え抜いて花を咲かせる力強さは感じるが、こと儂い桜の美しさという観点においては北海道最良の私も福岡の桜に軍配が上がることを認めざるを得ない。卒業式や入学式に桜のイメージが重なることも、福岡に来て初めて実感を持って理解できた。卒業シーズンの札幌はまだとても寒い雪が降ることも珍しくない。桜が咲くにはさらに一カ月余りの時間が必要である。

観光地としては他にも、赤レンガ造りの旧北海道庁、北海道大学の前身である札幌農学校の演武場だった時計台（がっかりスポットとしても知られるようだ。私は悪くないと思うが、その大きさは確かに絵葉書の印象よりもだいぶ小さく、周囲のビルに埋もれている）、のどかに羊が草を食む高台の牧草

晴らしく気持ち良い。市の中心部の札幌駅のすぐ裏手にあるにもかかわらず、ポプラ並木の横に大きな農場が広がり緑の中をトラクターが走っていたりする。北十九条の獣医学部の辺りには牛や馬などの鳴き声が響く。キャンパス全体が公園のようである。北大生協にはジンギスカンパーティーのセットが売られている。生ラム肉に野菜やジンギスカンのタレ、何とレンタルの七輪にジンギスカン鍋、木炭までセットになっているのである。広大なキャンパスの中でビルと共に頬張るジンギスカンは格別に旨く、春から秋にかけて研究室・サークル・部活のメ



旧北海道庁

地にクラーク像が建つ羊ヶ丘展望台、イサム・ノグチ氏設計のモエレ沼公園、日本ハムファイターズ本拠地の札幌ドーム等、見どころは幾つもあるが、私が9年間通った北海道大学のキャンパスも意外と人気の観光名所となっている。四季折々に様々な表情を持つキャンパスである。広々としたキャンパスに真っすぐ走るメインストリートが風が吹き抜けて素



北海道大学のポプラ並木



ポプラ並木横の羊



北海道大学の北13条門から続く紅葉の銀杏並木

ンパーが集まってジンパ（恐らくジンギスカンパーティーの略。北大では皆こう呼ぶ）をしている姿をいつでも見ることが出来る。秋には鮮やかな黄色に銀杏が色付き、ぎんなん特有のにおいが漂う。近隣住民と思しき人々が拾いに来たりもする。

ごすという話もあながち大袈裟ではない。ウィンタースポーツや雪まつりなど厳冬期ならではの楽しみも多い。熱々の味噌ラーメンの味もまたひとしおだ。私も冬の札幌が好きである。



札幌雪まつり

この風景を目にする頃には、札幌の街を通り抜ける風も鋭く冷たくなってきて、辺りには地元で「雪虫」と呼ばれるとても小さな白い羽虫が群れを成して飛び回るようになる。そろそろ雪が降る報せである。雪が積もるまでの11月から12月下旬頃までは雪混じりの雨が降りがちで、札幌が最も暗く冷えきる時期である。しかしクリスマス頃にもなると、決まって大雪が降り「根雪」と呼ばれる降り積もった雪が解けない状態になる。こうなると、積もる前と比べると不思議と寒さを感じなくなり（とはいっても寒いのだが）、夜でも街灯の明かりが真っ白な雪で乱反射して明るさを感じるようになる。冬は厳しけれど最も札幌らしい季節とも言えよう。雪国には厳しい冬をしのぐ知恵とシステムがきちんと蓄積されていて、それなりに快適に過ごせるようになっている。例えばよく聞く話かもしれないが、北海道の家は本当に暖かい。大きなストーブと断熱された家のおかげで真冬でも家の中ではTシャツ一枚で過



札幌味噌ラーメン

福岡ー札幌間は直行便が飛んでおり、2時間余りのフライトで北海道へ到着する。着陸態勢の機上から見え始める果てしない北海道の大地は、離陸時に眼下にあった福岡市街地とはあまりに様相を異にする。この土地を切り拓き150年ほどでここまで発展させた先人の力に感服する。今回久しぶりにゆつくりとふるさとに思いを馳せ、厳しくも鮮やかな四季に彩られる札幌の魅力を再確認した。今から年末の帰省が楽しみである。

2012年11月

*謝辞 素晴らしい写真を撮影し提供してくださった北海道大学大学院理学研究院 技術部の上野晃平氏と中村晃輔氏に心より感謝いたします。



冬の北海道大学キャンパス



札幌駅前通



雪の積もる札幌市内

福岡大学筑紫病院・福岡大学病院
で出会った三人の上司たち

福岡大学筑紫病院 看護部長 樋口 靖子

私は、福岡大学附属看護専門学校の7回生として卒業し、福岡大学病院で1年間、筑紫病院で18年間、福岡大学病院で9年間勤務した後、2012年度から筑紫病院の看護部長として勤務している。

29年間看護師を続けてきた今の私があるのは、これまで出会ってきた多くの人たちのおかげであるが、特に私自身のアイデンティティに大きく影響を与えた三人の上司について話をしたい。

院であった。しかし、そこで出会った師長は、子どももよくの沐浴でんぶよく、臀部浴でんぶよくを率先して行い、いつもスタッフに声を掛け笑顔で楽しく仕事をされていた。私たちスタッフは、師長の元気と明るさと患者さんに接するケアの姿勢に学ぶことが多く、「仕事が楽しい」と感じさせられた。かねてから心電図に興味を持っていた私に、ダウン症の子どもの心不全の管理や心電図管理を「あなたならやれるからお願ひ」と任せられることがあり、リーダーとして認められた気分になった。

私の意見を受け入れられていると感じることができ、自身の言葉で話すことが楽しく、地に落ちていた私の自尊心が救われた。後輩や医師に対しても、共に学び働く仲間として仕事をするのがとても楽しくなった。自己肯定感と、自己効力感を持たれた師長との出会いである。

二人目の出会いは、私が主任に昇任した時の小児

一人目の出会いは、看護師2年目の時の筑紫病院小児病棟の師長で、働き始めて初めて認めてくれた上司である。

宮崎から福岡に出てきて、看護学校では全く成績が振るわず、挫折感ばかりで、やっとの思いで卒業したが、なぜか希望どおり心臓外科病棟へ配属された。毎日、怒鳴られ、叱しかられながら必死に仕事を覚えた1年目だった。体温計を30本割る、手術当日の内服薬をあわてて準備する、病棟のメジャーを白衣のポケットに入れたまま持ち帰ってしまう、ガーゼ交換も手早くできず、人の5倍練習が必要と落ち込んだ。

そして心電図が読めるようになり、やっと心臓外科の看護師として楽しくなってきた1年目3月の深夜明け、筑紫病院への異動を告げられた。ようやく仕事にも慣れてきたのに、なぜ1年目の私が行かなければならないのだろうと、泣いて異動した筑紫病院棟師長である。主任になったばかりの時、医師から入院の依頼があったので「部屋が空いているのでいいですよ」と返事をした。そのあと師長に「あなたの立場は何ですか」と問われた。勝手に入院を決定してはいけない、何事も自分の立場をわきまえて、上司へ報告・相談しなければならぬと学んだ。師長・主任のペアとして2年過ぎたころから、病床管理を任せられ、さまざまなことに師長からエンパワメントされていると感じた。「あなたの立場は何ですか」この質問の本質は何だったのか、私に何を学ばせようとしたのか、組織とは何か、主任である私の責任、委譲された業務とは何かを考える機会となり、パートナーとなる主任の評価・承認をどのようにするのか、エンパワメントする意思決定の意味も考えられるようになった。

また、患者さんに誠実であること、患者さん中心の看護の大切さも師長の背中に学んだ。忘れられない場面がある。1歳の子どもに点滴が入らず、1時

間半が経過した。スタッフが点滴をスムーズに行えているのか気になり処置室を覗き込み、声を掛けるが医師はイライラし子どもは泣くのにも疲れていた。それを師長へ報告すると、すぐに処置室に入り医師へ「長くなると入る点滴も入りません。子どもにも休憩が必要です」と声を掛けると同時に師長は、抑制帯を外して子どもを抱きかかえ、処置室から連れ出してしまった。私は、子どもの血管は委縮し挿入困難な状態になっていることを理解していたにもかかわらず、声を掛けるだけでは動かない医師に対して遠慮し、アプローチができず、患者さんを中心に考えられなかった自分がいたと反省した。患者さんを大切にすることはどうか、ぶれない看護を行動に移す強さを教えられた。

三人目の出会いは、福岡大学病院へ異動後に私に副看護部長としての業務を任された看護部長である。「考えを発言する姿勢に期待している。私に意見し

さんと現場スタッフのことを思っている行動だから」と事務部門の課長へ助言してもらい、その後は円滑に業務を遂行できた。上司に信頼され仕事を任されていること、患者さんにとって大事なことへのぶれない本質が共に感じられ感謝と感動をした。

最近読んだコリン・パウエルの本に「どれほど優れた考えでも、それが優れているというだけでは成功することはない。優れた考えにはそのために戦う闘士がいなければならない。その考えを信じ、実現を目指すために、支持者を増やし、努力し、推進するそういう人が必要である」また、「理不尽な考えは、それが本質的に理不尽であるというだけでは消えない。理不尽な考えに反対して立ち上がり、戦う人がいなければならない。自らを危険にさらし、問題点を指摘して、心臓に杭を打ち込む人がいなければならない」と書かれていた。

てくれる存在と思っているので力を貸してほしい」と言っていた。信賴されていることを感じ、力不足ではないかと思ったが共に仕事をしたいと決心した。

副看護部長としての4年間は、電子カルテの導入、新診療棟開院などに関する全体的な説明、新病棟への患者移動の準備に追われ、多くの人の協力を得た。これらの業務を進めていく際、他部門、外来部門の業務に支障を来すことがあり、看護部長へ「調整後詳しく報告します」とだけ告げ対応に走った。夕方、報告すると、看護部長は叱ることもなく、「調整がついたのね。今後もよろしく」と声を掛けられた。上司が部下を信賴し待つ勇氣を感じた。また、同意書のコピーを患者さんへ渡すシステムが開始になる際、コピー機を勝手に移動させたことから事務部門に多大なる迷惑を掛けてしまった。患者さんのためにと思い行動したことであるが十分な意思疎通ができず対立してしまった。看護部長から、「患者

私が仕事の経験を積み上げていく中で、ターニングポイントで出会った三人の上司には、その時々々の立場で自身の足りない部分を気付かされ、成長させてもらったと感謝している。そして、部下を信賴すること、エンパワメントする上司の大きさも学んだ。言いたいことを言う生意気な部下であったが、エンパワメントされていることを意識できることで、自身で考え創造する面白さ、責任を取る覚悟を持って仕事に取り組む大切さも学ばせてもらった。

人との出会いは生きていく上でとても大きな影響を持つ。これからも人との出会いを大切に、自身の成長につなげていけたらいいと思う。そしてまた影響を与えられる人になれば最高である。

人と人とのつながり―絆―
教育開発支援機構事務課 今泉康代

さて、質問です。

「あなたにとつて生活を楽しむために必要なものは何ですか」と聞かれたら何と答えますか？ お金・経済力、趣味やスポーツ、夢や目標、情報機器やコンテンツ、食、等々、いろいろあると思います。ある調査によると「家族や友人、他者との関係」が1位となり、「人と人とのつながり」こそが生活に楽しさと呼び込んでくれるものと考えられる人が多かったそうです。

私が所属している「教育開発支援機構」はA棟地下1階にあります。2012年の4月に設置された新しい部署で、福岡大学における組織的かつ継続的な教育内容、教育方法等の改善を図る教育FD

身高校であることも分かり、驚きと同時に「福大の魅力」はこれだ!!と。「福大の魅力」は「福大の良いところ」はこの「人と人とのつながり」だと私は確信しました。

私が福岡大学に入職した最初の配属先は、「就職課（現・就職・進路支援センター事務室）」でした。配属されて3カ月後、福岡大学の学生の採用をお願いするため、また、採用状況の情報収集を目的に企業訪問をすることになりました。つい3カ月前までは、福岡大学の学生として就職活動を行う学生であった私が、今度は採用のお願いに行くようになるとは：想像もつきませんでした。初めて企業訪問をした日のことは今でも鮮明に覚えています。一社目の会社で「福岡大学 就職課 ○○○○」と書いた名刺をお渡ししているにもかかわらず学生と勘違いされ、「もう採用活動は終わりましたよ」と言われて、落ち込んだ気分です。次の会社に行った時のことです。その会社の人事担当者の方は福岡大学の卒業生

(Faculty Development) を推進するための全学横断的な組織です。この部署で私は、日々、「人と人とのつながり」を感じながら仕事をしています。

毎時限、先生あるいは学生の皆さんが、授業で使用する機材を借りに来ます。毎日、教育開発支援機構事務課には大量の落とし物が届けられ、学生が落とし物を探しに窓口にやってきます。単に機材の貸し出しあるいは忘れ物について返答するといった単純なことですが、必ず「一言二言」言葉を交わします。あいさつから始まり、季節の移り変わりに関する話、学内で行われている行事等々とたわいのない会話ですが、その中に「人と人とのつながり」を感じます。

ある日、学生が教室の鍵を借りに来ました。いつも元気にあいさつをし、きちんとした受け答えができると感じていた学生でした。あいさつの後、出身地の話になり私と同郷であることが分かりました。さらに話を進めていくうちにお父さまが私と同じ出

で、私が緊張していることを感じ取られたのでしよう。ご自身の学生時代の思い出話をされ、採用に関することはもちろんのこと、社会人として日々勉強であること等、いろいろな話をしてくださいました。その後も、本学の就職課に来られた際は声を掛けていただきました。一人の福岡大学卒業生として、福岡大学の23万5千人を超える卒業生とのつながりに感謝したことを思い出します。このつながりは約80年に及ぶ本学の長い歴史における大きな財産です。「人と人とのつながり」を福岡大学の学内で感じてもらえるのが教育開発支援機構に創られた「教育サロン」です。「教育サロン」の入口には次の言葉が書いてあります。

「ここは、福岡大学の人と人が「つながる」場所です。みんなが楽しくなる大学をつくるために、まずは「集まろう」。そして「語ろう」。さらに「広げよう」。福岡大学の「絆」

「教育サロン」は、学生および教職員が平等な立

場から自由に楽しく話し合える場です。私は教育開発支援機構事務課の事務職員として、学生の皆さんや教職員の方々の「気づき」の中から、福岡大学をより良いキャンパスにするための、充実した教育を実現するためのヒントを一緒に探すお手伝いができるばと思っています。

毎月テーマを決めて行っている「掲示板討論会」では、いろんな意見が出されています。皆さんも自分の考えや思いを伝えてみてはどうでしょう。ぜひ、立ち寄って、参加してください。お待ちしています。

年末に、一年の世相を表す漢字一字が、清水寺で発表されます。2011年の漢字は、「絆」であったことを覚えておられる方も多いと思います。「絆」が選ばれた理由は、東日本大震災で家族や仲間の尊い命が失われたことや、連絡が取れず不安な日々を過ごした体験が、あらためて家族・友達・地域の人々との「絆」の大切さを知り、希薄になっているといわれる人間関係に気づききっかけとなったから、

す。

どんなに多くの書物を読もうとも、学べないものがあると思います。人に対する思いやり、自分の感情をコントロールすること、人に自分の考えや思いを伝えること…。人とのかわりの中からこそ、より豊かな未来が創造されると思います。

かわりを成長へとつなげるためには、「信頼」「関心」「理解」「共感」が必要だといわれています。つまり、人から自分の存在そのものを認められ、共感し合いながら理解されるという過程があつてこそ、自分や他の人に対して向き合うことができると思います。人からの関心や共感を実感できるような機会や、共に育ち合えるという意味での「教育的な場が、福岡大学にはたくさんあります。

学生の皆さんには、誰かと、何かと必ずかわつていることを意識して、学生生活を過ごしてほしいと切に願っています。かわりが多ければ多いほど成長も大きいと思います。それをしっかりと支援で

ということでした。さらに、人と人、人と世界をつなぐ「絆」の力を感じ、それらをより強く、より身近なものにした「Twitter」や「Facebook」などの新しいツールが流行したこともあるのでしょうか。

また、本学の東日本災害ボランティア「福岡大学派遣隊」にも代表されるように支援の「絆」も生まれました。10月に教育サロン内で「学長のサロンタイム」が開催され、派遣隊の代表学生と衛藤学長が懇談しました。参加学生の声に「現地でできたことは微々たるもので、褒められるほどのことはできなかったかもしれない。しかし、福岡大学派遣隊として、さまざまな経験を積み、多くの仲間に出会えたことに感謝します。今回の活動の経験を忘れることなく、多くの人に伝え、未来へつなげる活動を続けていきます」とありました。これも本学の「絆」の証しです。この「絆」という言葉は、本学の創立75周年（2009年）のキャッチフレーズ「絆」新たに」に代表されるように希望の未来への言葉で

きるように一人の事務職員として携わっていきます。

これからさらに福岡大学が「人と人とのつながり」「絆」によって、「人をつくり、時代を拓く」、地域に開かれた、社会に信頼される大学になっていくものと信じています。



「学長のサロンタイム」の様子

魅力ある福岡大学での生活

商学部経営学科
2年次生

立石アルファ裕一

自己紹介

「キミ、おもしろいね」とよくいわれます。

「アルファ」という名前が珍しいからそういわれることも多いのですが、私が福岡大学の学生になる経緯や私の行っている活動を知った人の多くがこの言葉を口にします。

今回は私の入学までの経緯や活動について書かせていただきます。

名前は父の「外国人はミドルネームがある、日本人にもあってもいい」という考えで長男の私にはギリシャ文字の最初の文字「α」がつけられました。

2011年4月に社会人入試に合格して商学部経営学科に入学しました。先天性の二分脊椎症とい

部に所属して練習をしています。

福岡大学に入学する前

福岡大学に入学する前は不動産・建築会社で6年ほど人事・総務・経理の仕事に従事していました。

その傍ら、卓球の全国大会や国際大会に出場していました。これまでに何度か国際大会に参加して優勝したこともありましたが、全体的にまだ力不足だと感じていました。練習も週末だけという状況が続き練習不足の感はありませんでした。

入学の理由

そんな中で、2016年リオデジャネイロ開催のパラリンピックを目指そうと決意したのが2010年の末でした。そして福岡大学の社会人入試の制度を知ったのが2011年1月末ごろだったと記憶しています。福岡大学の卓球部は当時、全九州大会で男女1位、全国大会で団体ベスト8、

う病気の影響で両下肢・内臓疾患がありますが、中学生の時に部活を始めて以来今日に至るまで卓球を続けています。現在は2016年のリオデジャネイロで行われるパラリンピック出場を最大の目標に、全国大会や国際大会で好成績を収められるよう卓球



ジャパン・オープンではシェークハンドからのスマッシュが炸裂

個人種目でもベスト4に入っていました。施設だけではなく人的資源にも恵まれた練習環境でした。そして何より練習時間が十分に確保できる学生という身分がありました。練習環境の良さに加えて私は大卒資格を持っていなかったことも理由で福岡大学への入学を決めました。

当初は翌年に受験しようかと思っていたのですが、よくよく募集要項を見ると後期入試の申込期限まで1週間ほど余裕がありました。そこですぐに上司へ報告して、願書を取り寄せ、不安ながらも英語と論文対策を毎日大量に行い、何度も書いて入試本番に臨みました。今になっては笑い話なのですが、ある友人が私に「小論文は英語で出るよ」と言いました。その日から通勤時間に英語のCDをひたすら聴いていたのは言うまでもありません。入試当日、小論文の問題を見ると英文はどこにもありませんでした。

また入学願書などの書類は縁あって知り合いであった商学部の今野教授がすぐに準備してくださっ

たおかげで、日程的にうまく滑り込むことができました。今こうやって寄稿文が書けるのも、本はといえば今野教授のおかげなのです。

博多は昔から「大陸文化の入り口、交易の拠点として博多商人と共に栄えた都市」です。私は博多の歴史の掘り起こし・紹介活動をしている団体ハカタ・リバイバル・プランの一員でもあり、博多商人の子孫でもあります。この活動の中で、商学の知識の有無により理解度の深さに大きな違いが出ると感じました。いろいろ勉強してそれを下地に活動を進められたら、より深く人々に伝えることができると思っています。それが商学部を選んだ理由でした。

充実した環境

大学生になって2年弱、感謝と感心の連続で充実した大学生生活を送っています。第一に20代後半になりながらも大学生なわけですが、それを応援してくれる家族に感謝です。

私たちは通訳なしで派遣されるので、選手の中で英語ができる人間が一人はいないと国際大会への参加自体が成立しません。

英語の上達は必須ですが、新たに講座を受講していると卓球の練習時間が確保できません。そんな時に見つけたのが言語教育センター主催の「English Plaza」(以下EP)でした。平日の12時30分から14時30分、キャンパスにある文系センター・プラザ50の一角で行われています。座学ではなく、ネイティブの先生や学生同士で「実際に英語で話す・会話を」というスタイルで行われており、私にとって最適です。またEPに集まる学生は単に英語能力があるだけではありません。各人が目的を持っているからこそ集まるので、非常に意識の高い学生が多いと感じます。英語力には個人差がありますが、それに対して何か言う人は皆無ですし、むしろうまい人の会話についていこうと自然に奮起させてくれる雰囲気があります。またほかの講座を一緒

それから、同じ卓球部の部員に感謝です。部員同士の練習は当然のことかもしれませんが、今まで練習相手がいると聞けば県内あちらこちらに出掛けて行き練習をしていたので「時間になれば決まった場所です練習相手必ずいる」ということにありがたさを実感しています。

大学の授業も一度社会に出ているからこそそう言えることや、仕事現場では単なる与えられた作業でしかないと思っていたことの本来の意味が理解できるようにになりました。このような授業はとても面白さと魅力を感じます。

意識の高い学生たち

私にとって今後国際大会で必須となるのが英語力です。国際大会では英語が使用され、各国代表者ミーティングでは2時間以上ひっきりなしに英語が飛び交います。対戦組み合わせの作成、国際ペア組み合わせの交渉、各種連絡事項、書類等すべて英語です。

に受講したり、EP終了後も残って勉強に励んだりして切磋琢磨している姿もあります。

EPでは文系・理系に限らず、夜間部生・院生・留学生もおり、学部・学科や学年を超えた交流を深めることができます。さらに学生主導で企画されるイベントも多くあります。EPは単に英語力を付けるというだけでなく、各人の成長にとっても良い場であると思います。私も負けてられない、と刺激を受けます。

講演会

福岡大学に入ってから2年目となりますが、毎年高校の人権学習の一環として高校生に講演をしています。2011年は博多清松高校、2012年は女界高校で講演を行いました。どちらの講演でも自分の体験を基にした「障がい」について話すのですが、私が毎回言うことは一つです。「いろいろなメガネを持ちましょう」ということです。メガネは毛

ノの見方・考え方のことを指します。一つの物事でも捉え方はさまざまです。いろんな視点で物事を捉えられるようになれば、相互理解も進み、ひいては障がいに対しては障がいが進むのではないかとこの考えが根底にあります。

私にとってこの講演は非常にうれしいことです。なぜなら、私にとって障がいというものは、それまでマイナスとしてしか考えられませんでした。しかし、障がいがあるがゆえに講演の機会を頂き、人の役に立てることができています。講演会は自分の中



玄界高校での講演の様子

見えない真実

福岡大学附属大濠高等学校 1年生

荒巻 瞳

現在日本の食品を輸入規制している国があるという事実を知っていますか。韓国や中国でも一部の日本産食品は輸入停止だそうです。

きっかけは、2011年3月11日に起きた東日本大震災です。この時、福島県の原子力発電所も被害を受け、さらに爆発事故まで起き、放射性物質が大気中に拡散されてしまったのです。近辺の水や土壌までもが放射線に汚染されました。また、原発付近に住む人々は避難を余儀なくされました。

千葉に住んでいた私の4歳のいとこも震災後、四国に避難しました。地震への恐怖と放射線による水道水の汚染などから逃れるためです。今も千葉には戻っていません。まだ安心して住める環境ではない

で、障がいをプラスとして捉えることができた初めての出来事だったのです。

おわりに

福岡大学での学生生活には入学前に私が想像していたよりも多くの魅力的な資源や機会があり、その恩恵を存分に享受しています。このように感じるのは、私が社会人経験後に大学で学んでいるということが大きいと思います。しかし、何と云っても多くの魅力があるのは事実です。私は在学中に自分に役に立つ資源を積極的に活用して一層充実した学生生活を過ごそうと思います。そして同じ福大生にも大いに大学生活を充実させてほしいと思います。

今回この寄稿をさせていただいたことも充実した学生生活の1コマです。あらためて充実した学生生活を振り返って、そのことに感謝しつつ筆をおきたいと思います。

からだそうです。しかし、その父親である私の叔父は仕事の都合上まだ千葉に住んでいます。そのため私の両親や祖父母が叔父に九州産の水や食品を送っています。そんな様子を見て、放射線と食には、いったいどのような関係があるのかもっと知りたいと思いました。

そこで、福島での事故以前に旧ソ連で起きたチェルノブイリ原発事故について調べてみました。この事故は、今から26年前に起こり、史上最大のものといわれています。事故後、放射線に汚染された食品を食べたことが原因と思われる、がんや白血病などのさまざまな健康被害が明らかになってきました。その被害に苦しむ人々が今もなお増え続けているそうです。また、事故が起こった後しばらくの間は、障がいを持った子どもが例年より多く生まれてきたそうです。

なぜこのようなことが起きるのでしょうか。現在分かっているのは、放射性物質を体に取り込むとほ

とんどがすぐには排出されず、体内で放射線を出し続けるということです。放射性物質をため込むと、子どもを授かったとき、母体を通じて胎児にも放射能の影響が及び、何らかの障がいを持つ子どもの生まれる確率が高くなるそうです。このように、放射能は一代だけの問題ではなく、次の世代にもその次の世代にもかかわる問題なのです。私はこの事実を知って、大変恐ろしく感じました。

チェルノブイリの事故と福島を単純には比較できない、という人もいます。しかし放射性物質がまき散らされたという事実は変わりありません。私たちはチェルノブイリの事故から学べることを学び、それを生かすべきだと思います。

現在日本では、放射能による汚染の可能性がある食品が回収しているかもしれませんが、もちろん基準があり規制はかけられています。ただ、それらは世界が驚くほどとても緩いのです。例えば、ヨウ素という放射性物質の飲料における規制値は、国際法で

なかった以上、できることを早急に進めなければなりません。例えば、次のようなことが考えられます。抜き取り検査ではなく全品検査をすること。情報公開を徹底すること。食に携わる人々や企業に、事故によって受けた損害や今後の対策にかかる費用を補償すること。また放射線被害は一瞬で終わるものではなくずっと続いていくものなので、補償も継続していくべきでしょう。さらに、食品関係の企業や農家の方は自分で調査を行ったり対策を練ったりすることも大切だと思います。

そして、政府やメディアはもっと積極的に情報を提供すべきだと思います。

私は昨年の夏休み、福島県や岩手県の高校生と出会い、話す機会がありました。彼らに食について聞くと、安全なのかどうかは自分たちも分からない、と言っていました。安全かどうか分からないけれど、親戚で農業や漁業を営んでいる人が多いから、事故前と同じように地元のを食べている、と話して

定められた原発の排水基準を大きく上回っています。それだけ、「放射性物質が含まれていてもよい」と、日本政府が判断したことを意味しています。市販されている食品の産地も、以前に比べると記載されているものも増えてきましたが、表示されていないかたまり曖昧あいまいにされたりしているものもまだあります。本当に安全なのか分からない、だから日本の食品は外国で輸入規制されているのではないのでしょうか。

私はこの現状はおかしいと思います。私たち日本国民が普通に口にしているものを、外国では、危険かもしれないと輸入規制しているのです。このまま私たちは何の疑いもなく日本産の食品を食べ続けても大丈夫なのだろうか、健康な体で生きていけるのだろうか、と心配になります。

では、国民がすべての食品を安心して食べるためには何をすべきでしょうか。本来なら事故直後に、国や関係企業は、被害調査や流通規制など迅速な対応をすべきだったと思います。しかしそれがなされ

いました。何より、地元では放射能のことを安易に口に出せるような雰囲気ではないそうです。提供される情報が少ないから本当のことが分からなかったり、情報がかえって風評被害を招く、といわれることもあるようです。将来を担う若者が意見を言いたい、こうした雰囲気も改善すべきでしょう。確かに安全なものもあると思いますが、安全でないものもある、ということを私たちみんなが知っていないかもしれません。

ただ、ここで問題があります。それは消費者も政治家も食品にかかわる方も放射能に関する知識が少ないということです。対応が遅れているのもそのためでしょう。私は大濠高校に入学し、中学校とは比較にならないほど多くの人に出会いました。多くの人に出会い、多様な考えに触れることができています。その一方で、私は放射能の本当の恐ろしさを知らない人が多いと感じました。国全体を挙げて、放射能や放射能が食品に与える影響について、知識

を得る機会を増やすべきだと考えます。

残念ながら、私たちは安全な食品ばかりに囲まれているわけではありません。その上、食の安全という真実は見えないのです。真実を知るためには、多くの情報と自ら判断する力が必要です。そして、真実を知りたい、という気持ちを常に持つことが大切だと思います。

震災後、日本各地で放射能についての勉強会などが開かれるようになりました。情報を得ようと、そのような勉強会などに参加している人もいます。これからの日本を創っていく私たち高校生は、自分たちが生きていく社会に関心を持つべきだと深く感じます。学生団体を立ち上げたり、それに参加したりしている高校生もいます。何かアクションを起こすことも大事とは思いますが、まずは身近なものに目を向け考えてみることも必要だと思います。

東日本大震災とそれに伴う福島原発事故を経験した日本。これからの日本が担う役割は何でしょう

インターネットとどう付き合うか

福岡大学附属若葉高等学校1年生

讚井香純

近年、デジタル化が一層進み、さまざまなことがインターネットで素早くできる便利な世界になってきています。

デジタル化のメリットといえば、何より情報が速く、どこにでも伝わることでしょう。オンラインショッピングでは多くの商品を比較・検討することが容易にでき、支払いまでインターネット上で済ませることができます。調べたいことのキーワードさえ検索画面に入力すれば関連した情報がごろごろと表示されます。そして、何年かごとに改訂されていく辞典とは違い、内容は常に最新版です。さらに、メールは文章を書いて送信すると、インターネットの環境さえ整っていれば、何分とわからないうちに

か。復興のすべてがうまくいっているわけではないし、まだ終わったわけでもありません。放射能がかわっているのでそう簡単にはいかないことも確かです。しかし、そのような経験をした日本だからこそ得ることのできた知識や技術があると思います。それを世界に発信すべきだと思います。

震災後、たくさんの国が日本に救いの手を差し伸べてくれました。それに応える取り組みを進めるべきでしょう。その第一歩として、生活に必要な不可欠な食品、その安全に目を向け、考えてみませんか。

地球の反対側にいる人にだって届いてしまいます。

インターネット電話サービスを使えば、低価格で世界中の人と通話ができます。私もそれを使って、ベトナムに留学している姉と頻繁に連絡を取り合っています。遠く離れていても常につながりを持っていることで安心感を覚えている人もいます。ほかに、情報のやり取りに紙などの資源を使わないことも利点として挙げられます。最近では、スマートフォンやタブレット端末で読むことができる電子書籍というものが売り出されています。紙を使った書籍とは違い、何冊持ち運んでも重さは変わらず、売り切れることもありません。さらに、環境問題が深刻になってきている昨今、紙を使わないのは大きなメリットでしょう。

しかし、デジタル化にもデメリットはあります。まず、やり取りされる情報に実体がないことが挙げられます。よって契約書などの重要な書類では、直に名前を書いて捺印をするという手順を必ず踏みま

す。これは、人が実体がないことに不安を覚えているからだろうと私は考えています。また、情報の発信元が不確定の場合が多いため、扱われている情報の責任の所在がはっきりとせず、真偽が分からない場合があることも挙げられます。一般のインターネット利用者が、飲食店などのサービスについて評価を付ける口コミサイトでは、来店者を増やしたい飲食店がある業者に依頼し、自身の店に高い評価を付けさせている場合もあるようです。ほかには、電子ウイルスやサイバー攻撃によって情報が流出しやすいといったデメリットも挙げられます。つい最近では、「ウイルスを感染させて乗っ取られたパソコンによって犯罪予告が行われ、そのパソコンの持ち主が取り調べを受けていた」というニュースが話題になりました。新聞を読んでも「ある会社がサイバー攻撃を受けて顧客情報が流出した」という記事は珍しくありません。

一方、デジタルの対比として一般的に古いものは最近ではインターネットが子どもに害を与えるとして、子どものインターネット利用を制限しようとする動きがあります。果たしてこれは正しい対処と言えるのでしょうか。

今の若い世代はデジタルネイティブと呼ばれると思います。具体的な年代は定められていませんが、生まれた時からインターネットに触れてきた世代のことをそう呼ぶそうです。この世代によく見られる特徴として、情報を無料だと思っていることや、インターネットの世界と現実との区別がつかっていない人が多いことが挙げられています。音楽などの違法ダウンロード問題や、ネット依存はここから来るものとも考えられます。違法ダウンロードは著作権を侵害しているとして2012年10月から二年以下の懲役、または二百万円以下の罰金という刑事罰が課せられるようになりました。また、オンラインゲームにのめり込むあまり、親にしかられ自殺した子どももいました。数年前には、ネット掲示板で注目を集めた

アナログと呼ばれ、「古い人」といった意味合いの「アナログ人間」という言葉も使われ始めています。このアナログのメリットを挙げるなら、温かみがあることだと私は思います。手紙を例に言えば、書かれた文字には差出人の個性が表れていて、使われる便箋にはその人のセンスが感じられます。抽象的なことですが、いくら電子メールが普及しても郵便はなくなっていないのですから、これも人には大切なこと、必要なことなのだと思います。デメリットとしては、手紙では伝わるのが遅いことでしょう。日本国内でも届くのに、平均2日程を要します。目まぐるしく発達するデジタル化はとても便利です。しかし、アナログにしか果たせない、デジタルではどうしても埋めようがない大切なことがあるように私は思います。私たちは、このことを理解した上で、各々の特性や相手にどう感じてもらいたいかなどを考えて使い分ける必要があると思います。

そのため、放火や動物虐待事件を起こした事例もあります。それほどまでにインターネットの世界、言ってしまうえば架空の世界が実生活と同等、またはそれ以上の価値を持つと考えてしまう人がいるのが現状のようです。

そのような若者の行動を制御すべき親世代はというと、インターネットに詳しい人もいれば、全く使わない人もいて、知識量に大きな差があると思います。私の母親は全くインターネットには触れませんが、父親は仕事で使うこともあって基本的なことは知っています。しかし、若者の中で流行っているSNSなどについてはあまり知識がないようです。若者の流行にまで精通している親というのは珍しいのではないのでしょうか。インターネットに関する知識が子どもより親の方が少ない、このことがネット依存といった社会問題を引き起こしている一因だと私は思います。インターネットとの付き合い方を教えるなければならない親が、実は教える程の知識がない

ことから、いつそのこと取り上げてしまえと考えてしまいます。インターネットに触れた人ならその便利さは手放し難いものですし、今は触れたことがない人であっても、将来的にはその便利さに必ず触れることになるでしょう。社会がインターネットを前提とする時代が変わってしまうことを考えると、私は子どもにトイレの仕方、箸の持ち方を教えるように、小さいころからインターネットに少しずつ触れさせていくべきだと思います。少なくとも、インターネットは特別な世界でも何でもないということ、正しい知識を伝えることで教えていくべきだと思います。

私は、3歳からパソコンに触れていて、インターネットを使い始めたのは5歳のころという完全なデジタルネイティブです。電子メールはもちろんよく利用し、オンラインゲームをすることもあります。しかし同時に、3週間に一通のペースで手紙のやり取りをするというアナログを好む一面もあります。

は世界なんていうものではなく、あくまでも道具であり、自分がコントロールできるものにすべきだと思います。

手紙の相手は、3年前に私が山梨に住んでいた時の同級生で、お互いのメールアドレスも知っているのに電子メールでのやり取りができないわけではありません。急ぎや短い内容であれば電子メールを使います。しかし、この手紙だけは欠かすことのできないもので、同級生とは思えないほどの美しい字を見ると「相変わらず、すごいなあ」と感心してしまいます。手紙の相手は、私が書いた読めはするものさしいとは言えない字を見て「へなちよこな字だなあ」と笑っているでしょう。そんなことが大事なのだと思います。

インターネット上の情報量は膨大ですが、それは人がつくったものであり、人が介する以上そこには善意も悪意も、そして真実も虚偽も散りばめられています。情報を単に享受するだけでは情報に踊らされてしまう危険が高くなります。自分に必要な情報は何か、嘘か真か、を見極めて、選択していくことが必要です。私は、インターネット上に広がるもの

倭寇的視野とコミュニケーション精神

— 歴史から学ぶグローバルな実験としての福岡大学
「福岡・東アジア・地域共生研究所」

地域ネット推進センター委員
福岡・東アジア・地域共生研究所長（人文学部歴史学科教授）

星乃 治彦

領土問題が注目されている。深刻な問題だ。ただ、歴史家は言うだろう、どちらのものでもないよ、って。「境」ができたのも、その下に眠る地下資源、漁業権への着目、そしてそれを管理する「国家」が登場したのもつい最近の話で、それまでは台風が来ればこの漁民でも風

よけとして寄っただろうし、漁業の足場で掘っ立て小屋を建てたかもしれない。

たまたま中国のデモの映像を見てみると、今回の事件が「倭寇」である、とするプラカードが目に入った。倭寇は、室町時代に中国や朝鮮半島を荒らし回った海賊である。国家が貿易

を独占しようとして明は海禁政策を取り、国家が許容する日明貿易だけが展開されていた。だが明の力が衰えてくると、私貿易が台頭することになる。私貿易とは聞こえがいいが、話がまとまらないと暴力沙汰またになり、海賊行為に及んだ。これが後期倭寇だった。こうした後期倭寇

は日本人だけによって編成され

たわけでもない。中国から、朝鮮半島から我よ我よと集まった海を自由に回遊する人たちの各国混成チームだった。有名なその頭目は、五島列島を中心に活動した王直というれっきとした中国人である。

越えたと言えなくもない。

彼らが水先案内人となって西洋人が日本に來航することができるといふ事実は面白い。倭寇は、何と自由なことか！「境」にこだわって反目したり、殺し合ったりしている近代人が小さく見える。この倭寇の日本での拠点の主には五島、対馬、壱岐などを中心とした九州だとすると、国民国家を前提とした一國史では見えない「九州—東アジア」という枠の歴史の登場であり、これがこのところ、歴史家が取り組んでいる国民国家を相対化する作業の一例である。

家」という枠に代わって登場する新たな枠組みが「地域」という概念である。ただ、この地域は二様に理解される。一つは東アジアといった area 大きな地域であり、もう一つは福岡といった local 小さな地域である。

倭寇は自分たちの間で独自のコミュニケーションとコミュニケーション網を持ち、私貿易を展開していたらしい。海賊行為があまりにもひどく、明は頭を悩ますことになるが、そもそも国家的管理ができるはずもなく、倭寇は明を滅ぼす一因となるほどであった。見方を変えれば、倭寇は国家的思惑を自由民が乗り

こうして相対化される「国

大小の空間概念の組み合わせとしては、「グローバル (global) に考え、ローカル (local) に行動する」と度々言われ、グローバル (global) という造語も使われることがあるが、確かに、視野は東アジアであっても、足場は local であって、特に生活の場としてはコミュニケーションと

の小さな「地域」が今、危ない。

医療の現場においては、小児科や産婦人科の分野で都市でも医師の数が足りないし、専門医を求めらるならば、13万人の人口を抱え、潜在的に数千人の糖尿病患者がいるとされる福岡市城南区に専門医は2〜3人というお寒い現状である。また、郊外に展開する中央資本が繁盛する一方、地元商店街がシャッター通り化すれば、地域の富は中央に吸い上げられるという構造が定着し、地方はますますやせ細っていくしかない。何とか富の流出を止めようというのが地域通貨の発想だろう。さらに、集中豪雨、台風、地震など自然

だが、現在提起されている社会問題にしても、個人では何も解決しない。

私は福岡市の男女共同参画審議会に関与しているものの、この問題一つとっても、なぜ女、男の問題、せいぜい家族だけが問題とされるのか不思議な気がする。かつては地域に豊かな包容力があつたはずである。個人的な過去の経験からしても、隣のおばちゃんから叱られたこと、おじちゃんに優しくされたことが、引きこもりもなかった一つの原因だったのかと、今の学生と話をしている思い返す。ベタベタしない、地域の大家族が求められているよ



別府校区「記憶プロジェクト」公民館・地域住民と協働して校区の「記憶」を収集・保存する

災害が多い九州にあつて防災も重要な課題の一つ。こうした山積する地域の問題を解決しようとするとき、もはや財政難にある行政にすべてを期待することはできない。やはりここでも、「地域」にしっかり根を張るネットワークが必要なことはすぐに分かってくる。だがそれを

うな気がしてならない。

特に歴史などをやっている、乳母制度とか、先人たちの知恵など豊かな過去に合点がいくことが多い。ポストモダンの風潮の中、この点でもどうしても近代批判になりがちだが、どうにかならないかと焦るとき、地域の潜在力をもう一度見直すことになる。地域の潜在力を発掘したり、地域連携協定とかいった連携を組み立てたり、「地域」メカニズムを解明していけば、何とか問題解決の糸口が見えるだろうが、立ち向かう私たちの研究所の課題は山積していて、途方に暮れそうになる。だが、これ以外の道はない。文部科学

どのようにつくっていくのだろう。

問題に取り組む人の共通見解では、やはりこうした「地域」のネットワークの復権に期待する声が大きいのもの、とかく「自己責任」など、「個人」に還元されがちである新自由主義のご時世、すべてを「個人」に還元する傾向は根強い。特に、近代日本にあつて、村落共同体は、「個人」の自由を封殺する悪人の役割をあてがわれ、壊されそうな個人を救うために共同体が目撃にされてきた。こうした近代主義的「個」の問題でも、早くから本家ヨーロッパでも孤独、疎外現象の問題にされてき



福岡大学と5市町（糟屋町、太宰府市、筑紫野市、筑前町、那珂川町）との地域連携協定の調印 2010年1月30日

省にしてもCenter of Community(COC)としての大学の機能に注目し、期待しているらしい。倭寇の視野とコミュニケーション精神を持って一歩一歩進めていくしかなさそうだ。

キャンパス内にある法律事務所

福岡リーガルクリニック法律事務所（弁護士法人福岡リーガルクリニックセンター 福岡県弁護士会所属）は、2010年4月に、福岡大学法科大学院が中心となって、学内（60周年記念館・5階）に開設された弁護士事務所です。

医師を目指す医学部生が、実際の医療現場に参加して医療を学ぶように、法曹を目指す法科大学院生が、弁護士の監督と指導の下に法律相談や事件処理に立ち会って、実践に即して法律を学ぶことをイメージし、いわば「法律版の大学病院」を目指して設立されました。

このため、キャンパス内にあるとはいえ本事務所は、町にある法律事務所と同様、民事・刑事を問わずさまざまな事件について、法律相談や事件処理の依頼に対応しています。

また、地元法律事務所がない地域の方々のために、福岡市城南区と南区の自治協議会と協力し、各公民館で無料法律相談会を実施する活動も行っています。

なお、本事務所では、福岡大学の学生・保護者・教職員の法律相談に弁護士が無料で応じています（事前予約制）。相談の種類は問いません。当然、秘密は厳守されます。

あれこれ思い悩む前に、お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先

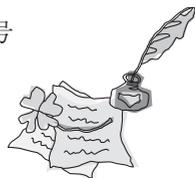
福岡リーガルクリニック法律事務所

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号

60周年記念館（ヘリオス）5階

TEL 092-874-9292〔内線4881〕

E-mail fukuoka-legalclinic.lo@nifty.com



学生の夢と未来を「卒業生」「ご父母」「職員」の“絆”で支える ～ 福大生サポート募金 ～

「福大生サポート募金」は、「学生のために」という視点を基本とし、本学の学生の教育、学習および生活に関する支援に必要な資金を募るために、2011年6月から寄付金募集を開始しました。

寄付金の使途は、多様な学生支援の中から次の5つを設けております。

- ①経済的な理由から学業継続に支障がある学生を支援する「給費奨学金」
- ②海外で学ぶ“外向きな”学生を応援する「海外大学派遣」
- ③“福大人”の愛校心を高める「スポーツ強化」
- ④人間性を磨くサポートシステム「福大生ステップアッププログラム」
- ⑤その他、学生の教育、学習および生活に関する支援事業

この募金は、末長くご支援いただくことにより、寄付者（卒業生、ご父母、職員等）が学生を「育てる」「支援する」制度です。また、福岡大学および在学生と寄付者との“絆”をより一層強め、本学独自の寄付文化を醸成することも目指しております。

ご寄付は任意のものではありますが、金額の多寡にかかわらずご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

お問い合わせ先

募金事務室

〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号

TEL 092-871-6631(代)〔内線2120～2122〕

FAX 092-871-6826

E-mail bokin@adm.fukuoka-u.ac.jp

福大生サポート募金ウェブサイト

<http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu854/bokin/>

※平成25年4月から、業務およびお問い合わせ先は財務課へ変更になります。

福岡大学校歌

作詞/狩野 満 作曲/飯田 信夫 編曲/平井 哲三郎

ちくしのーはーげーんかいのしお ざいはるかせぶりね
 とうときーはーもーゆるひのあつ きいのちかけいせい
 ゆかしきーはーじーゆうなるがく のほこりかゆうじょう

をーゆび さすとこ ろーう つーくーしーきーわれ
 のーはた かざしつ つーた くーまーしーきーわれ
 のーわか くさもえ てーた とーうーべーきーわれ

ら がほこ うわれ らがりそ う みちこそは け
 ら がほこ うわれ らがほ う ゆめこそは お
 ら がほこ うわれ らがほ う と きこそは や

わしかれ ひ とらし きーひと にある べくーか
 おいなれ あ たらし きーつち ふと みしめ にーは
 がてゆけ う つろわ ぬーまこ をむね にーは

が や け る あ す をのぞみて わ かーきーひーのーきよ
 な う は る にはよわじ ゆ たーかーなーのーあ
 ど い あ う きょう をうたわん ひ らーけーゆーくーあ

うをまなば ん
 きをいのら ん
 すをうたわ ん

一、筑紫野は
 北海の汐ざいはるか
 背振ねを指さすところ
 うつくしきわれらが母校
 道こそはけわれらが理想
 人らしき人にあるべく
 輝ける明日を望みて
 若き日の今日を学ばん

二、とうときは
 もゆる火の熱きいのちか
 経世の旗かざしつ
 たくましきわれらが母校
 夢こそはたいなれ
 あたらしき土ふみしめて
 花散ろう春には酔わじ
 ゆたかなる秋を祈らん

三、ゆかしきは
 自由なる学のほこりか
 友情の若草もえて
 讀うべきわれらが母校
 時こそはやがて逝け
 うつろわぬ誠を胸に
 つどいあう今日を歌わん
 ひらけゆく明日を歌わん

学校法人福岡大学が「AA-」(ダブルA マイナス)の格付けを維持

学校法人福岡大学は、外部評価の一環として、株式会社格付投資情報センター(R&I)から、今年度で9回目となる格付け評価を受けました。その結果、昨年に引き続き発行体格付け「AA- (方向性は安定的)」を維持しました。「AA-」は、21段階ある格付けの上から4番目の高い評価であり、本学の歴史や伝統、健全な財政運営に基づいた教育・研究・医療におけるさまざまな取り組みが総合的に高く評価されたものです。

格付け取得の目的は、学校法人福岡大学の信用力を自ら確認し、教育・研究・医療活動の維持・向上につなげることにありました。今後は、この評価結果を下記のように活用していきたいと考えています。

1. 学校法人福岡大学の信用力、財務の健全性、将来性を判断する指標として、学生・生徒、保護者、卒業生、受験生などに開示し、ブランド力の向上に生かす。
2. 信頼度の高い第三者による評価結果を、時代や社会の期待に応える学園づくりに生かす。

本学は、今後も教学と経営の一層の充実に努め、教育力の高い魅力ある学園づくりを目指します。

大学基準協会の定める「大学基準」に「適合」

学校教育法により、大学はその教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営および施設設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関(認証評価機関)の実施する評価を受けることが義務付けられています。

そこで、本学は、2007(平成19)年度に実施した自己点検・評価活動に基づき、平成20年度に大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受け、平成21年3月12日付で同協会の定める「大学基準」に「適合」していると認定されました。認定期間は2009(平成21)年4月から2016(平成28)年3月までとなります。

本学は、認定とともに受けた助言(26項目)・勧告(1項目)事項に対する改善を行い、平成24年7月末日に同協会へ「大学基準協会大学評価結果に対する改善報告書」を提出しました。

※『福岡大学の現状と課題(2007年)―福岡大学自己点検・評価報告書―』ならびに「福岡大学に対する大学評価結果ならびに認証評価結果」については、本学公式ホームページに掲載しています。

情報発信

福岡大学
公式ウェブサイト



福岡大学公式ウェブサイトでは、ステークホルダーに向けて、日々最新情報を発信しています。サイトには新着情報収集機能（RSS）を備えており、発信情報をリアルタイムで確認することができます。<http://www.fukuoka-u.ac.jp/>

大学案内



受験生およびそのご父母等、さらに高校教師を対象に作成している広報誌です。大学の概要や入試情報を掲載し、年に1回発行しています。
(A 4判約230ページ)

学園通信



在学生・ご父母・高校・地域の皆さま・教職員等を対象に作成している広報誌です。年4回（4月、6月、10月、1月）発行。大学の現況や学生の活躍などを掲載しています。皆さまに広くご覧いただいています。
(A 4判44ページ)

大学要覧



広く一般の方を対象に作成している広報誌です。大学全体の概要を分かりやすくコンパクトにまとめ、本学の財務状況など各種数値データも掲載しています。
(A 5判約80ページ)

『七隈の杜』 第9号
福岡大学創立70周年記念事業誌
2013（平成25）年1月31日発行
編集 福岡大学広報課
発行 福岡大学
福岡市城南区七隈八丁目19番1号
TEL 092-871-6631（代）
fupr@adm.fukuoka-u.ac.jp
<http://www.fukuoka-u.ac.jp>

『七隈の杜』に対するご感想、ご意見をお寄せください。